

令和4年度

岩手県立博物館
年報

岩手県立博物館令和4年度年報



企画展「赤色に宿るチカラ」
令和4年6月11日（土）～8月21日（日）

目で見ると岩手県立博物館この1年



トピック展 始祖鳥-しそちょう-
令和4年4月6日(水)～5月8日(日)



第2回写真コンテスト「私の岩手山」
令和4年4月22日(金)～5月31日(火)



トピック展 くらべてみよう！きたかみ川の五大ダム
令和4年4月23日(土)～5月29日(日)



トピック展 昭和のキャラクター大集合
令和4年5月1日(日)～常設



国際博物館の日記念 県博バックヤードツアー
令和4年5月15日(日)



第83回自然観察会
令和4年5月29日(日)



企画展 赤色に宿るチカラ展示解説会
令和4年6月19日(日)



第83回地質観察会
令和4年7月3日(日)



企画展 赤色に宿るチカラ関連講座
令和4年7月10日(日)



トピック展 岩手と世界のカブトムシ・クワガタムシ
令和4年7月18日(月)～9月30日(金)



トピック展 日戸遺跡～姫神山麓の縄文集落～
令和4年7月23日(土)～10月30日(日)



平舘高等学校との博学連携プロジェクト
倉沢人形歌舞伎伝承館の見学と操り人形実見
令和4年7月28日(木)



教員のための博物館の日
令和4年8月5日(金)～8月6日(土)



ナイトミュージアム
令和4年8月5日(金)～8月6日(土)



館園実習

令和4年8月18日(木)～8月25日(木)



民俗講座 I たいけん!むかしの暮らし

令和4年8月20日(土)



全館くん蒸

令和4年9月1日(木)～9月10日(土)



全館くん蒸

令和4年9月1日(木)～9月10日(土)



エアタイトケース納入

令和4年9月13日(火)



テーマ展 水辺の生きもの

令和4年9月23日(金)～12月4日(日)



テーマ展 水辺の生きもの

令和4年9月23日(金)～12月4日(日)



テーマ展 水辺の生きもの

令和4年9月23日(金)～12月4日(日)



トピック展 琥珀のかがやき
令和4年10月1日(土)～10月30日(日)



展示替え むかしのくらし大図鑑(冬)
令和4年10月4日(火)～令和5年3月31日(金)



秋のまなび教室 生きもの探偵
令和4年10月8日(土)



秋のまなび教室 ときのけんきゅう
令和4年10月8日(土)



秋のまなび教室 ミニミニ縁日
令和4年10月9日(日)



秋のまなび教室 侍になろう!
令和4年10月9日(日)



トピック展 どんぐりいろいろ
令和4年10月9日(日)～12月11日(日)



文化講演会
令和4年10月23日(日)



民俗講座Ⅱ たいけん！むかしのくらし
令和4年10月23日(日)



考古学セミナー
令和4年10月30日(日)



第84回地質観察会
令和4年10月30日(日)



ミュージアムコンサート
令和4年11月20日(日)



第84回自然観察会
令和4年11月23日(水)



トピック展 冬のケモノ大変身！
令和4年12月13日(日)～令和5年4月9日(日)



テーマ展 新収蔵・新指定展Ⅰ 文化史編
令和5年1月7日(土)～2月26日(日)



テーマ展 新収蔵・新指定展Ⅰ 文化史編
令和5年1月7日(土)～2月26日(日)



テーマ展 新収蔵・新指定展Ⅰ 文化史編
令和5年1月7日(土)～2月26日(日)



文化財等取扱講習会
令和5年1月26日(木)～1月27日(金)



文化遺産防災マップ運用研修会
令和5年1月27日(金)



平館高等学校との博学連携プロジェクト
成果品引渡し式
令和5年2月2日(木)



ミュージアムショップの様態替え
令和5年2月11日(土・祝)



ミュージアムショップの様態替え
令和5年2月11日(土・祝)



テーマ展 新収蔵・新指定展Ⅰ 文化史編展示解説会
令和5年2月12日(日)



テーマ展 新収蔵・新指定展Ⅰ 文化史編関連講座
令和5年2月26日(日)



トピック展 ひな人形
令和5年2月23日(木)～3月31日(金)



館内調査研究報告会
令和5年2月27日(月)



地質情報展 2023 いわて
令和5年3月10日(金)～3月12日(日)



ワクワク!子どもツアー
令和5年3月22日(水)～3月31日(金)



テーマ展 新収蔵・新指定展Ⅱ 自然史編
令和5年3月25日(土)～5月7日(日)



テーマ展 新収蔵・新指定展Ⅱ 自然史編
令和5年3月25日(土)～5月7日(日)



テーマ展 新収蔵・新指定展Ⅱ 自然史編
令和5年3月25日(土)～5月7日(日)



テーマ展 新収蔵・新指定展Ⅱ 自然史編展示解説会
令和5年3月26日(日)

目次

目で見る岩手県立博物館この1年	前付
1 沿革	3
2 施設の概要	
(1) 建築の概要	6
(2) 施設配置図・展示室等平面図	6
(3) 各室面積表	7
3 博物館協議会	8
4 予算	9
5 事業の概要	
(1) 展示活動	10
(2) 教育普及活動	24
(3) 調査研究活動	46
(4) 資料収集保管活動	57
(5) 総務企画調整	69
(6) 新型コロナウイルスへの対応について	76
6 被災文化財等再生活動	
(1) はじめに	79
(2) これまでと現在	79
(3) 今後の課題	80

7 「東北発 博物館・文化財等防災力向上プロジェクト」事業について	
(1) はじめに	- 81 -
(2) 事業別成果報告	- 81 -
(3) 今後の展望	- 84 -
8 岩手県立博物館友の会	
(1) 概要	- 85 -
(2) 会員数	- 85 -
(3) 主催事業	- 85 -
9 博物館利用者入館状況	- 87 -
10 令和4年度公益財団法人岩手県文化振興事業団博物館組織	- 90 -
11 岩手県立博物館使命書	- 91 -
12 関係条例・規則等	- 92 -

1 沿革



- 昭和 48 年 4 月 県教育委員会事務局社会教育課に博物館準備係（3 名）を設置
- 昭和 48 年 5 月 県庁内に副知事を委員長とし関係部長等を委員とする博物館調査委員会を設置
- 昭和 48 年 6 月 博物館資料調査委員（委員 22 名）を委嘱
- 昭和 48 年 7 月 民意集約機構として博物館建設調査協議会（委員 25 名）を設置
- 昭和 48 年 8 月 展示内容等の専門的指導助言を得るため、博物館専門委員会（委員 20 名）を設置
- 昭和 49 年 4 月 県教育委員会事務局に博物館開設準備室（庶務係、学芸班 10 名）を設置
- 昭和 50 年 5 月 博物館建設調査事務終了に伴い、引続き県立博物館建設委員会（委員 6 名）を設置
- 昭和 51 年 1 月 県立博物館の建設地を、盛岡市上田字松屋敷四十四田公園地内に決定
- 昭和 51 年 10 月 建設基本設計の委託を株式会社佐藤武夫設計事務所（東京都）に決定
- 昭和 52 年 4 月 博物館開設準備室を廃し、博物館建設事務所（総務課、学芸課、工務課、17 名）を設置
- 昭和 53 年 6 月 起工式
- 昭和 53 年 10 月 展示工事着手、民家の移築復元工事を財団法人文化財建造物保存技術協会に委託
- 昭和 54 年 11 月 定礎式
- 昭和 55 年 7 月 博物館条例公布、館の名称を岩手県立博物館 と決定
- 昭和 55 年 7 月 コンパニオン（非常勤専門職員 15 名）任用
- 昭和 55 年 10 月 岩手県立博物館設置
- 昭和 55 年 10 月 落成記念式典及びマイヨール作「三人の妖精」除幕式（4 日）
- 昭和 55 年 10 月 岩手県立博物館開館（5 日）
- 昭和 55 年 10 月 日本博物館協会、全国科学博物館協議会加盟
- 昭和 56 年 3 月 第 1 回岩手県立博物館協議会開催
- 昭和 59 年 10 月 皇太子同妃両殿下ご来館（14 日）
- 昭和 60 年 4 月 財団法人岩手県文化振興事業団発足、岩手県立博物館管理運営を委託
- 昭和 62 年 5 月 入館者 100 万人を突破（1 日）

平成 元年 3月 地質総合展示室改修完了
 平成 2年 5月 岩手県立博物館友の会設立 (1日)
 平成 2年 7月 歴史古代展示室改修完了
 平成 2年 10月 開館 10周年記念特別企画展「北の鉄文化」開催
 平成 3年 2月 入館者、県民人口を超える (14日)
 平成 3年 11月 入館者、150万人を達成 (1日)
 平成 3年 12月 歴史中世展示室改修完了
 平成 4年 1月 コンパニオンを「解説員」に改称
 平成 5年 2月 秋篠宮同妃両殿下ご来館 (5日)
 平成 5年 3月 現勢展示室イヌワシの山改修完了
 平成 5年 10月 国民文化祭いわて'93 記念展「じょうもん発信」開催
 平成 5年 10月 皇太子殿下ご夫妻ご来館 (10日)
 平成 6年 1月 「中尊寺黄金秘宝展」開催
 平成 6年 12月 屋上改修工事完了
 平成 8年 4月 重要文化財勸告出品館となる
 平成 9年 12月 文化振興事業団 10周年記念「柳之御所遺跡発掘調査展」開催
 平成 9年 2月 重要文化財公開承認施設となる
 平成 9年 7月 入館者、200万人を達成 (16日)
 平成 10年 1月 ハイビジョン室設置
 平成 12年 3月 収蔵庫等改修工事完了
 平成 12年 3月 企画展第 50 回目を迎える (「岩手の経塚」)
 平成 12年 10月 開館 20周年記念特別企画展「北の馬文化」開催
 平成 13年 5月 近代美術展示閉鎖 (美術館へ移管)
 平成 14年 3月 マメンキサウルス (モシリユウ) 全身骨格複製標本展示
 平成 18年 4月 施設等の管理部門に「指定管理者制度」導入。(財)岩手県文化振興事業団が指定管理者となる
 平成 21年 1月 入館者、250万人を達成 (10日)
 平成 21年 4月 (財)岩手県文化振興事業団が 2 期目の指定管理者となる
 平成 22年 1月 外部階段改修工事完了
 平成 22年 10月 開館 30周年記念特別企画展「いわての漆」開催
 平成 23年 3月 美化事業完了
 平成 24年 4月 (公財)岩手県文化振興事業団が 3 期目の指定管理者となる
 平成 24年 12月 秋篠宮同妃両殿下ご来館 (20日)
 平成 25年 1月 岩手県議会商工文教委員会現地調査(22日)
 平成 26年 3月 文部科学大臣から科学研究費補助金規程に規定する研究機関に指定される(20日)
 平成 26年 3月 仮設陸前高田市被災文化財等保存修復施設設置 (建築面積 115.22 m²、延床面積 230.44 m²)
 平成 26年 5月 仮設陸前高田市被災文化財等保存修復施設開所 (可視化により一般公開)
 平成 27年 1月 岩手県議会商工文教委員会現地調査(14日)
 平成 27年 4月 (公財)岩手県文化振興事業団が 4 期目の指定管理者となる
 平成 28年 1月 文化庁巡回展「発掘された日本列島 2015」、特別展「海に生きた歴史」開催

平成 29 年 3 月 中央監視システム更新工事完了
平成 29 年 3 月 旧佐々木家・旧藤野家住宅保存修理（屋根）工事完了
平成 29 年 3 月 正面入口案内看板設置
平成 29 年 8 月 ボイラー更新工事完了
平成 30 年 2 月 岩手山眺望確保のための樹木剪定
平成 30 年 3 月 昇降機改修工事完了
平成 30 年 4 月 (公財)岩手県文化振興事業団が 5 期目の指定管理者となる
平成 30 年 12 月 マメンキサウルス補修工事完了
平成 31 年 1 月 不活性ガス消火設備更新工事完了
令和 元年 12 月 非常用発電機更新工事完了
令和 2 年 3 月 冷却塔更新工事完了
令和 2 年 10 月 開館 40 周年を迎える（新型コロナウイルス感染拡大により記念特別展延期）
令和 3 年 6 月 県立博物館 開館 40 周年記念特別展「みる！しる！わかる！三陸再発見」開催
(6 月 12 日～8 月 15 日)
令和 3 年 11 月 入館者、300 万人を達成（13 日）
令和 4 年 2 月 直流電源装置更新工事完了
令和 4 年 4 月 重要文化財旧藤野家住宅及び旧佐々木家住宅耐震補強工事完了（15 日）
令和 4 年 12 月 三陸ジオパーク推進協議会との連携協力に関する協定の締結（15 日）
令和 4 年 12 月 屋上防水改修工事完了（23 日）
令和 4 年 12 月 外構タイル改修工事完了（26 日）

2 施設の概要

(1) 建築の概要

〈総工事費〉 44 億 3,000 万円

〈工期〉 ●着工 昭和53年3月15日 ●完成 昭和55年9月30日

〈建築概要〉 ●敷地面積 53,112.78 m² ●建築面積 5,192 m² ●延床面積 12,051.56 m²

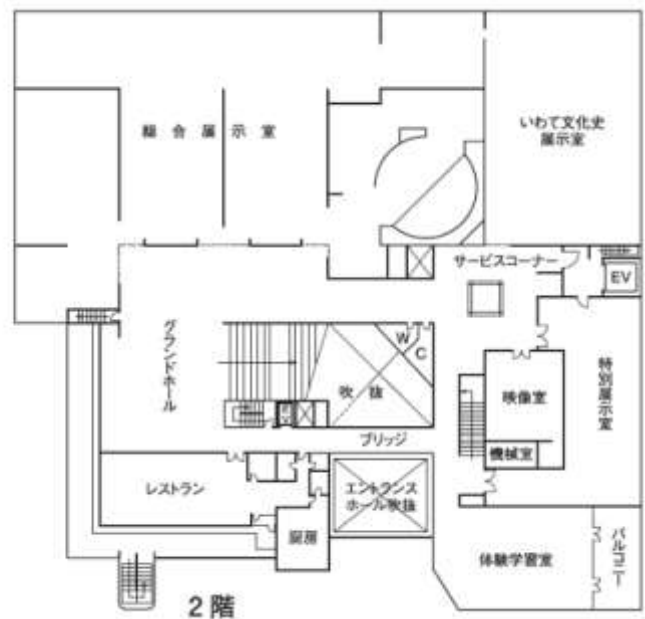
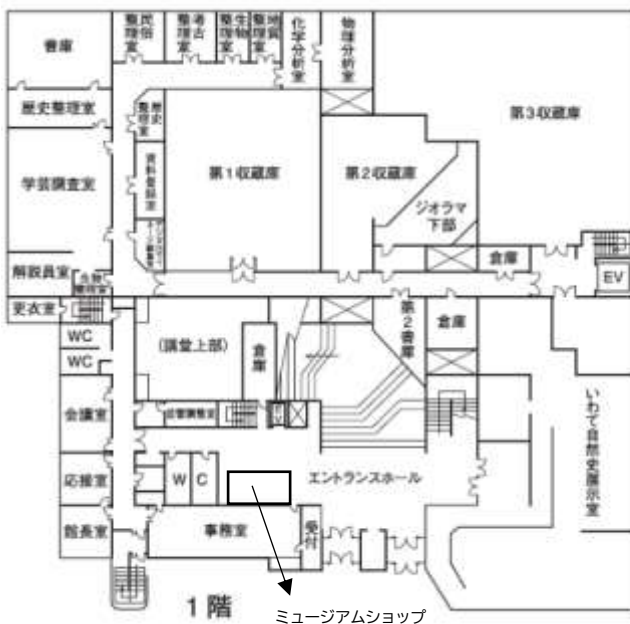
※仮設施設の面積等は含んでいない

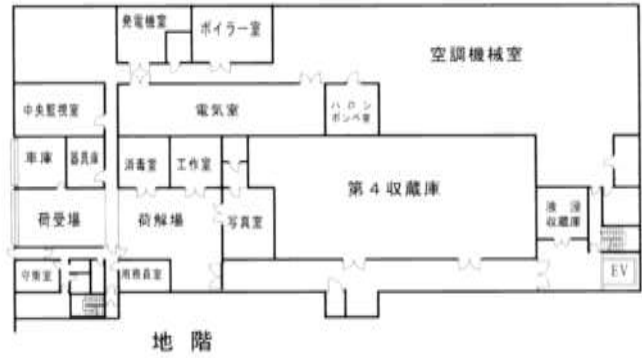
(2) 施設配置図・展示室等平面図



駐車场面積

第1駐車場	2,801.4m	普通車62台
第2駐車場	1,251m	普通車12台、大型バス14台
第3駐車場	4,109m	普通車8台
身障者等用駐車場	93.5m	普通車5台





(3) 各室面積表

部屋名	面積 (㎡)
空調機械室	766.09
発電気室	50.26
蓄電気室	9.71
ボイラー室	64.36
中央監視室	64.67
電話交換機室	8.89
電気室	142.54
ハロンポンベ室	37.86
消火栓ポンプ室	17.14
エレベーター機械室	20.52
第4収蔵庫	464.48
第5収蔵庫(液浸)	39.72
エレベーターシャフト	18.24
車庫	38.33
器具庫	25.24
消毒室	37.86
作業室	35.90
暗室	11.91
作業室	4.06
写真室	52.94
荷受場	79.63
荷解場	113.75
用務員室	26.39
守衛室	18.00
宿直室	21.17
湯沸室	3.81
浴室	5.71
便所	6.75
タラップ室	6.75
フォークリフト置場	12.75
廊下・階段・その他	280.32
小計	2,485.75
いす保管庫	98.61
外部用倉庫	20.38
教室	81.07
準備室	22.83
実技室	115.66
便所	29.02
講堂	164.09
効果室	14.50
ホワイエ	68.29
タラップ室	5.14
廊下・その他	232.78
小計	852.37

部屋名	面積 (㎡)
いわて自然史展示室	729.27
パネル倉庫	35.56
風除室	3.21
受付	18.65
印刷室	8.50
事務室	116.01
館長室	43.33
応接室	41.40
会議室	64.23
倉庫	14.25
身障者便所	6.47
No.3 便所	43.85
No.2 便所	39.67
音響調整室	20.84
同上前室	10.28
予備室	32.07
ロッカー室	10.45
女子更衣室	20.55
学芸調査室	236.04
歴史整理室	59.21
書庫	113.36
民俗整理室	35.84
考古整理室	35.84
生物整理室	25.10
地質整理室	25.20
歴史整理室	35.43
第1資料登録室	21.90
化学分析室	41.66
物理分析室	53.94
デジタルサイネージ	20.72
編集室	
第1収蔵庫	365.15
第2収蔵庫	188.25
第3収蔵庫	608.38
倉庫	9.18
第2書庫	42.69
ジオラマ下部	119.13
グランドホール	133.19
ロビー1	101.79
ロビー2	35.84
階段・廊下・その他	888.10
小計	4,454.53

部屋名	面積 (㎡)
総合展示室	1,553.85
県土の誕生	102.35
いわての夜明け	187.60
いわてのあゆみ	743.20
庶民のくらし	210.00
いわての今	310.70
いわて文化史展示室	489.07
ミニプラザ(1)	210.42
ミニプラザ(2)	129.50
特別展示室	292.20
映像室	124.00
No.4 便所	30.11
体験学習室	217.17
厨房	54.93
休憩室	160.08
休憩室便所	10.98
厨房事務室	10.24
厨房便所	4.16
食品庫	6.90
グランドホール	213.66
階段・廊下・その他	618.20
小計	4,125.47
塔屋	133.44
合計	12,051.56

- 展示面積 3,404.31 ㎡
- 収蔵庫面積 1665.98 ㎡
- 学芸調査室 236.04 ㎡
- 研究室 274.91 ㎡

3 博物館協議会

岩手県立博物館協議会は、館長の諮問に応じ、博物館の運営に関し調査審議するとともに、館長に対して意見を述べる機関として設置されている。令和4年度の開催期日・協議事項は次のとおりである。

- 期日：令和5年1月24日（火）
- 場所：岩手県立博物館教室
- 報告・協議事項
 - ・ 令和3年度 岩手県立博物館協議会の意見等への対応状況について
 - ・ 令和4年度 岩手県立博物館 事業実施状況について
 - ・ 岩手県立博物館中期計画について
 - ・ 令和5年度 岩手県立博物館 事業計画(案)について

岩手県立博物館協議会委員名簿（任期 令和5年6月22日まで）

氏名	職	分野
阿部 俊一	盛岡市立東松園小学校長	学校教育 県小学校長会
小野寺 哲男	盛岡市立黒石野中学校長	学校教育 県中学校長会
上 柿 剛	岩手県立盛岡第四高等学校長	学校教育 県高等学校長協会
松田 恵美子	岩手県青年団体協議会会長	社会教育
向井 隆	一般社団法人岩手県PTA連合会副会長	社会教育
福島 茜	もりおか歴史文化館学芸員	学識経験者 県博物館等連絡協議会
星 俊也	八幡平市教育委員会教育長	学識経験者 県市町村教育委員会協議会
細越 千絵子	岩手県立博物館友の会会員	学識経験者 県立博物館友の会
黒田 大介	(株)岩手日報社編集局文化部専任部長兼編集委員	学識経験者
松政 正俊	岩手医科大学教授	学識経験者
菅野 文夫	岩手大学名誉教授	学識経験者
山本 玲子	啄木研究家（元石川啄木記念館学芸員）	学識経験者
石川 京子	盛岡ふるさとガイドの会会員	学識経験者
丸山 ちはや	盛岡大学短期大学部助教	学識経験者

（令和5年3月31日現在）

4 予算

(単位:千円)

項目	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
管理運営費	170,462							
総務企画調整費	5,243	3,759	4,172	3,945	3,782	5,317	4,471	3,984
展示活動費	11,673	10,074	7,090	10,826	8,115	3,949	7,443	6,619
資料収集保管活動費	40,319	29,894	27,599	21,846	21,983	22,817	20,911	21,109
調査研究活動費	7,273	7,326	7,585	7,276	7,304	7,556	6,921	6,703
教育普及活動費	1,987	1,633	1,683	1,798	1,558	1,616	1,664	1,770
業務管理費		37,699	34,282	34,155	33,251	32,439	32,122	32,529
指定管理者事業費		127,861	130,034	129,269	132,832	131,395	132,600	130,502
計	236,957	218,246	212,445	209,115	208,825	205,089	206,132	203,216

項目	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度
総務企画調整費	3,807	3,442	3,882	3,401	3,380	3,328	3,152	4,082
展示活動費	6,811	7,589	9,686	11,321	8,262	6,198	10,095	16,253
資料収集保管活動費	21,446	19,911	20,086	18,304	18,951	18,342	31,125	37,095
調査研究活動費	6,611	5,956	4,986	3,438	3,428	3,460	3,339	3,936
教育普及活動費	1,515	1,295	1,275	444	454	507	493	471
業務管理費	33,880	35,950	36,277	34,449	34,735	32,085	41,130	43,448
指定管理者事業費	130,401	133,050	132,345	134,334	134,146	136,914	138,015	139,213
計	204,471	207,193	208,537	205,691	203,356	200,834	227,349	244,498

項目	令和3年度	令和4年度
総務企画調整費	4,099	4,671
展示活動費	7,416	5,633
資料収集保管活動費	34,494	33,989
調査研究活動費	3,450	3,685
教育普及活動費	460	440
業務管理費	43,730	47,916
指定管理者事業費	137,271	139,290
計	213,351	217,907

- ※ 1 職員の人件費を除く。
- 2 予算は、いずれも各年度の当初予算であるが、平成27年度は特別展「近代へのとびら」展、平成28年度は特別展「スポーツ博覧会いわて」展開催に係る特別予算を加算した。
- 3 総務企画調整は平成17年度から項目を起こした。
- 4 平成18年度から、指定管理者制度が導入されたことにより業務管理費・指定管理者事業費の項目を起こした。
- 5 令和2年度・3年度予算のうち展示活動費には、40周年特別展の開催経費全体が含まれる。(当該事業は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により2年度から3年度に延期となった。)

5 事業の概要

(1) 展示活動

開館以来、県民の皆様からの寄贈資料や学芸員が自ら収集した資料をはじめ、入手困難なものについては購入等による資料収集活動を行ってきたが、令和4年度（2023年3月31日）までに収蔵されている博物館資料の総点数は、362,640点に及んでいる。その中でも、常設展示されるものはわずか2,000点に過ぎず、この他の資料は5つの収蔵庫に保管された状態となっている。これらについては、季節や年中行事にあわせた展示替え、トピック展示やコラム展示の際に活用し、より多くの県民の目に触れることが出来るよう心がけている。総合展示室では、地質・考古・歴史・民俗・生物の各部門、いわて文化史展示室には民俗・歴史・考古に関連する人文系資料、いわて自然史展示室には、地質・生物など自然史に関する専門的な資料を展示している。この他に、2階グランドホールやミニプラザでトピック展示を行うなど、展示の機会を増やすよう努力している（表5.(1)-1）。

令和4年度は、夏期に第71回企画展「赤色に宿るチカラ」を開催し、その他テーマ展を、前年度から継続して春期に、歴史部門「金田一家収蔵資料展—金田一勝定を中心に—」、秋期に生物部門の「水辺の生きもの」展、冬期に考古・歴史・民俗部門合同の「新収蔵・新指定展Ⅰ 文化史編」、年度をまたいで継続する地質・生物部門合同の「新収蔵・新指定展Ⅱ 自然史編」の4本順次開催している。春期には当館ミニプラザを会場として、国土交通省東北地方整備局北上川ダム統合管理事務所主催によるトピック展「くらべて見よう!!“きたかみ川の五大ダム”」を開催した。冬期には同じくミニプラザとグランドホールを主会場として国立研究開発法人 産業技術総合研究所等主催による「地質情報展2023 いわて—明日につなぐ大地の知恵—」を開催している（表5.(1)-2）。

令和4年度は新型コロナウイルス感染症対策も緩和傾向にあり影響は少なかったが、来館者数の回復は道半ばである。

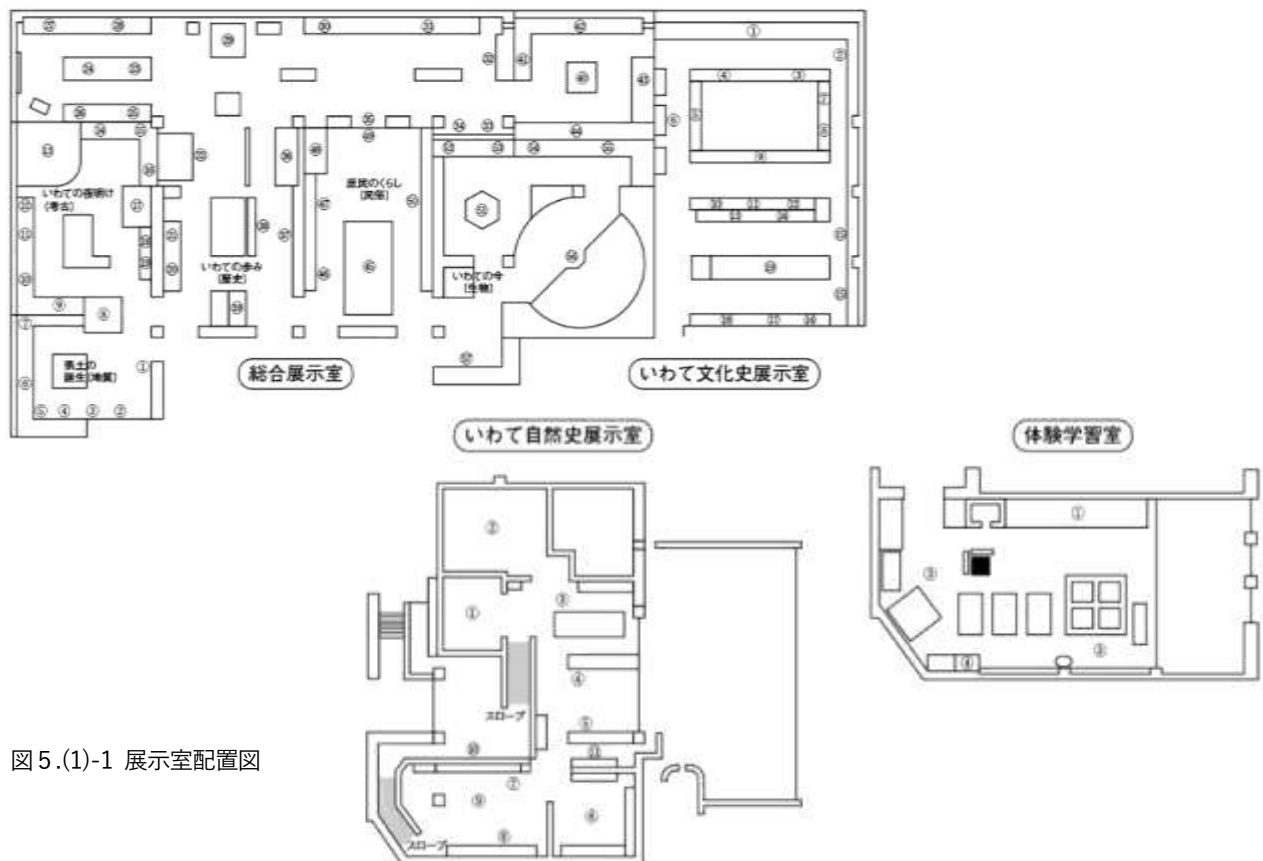


図5.(1)-1 展示室配置図

ア. 展示構成

エントランスホール

- ・兜跋毘沙門天立像
- ・モシリユウとマメンキサウルス
- ・岩手山の眺望

総合展示室

● 県土の誕生(地質)

- 1 県土のおいたち
 - (1) 東北地方の地下断面
 - (2) 気仙隕石
 - (3) 岩手県の地質と岩石
- 2 いわての古生物相の変遷
 - (4) 生命史以前
 - (5) 古生代の生きもの
 - (6) 中生代の生きもの
 - (7) 古第三紀～新第三紀の生きもの
 - (8) 鮮新世～第四紀の生きもの

● いわての夜明け(考古)

- 3 旧石器時代
 - (9) 氷河期の人びと
- 4 土器の時代
 - (10) 岩手の縄文土器
 - (11) 貝塚の形成
 - (12) 埋葬と装飾品
 - (13) 縄文人の暮らし
 - (14) 大洞文化

- 5 稲作を始めた時代
 - (15) 弥生文化と岩手

- 6 古墳を築いた時代
 - (16) 拓かれる北上平野
 - (17) 群集墳
 - (18) 集落と住居
 - (19) 生産技術の変革

● いわての歩み(歴史)

- 7 蝦夷から奥州藤原氏へ(古代)
 - (20) 古代の城柵
 - (21) 安倍氏の台頭
 - (22) 奥州平泉とその文化
- 8 戦乱の時代とその文化(中世)
 - (23) 文治五年奥州合戦
 - (24) 豪族たちの動きと庶民
 - (25) 新しい仏教文化
 - (26) 九戸政実の乱
- 9 藩制時代の人々(近世)
 - (27) 藩政の確立
 - (28) 凶作と一揆
 - (29) 盛岡城と町づくり
 - (30) 産金と製鉄

- (31) 南部と馬
 - (32) 街道と舟運
 - (33) 藩学と寺子屋
 - (34) 先駆者たち
 - (35) 維新前夜
- 10 進む近代化(近代)
 - (36) 生活の洋風化
 - (37) 岩手県の誕生
 - (38) 明治時代から大正時代へ
 - (39) 太平洋戦争

- 11 古美術
 - (40) 鐺
 - (41) 絵画・工芸
 - (42) 刀剣
 - (43) 絵画・工芸
 - (44) 絵画

● 庶民の暮らし(民俗)

- 12 家の暮らし
 - (45) いろいろ
 - (46) 正月の行事
 - (47) 庶民の信仰
- 13 働く人びと
 - (48) 農村の人びと
 - (49) 漁村の人びと
 - (50) 山村の人びと

- 14 まつりと芸能

● いわての今(現勢・生物)

- 15 わたしたちの郷土いわて
 - (51) 岩手県地形模型
 - (52) 岩手の四季
 - (53) 県の鳥・木・花
- 16 恵まれた自然
 - (54) 岩手の風土
 - (55) 山や川の生き物
 - (56) イヌワシの山
 - (57) 豊かな海

いわて自然史展示室

- (1) 大地の中の小さな輝き
ー鉱物コレクションー
- (2) 地球史の中の岩手の自然
- (3) 海にもどって大進化
- (4) 海の哺乳類
- (5) 空に向かって大進化
- (6) 水辺の生きもの
- (7) 日本のキツツキと希少な鳥獣
- (8) 早池峰山の自然
- (9) 大空の覇者ワシ・タカの世界

- (10) 写真でみる岩手の自然
- (11) 東日本大震災と
被災文化財等救援活動

いわて文化史展示室

考古

- (1) 岩手の土器
- (2) 北上山系の洞穴遺跡
- (3) 岩手の石器と鉄器
- (4) 三陸の貝塚
- (5) 豊岡遺跡
- (6) 柳之御所遺跡

歴史

- (7) 近代
- (8) 災害の歴史
- (9) 信仰
- (10) 近世
- (11) 教育の歴史
- (12) 貨幣の歴史

民俗

- (13) 森口多里コレクション
- (14) オシラサマ
絹と麻・いわての養蚕
- (15) いわての暮らし
- (16) いわての民芸
- (17) 郷土料理
- (18) 南部絵暦
- (19) むかしの暮らし大図鑑

体験学習室

- (1) 身につける
鎧、夜会服、野良着等
- (2) ためす
虫の鳴き声ボックス、機織等
- (3) あそぶ
かるた、板がえし等
- (4) よむ

屋外展示

民家

- ・直屋 旧藤野家住宅(重文)
奥州市江刺伊手御堂
- ・曲り屋 旧佐々木家住宅(重文)
下閉伊郡岩泉町指畑

散策広場

- ・植物園
県内の植物等 345 種
- ・岩石園
火山岩、変成岩、堆積岩 49 種

イ. 常設展示の展示替え及び展示コーナー

長期間の展示による資料の劣化・退色防止、および季節や年中行事などにあわせた展示とするため、常設展示では不定期に展示替えを行っている。さらに、企画展やテーマ展に間接的に関わる資料や、夏休み・冬休みを主体とした子供向け資料のトピック展示をしている。

令和4年度は、規模の大きめなトピック展として、「くらべて見よう!!“きたかみ川の五大ダム”」を国土交通省東北地方整備局北上川ダム統合管理事務所主催でミニプラザを会場に開催している。また、歴史部門の「歴史としての現在—COVID-19 パンデミックの記録—」は速報展として取り上げたものである。

その他、話題性のある資料等の展示をとおして親しみやすい博物館を目指し、来館者に気軽に展示品を鑑賞する機会を提供する目的で県博ギャラリー・県博アートギャラリーを実施している。館内展覧会プロジェクトチーム主導により、今年度は写真や美術作品の展示を行った。

また、昨年度と同様に利用者に親しまれる魅力的な常設展示の充実—分かりやすく、親しみやすい説明・解説等の工夫—を図るため、総合展示室といわて文化史展示室の一部のパネル類についてふりがなの統一を図った。

実施状況は表 5.(1)-1 に示すとおりである。



図 5.(1)-2 「歴史としての現在—COVID-19 パンデミックの記録—」展示風景

表 5.(1)-1 令和4年度の主な展示替え・トピック展

No.	担当	展示場所	種別	テーマ	展示資料	期日
1	地質 (望月)	グランドホール	トピック展	始祖鳥—しそちょう—	始祖鳥化石標本(複製) 8点	4.6~5.8
2	生物 (鈴木)	いわて自然史展示室	トピック展	春の花と虫	春に見られる昆虫標本3箱、昆虫の写真3点、花の写真17点 計23点	4.12~5.29
3	歴史 (工藤)	総合展示室(古美術)	展示替え		亀甲花菱鶴高蒔絵鞍籠など2点	4.13~
4	三課 (近藤)	グランドホール	トピック展	県博アートギャラリー	第1回写真展(私の岩手山)入賞作品展示	4.16~
5	民俗 (川向)	総合展示室 (庶民の暮らし)	トピック展	武者人形	花巻人形ほか16点	4.17~
6	三課 (近藤)	グランドホール	トピック展	県博アートギャラリー	第2回写真コンテスト「私の岩手山」全応募作品	4.22~
7	民俗 (木戸口)	ミニプラザ	トピック展	くらべて見よう!!“きたかみ川の五大ダム”	五大ダム3D模型ほか	4.23~5.29
8	考古 (金子)	いわて文化史展示室	トピック展	亀ヶ岡式模様の描き方	縄文晩期土器6点	4.24~7.23
9	民俗 (川向)	いわて文化史展示室 (むかしの暮らし大図鑑)	展示替え	夏の風物詩	扇風機、蚊遣り豚、氷削機ほか 20種30点	4.28~
10	三課 (近藤)	グランドホール	トピック展	県博アートギャラリー	県立杜陵高等学校はんが甲子園入賞作品2点	4.29~5.31
11	民俗 (川向)	民家	-	案内板設置	犬の散歩や糞尿厳禁、ハチに注意	4.29~

No.	担当	展示場所	種別	テーマ	展示資料	期日
12	民俗 (川向)	いわて文化史展示室 (むかしの暮らし大図鑑)	トピック展	むかしのおもちゃ	野球グローブ、コリントゲーム、セルロイド人形など10点	5.1～
13	民俗 (木戸口)	ミニプラザ・いわて文化史展示室	トピック展	子どもの日に関連したトピック展	茶碗セットなど	5.1～
14	歴史 (目時)	いわて文化史展示室	トピック展	歴史としての現在—COVID-19 パンデミックの記録—	新型コロナウイルス感染症関係写真パネル等13点	5.17～
15	地質 (望月)	いわて自然史展示室	展示替え		ウゴイルカ(複製)	5.18～
16	民俗 (川向)	いわて文化史展示室 (いわての暮らし)	展示替え	森口多里写真コレクション	さんさ踊り、盆花売りなど9点	5.25～
17	考古 (金子)	総合展示室 (いわての夜明け)	トピック展	遮光器土偶の使用痕	説明パネルのみ	6.28～8.31
18	歴史 (目時)	総合展示室 (いわての歩み)	展示替え	鎌倉殿の13人の時代を読む	吾妻鏡・義経記(展示巻の入れ替え)計2点	6.30～
19	生物 (渡辺)	いわて自然史展示室	トピック展	岩手と世界のカブトムシ・クワガタムシ	標本60点	7.18～8.31
20	考古 (高木)	いわて文化史展示室	トピック展	日戸遺跡～姫神山麓の縄文集落～	縄文後期土器など14点	7.23～10.30
21	民俗 (川向)	総合展示室 (庶民の暮らし)	トピック展	むかしのあかり	漆の実と漆蠟、手燭、ランプ、行燈など13点	8.1～
22	民俗 (川向)	いわて文化史展示室 (むかしの暮らし大図鑑)	トピック展	むかしのトイレ	大便器、おまる、シリノゲ、チュウギなど4点	8.7～
23	歴史 (工藤)	いわて文化史展示室	展示替え		不動明王坐像	8.18～
24	歴史 (工藤)	総合展示室(古美術)	展示替え		群鶴図屏風	8.23～
25	歴史 (工藤)	いわて文化史展示室	展示替え		村松大感墨跡	8.31～
26	地質 (望月)	総合展示室・いわて自然史展示室	展示替え		三葉虫オレネルスほか計6点	8.25～
27	歴史 (工藤)	総合展示室 (いわての歩み)	展示替え		紺糸威最上胴具足	9.17～
28	民俗 (川向)	総合展示室 (庶民の暮らし)	展示替え	まいるのほとけ、万祝、野良着	六字名号図1点、大漁バンテン2点、ミジカ1点 計4点	9.18～
29	歴史 (工藤)	総合展示室 (いわての歩み)	展示替え	秋のお披露目	銅造観音菩薩立像	9.21～9.25
30	考古 (金子)	ミニプラザ	トピック展	秋の御開帳	土偶など13点	9.22～10.7
31	考古 (米田)	ミニプラザ	トピック展	琥珀のかがやき	久慈産琥珀、久慈市中長内遺跡出土琥珀玉ほか	10.1～10.31
32	民俗 (川向)	いわて文化史展示室 (むかしの暮らし大図鑑)	展示替え	あたたまるための道具	火鉢、木炭、行火、懐炉など20点	10.4～
33	地質 (望月)	ミニプラザ	トピック展	化石の日	アンモナイトなど計9点	10.8～11.15
34	生物 (鈴木)	いわて自然史展示室	トピック展	どんぐりいろいろ	どんぐりの標本17種、葉の押し葉標本7点など 計25点	10.9～12.11
35	考古 (米田)	いわて文化史展示室	展示替え	志波城跡の出土資料	須恵器坏、製鉄関連連炉壁ほか	11.1～1.27
36	民俗 (近藤)	ミニプラザ	トピック展	明治時代の錦絵と菓子櫃・菓子盆	錦絵4枚、菓子櫃3点、菓子盆7点 計17点	11.17～12.17

No.	担当	展示場所	種別	テーマ	展示資料	期日
37	民俗 (川向)	いわて文化史展示室	-	ネームプレート・パネル等の更新		11.17～
38	生物 (高橋)	いわて自然史展示室	トピック展	冬のケモノ大変身!	哺乳類本剥製 8点	12.13～4.9
39	歴史 (工藤)	いわて文化史展示室	展示替え	新収蔵・新指定展 I 関連展示	古貨幣、教科書など 58点	1.4～
40	民俗 (川向)	いわて文化史展示室 (いわての暮らし)	展示替え	森口多里写真コレクション	犬吠森念仏剣舞など 8点	1.6～
41	地質 (望月)	階段ホール、総合展示室、いわて自然史展示室	展示替え		恐竜スピノサウルスの歯など 5点	1.26～
42	考古 (金子)	いわて文化史展示室	トピック展	土偶の作り方	土偶 7点、土偶レプリカ 1点、レプリカ型 1点 計 9点	1.28～
43	民俗 (近藤)	総合展示室 (庶民の暮らし)	トピック展	ひな人形	くくり雛ほか	2.23～4.7
44	歴史 (目時)	いわて文化史展示室	展示替え		田村家資料 58点	3.1～
45	歴史 (工藤)	総合展示室 (いわての歩み)	展示替え	春のお披露目	銅造観音菩薩立像	3.18～3.24

※平成 24 年度から各部門 4 回以上のトピック展・展示替えの実施を努力目標としている。令和 4 年度は 24 回のトピック展、19 回の展示替えを実施した。

ウ. 特別展示の概要

令和 4 年度は、以下の企画展・テーマ展を開催した(表 5.(1)-2)。新収蔵・新指定展は、平成 30 年度(2018)から新規に館蔵となった資料、新規に国や県の指定文化財等となった資料を紹介するテーマ展で、考古・民俗・歴史の文化史三部門が担当する文化史編と、地質・生物の自然史二部門が担当する自然史編とに分けて開催した。

表 5.(1)-2 令和 4 年度の特別展示

種別	名称	会期	会期中の来場者数
テーマ展 (歴史)	「金田一家収蔵資料展 一金田一勝定を中心に」	令和 4 年 3 月 5 日(土) ～5 月 8 日(日)	3,855 (4/1～)
企画展 (考古・民俗)	「赤色に宿るチカラ」	令和 4 年 6 月 11 日(土) ～8 月 21 日(日)	9,606
テーマ展 (生物)	「水辺の生きもの」	令和 4 年 9 月 23 日(金・祝) ～12 月 4 日(日)	7,059
テーマ展 (文化史)	「新収蔵・新指定展 I 文化史編 ～2018 年度からの新コレクション～」	令和 5 年 1 月 7 日(土) ～2 月 26 日(日)	3,376
共催展 (地質)	「地質情報展 2023 いわて 一明日につなぐ大地の知恵」	令和 5 年 3 月 10 日(金) ～3 月 12 日(日)	792
テーマ展 (自然史)	「新収蔵・新指定展 II 自然史編 ～2018 年度からの新コレクション～」	令和 5 年 3 月 25 日(土) ～5 月 7 日(日)	891 (3/31 時点)

展覧会実施日数：214 日／開館日 302 日

展覧会会期中の来場者数：24,688 名

(ア) テーマ展「金田一家収蔵資料展—金田一勝定を中心に—」



図 5.(1)-3 展覧会ポスター

平成 14 年度から金田一家（金田一駐車場）より資料寄贈していただき、現在まで 1,392 点を登録してきた。

金田一家は盛岡銀行（現在の岩手銀行赤レンガ館）、岩手軽便鉄道を創業した金田一勝定、その娘婿で花巻温泉の創業など県内 35 事業の役職に就いた金田一国土を輩出した名家である。

今回のテーマ展で博物館活動の根幹である資料収集・調査研究の成果を幅広く公表した。

会 期：令和 4 年 3 月 5 日（土）～ 5 月 8 日（日）

実開催日数 58 日

会 場：特別展示室

会期中の来場者数：5,742 名

（4 月 1 日～ 3,855 名）

〔展示内容〕（展示資料 124 点）

第 1 章 金田一勝定の業績（展示資料 75 点）

金田一勝定肖像写真、フロックコート、当選証書 15 点（県議会議員、盛岡市議会議員等）、金田一勝定への辞令・委嘱状 11 点（日本赤十字社等）、金田一勝定への感謝状 45 点（日本赤十字社、岩手県教育会、岩手公園費寄付、明治神宮奉賛会など）

第 2 章 実業家 勝定（展示資料 24 点）

金穀出納帳（出金六十銭、京助へ御年玉の菓子代）、大福帳（二高時代の京助への学資送金など）、算盤（金田一勝定の名入り）、盃（盛岡銀行など）

第 3 章 勝定を偲ぶ（展示資料 7 点）

金田一勝定葬儀目録（原敬など）、弔文 4 点（大蔵大臣高橋是清、渋沢栄一、山屋他人など）、弔慰者芳名録（原敬・高橋是清・渋沢栄一）

第 4 章 金田一家秘蔵写真（展示資料 15 点）

金田一勝定 6 点、金田一国土 9 点

第 5 章 勝定の甥 金田一京助（展示資料 3 点）

金田一京助作文「各々汝が志をいへ」、「ク」（習字断簡）、手紙（封書）

〔関連事業〕

(1) 県博日曜講座（計 2 回） 13:30～15:00 講堂

① 令和 4 年 3 月 13 日（日） 参加者 44 名

演題：「世界の中の岩手—金田一国土の時代—」

講師：工藤 健（当館専門学芸調査員）

② 令和 4 年 3 月 27 日（日） 参加者 55 名

演題：「金田一勝定と国土が現在に残したもの」

講師：菅野 誠喜（当館主任専門学芸調査員）

(2) 展示解説会(計2回) 14:30~15:30 特別展示室

① 令和4年3月5日(土) 参加者12名

② 令和4年3月19日(土) 参加者3名 合計15名

〔印刷物〕

ポスター B2判、カラー印刷、500部

リーフレット A4判、両面カラー印刷、10,000部

(イ) 第71回企画展「赤色に宿るチカラ」



図5.(1)-4 展覧会ポスター

赤色が人々の暮らしにどのような影響を与えたかを紹介するものである。赤色は身近な色であり、太陽、血、生命などの象徴と解釈されてきた。また人生の節目となる冠婚葬祭に代表される色であり、特に葬送においては、異界との境界に使用される象徴的な色として尊ばれた。

このような赤色のチカラを地質学・考古学・民俗学の各分野の資料を用いて広く紹介し、色彩に込められた人々の願いについて理解を深めていただく展覧会とした。

会 期：令和4年6月11日(土)～8月21日(日)

実開催日数65日

会 場：特別展示室・ミニプラザ

会期中の来場者数：9,606名

〔展示内容〕

プロローグ 赤の地質学 ～いわての岩石が語る太古の赤～

県内の赤色岩石を中心に紹介した。

<主な資料>琥珀塊、バラ輝石、赤鉄鉱石、中長内遺跡出土琥珀玉関連資料、辰砂鉱石ほか

第1章 赤の考古学 ～いわての旧石器～近世資料から探る先祖を魅了した赤色～

旧石器時代～近世までの資料を中心に、人々が赤色をどのような場面で使用し、どのような効果を期待していたかを紹介した。

<主な資料>旧石器時代のクレヨン、赤色頁岩製石器、漆塗櫛、押出遺跡出土彩漆土器(国指定重要文化財)、縄文土器、赤彩土師器、秀衡椀、南部箔椀ほか

第2章 岩手に残る服飾の赤

赤色の衣装に込められた強さ、美しさを紹介した。

<主な資料>海女の肌着、子ども服、大漁バンテン、緋羅紗地合羽(国指定重要文化財)

第3章 異形・異界の赤 ～赤の民俗学(1)～

人々が認識していた様々な色(赤・黒・白・青等)の資料を紹介し、赤色に込められた願いとそのチカラを紹介した。

<主な資料>不動明王坐像、鍛冶神図、地獄絵図、錦絵、水虎之図ほか

第4章 祈りと色彩 ～赤の民俗学(2)～

無病息災、疫病退散(特に疱瘡除)などの様々な願いを表す色として活用された「祈りの色」の歴史について紹介した。

<主な資料>天児・這子、『小児必用養育草』、郷土玩具ほか

エピローグ 暮らしのなかの赤

日常生活のなかにある赤色を紹介する。

<主な資料>昭和の赤い日用品、郵便ポスト、ボクシンググローブ、赤いユニフォーム

〔関連事業〕

(1) 県博日曜講座(計3回)

- ① 令和4年7月10日(日) 13:30～15:00 講堂 参加者44名
演題:「押出遺跡の漆製品から探る縄文ロジスティクス ～人・モノが紡ぐ交流の物語～」
講師:水戸部秀樹氏(山形県埋蔵文化財センター総務主査)
- ② 令和4年7月24日(日) 13:30～15:00 講堂 参加者48名
演題:「古代国家との境界に生きる ～蝦夷の赤い土器から探る集団関係～」
講師:米田 寛(当館主任専門学芸員)
- ③ 令和4年8月7日(日) 13:30～15:00 講堂 参加者32名
演題:「赤彩表現される異界・異形のものたち」
講師:近藤 良子(当館主任専門学芸員)

(2) 展示解説会(計3回) 各回14:30～15:30

- ① 令和4年6月19日(日) 参加者24名
- ② 令和4年7月17日(日) 参加者20名
- ③ 令和4年8月14日(日) 参加者27名

(3) 展示会付帯イベント

こども向けイベント「赤いものクイズ」

特別展示室にパネル設置した小学生以下対象の子ども向けクイズに答えてもらい、赤い岩石の景品と交換。期間中にクイズをPart1～3まで更新し、それに合わせて景品の赤色岩石の種類を変更した。

令和4年6月25日(土)～令和4年8月21日(日)

参加者(こども)1,204名 保護者(大人)1,233名

〔印刷物〕

ポスター B2判、カラー印刷 1,000部

リーフレット A4判、両面カラー印刷 40,000部

図録 A4判、カラー印刷 500部

イベント告知リーフレット A4判、片面カラー印刷
5,000部



図5.(1)-5 赤いものクイズ広報印刷物

(ウ) テーマ展「水辺の生きもの」

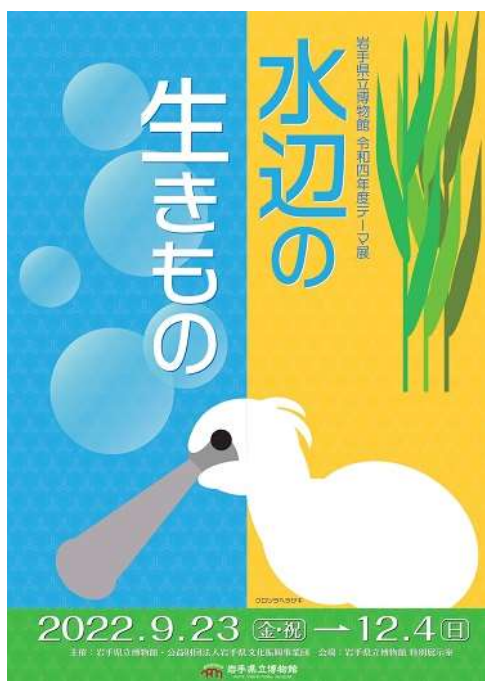


図 5.(1)-6 展覧会ポスター

“水辺”は陸域と水域の境界線上にあり、両方の環境に適応した特徴的な生物が多数暮らしている。しかしながら、長年の人間活動は水辺を大きく破壊・改変し、そこに暮らす生物の大多数が絶滅の危機に瀕している。

本テーマ展では、水の流れに沿って水辺を6つの環境に分け、それぞれの景観的特徴と生物相の特徴を、豊富な実物標本と生態写真で紹介した。

また、岩手県を代表する水辺である春子谷地湿原（滝沢市）と高松公園芝水園（盛岡市）について、当館の生物部門が実施した生息生物相調査の成果を示し、両者の価値と危機的現状を紹介した。

会期：令和4年9月23日（金・祝）～12月4日（日）

実開催日数 63 日間

会場：特別展示室

会期中の来場者数：7,059 名

〔展示内容〕 展示資料 230 点・展示写真 134 点

第1章 河川（展示資料 33 点）

鳥類本剥製（シノリガモ・イソシギなど）、哺乳類本剥製（カワネズミ）、昆虫類標本（ニホンカワトンボ・コオニヤンマなど）、クモ類標本（シノビグモ・キシベコモリグモなど）

第2章 自然湿原（展示資料 53 点）

鳥類本剥製（シマセンニュウ・マキノセンニュウなど）、昆虫類標本（ムツアカネ・ゴマシジミなど）、クモ類標本（シッチコモリグモ・クマドリハエトリなど）

第3章 水田（展示資料 31 点）

鳥類本剥製（ケリ雛・コミミズクなど）、哺乳類本剥製（アズマモグラ）、爬虫類レプリカ（シマヘビ）

第4章 岩手の両生類（展示資料 10 点）

両生類レプリカ（ヤマアカガエル・トウキョウダルマガエルなど）

第5章 湖沼（展示資料 53 点）

鳥類本剥製（オオハクチョウ・カワウなど）

第6章 ヨシ原（展示資料 20 点）

鳥類本剥製（サンカノゴイ・ホオアカなど）、哺乳類本剥製（ニホンイタチ）

第7章 河口・干潟（展示資料 23 点）

鳥類本剥製（クロツラヘラサギ・カモメなど）、無脊椎動物液浸標本（イトメ・ハマダンゴムシなど）

第8章 岩手県立博物館の最新研究：春子谷地湿原と高松公園芝水園（展示資料 7 点）

植物標本（イトナルコスゲなど）、哺乳類本剥製（ツキノワグマなど）

〔関連事業〕

(1) 文化講演会

10月23日(日) 13:30~15:00 講堂 参加者 80名

演題:「南半球のマングローブ林での鳥類研究:カッコウ類と宿主の軍拡競争」

講師:上田 恵介 氏(日本野鳥の会会長)

(2) 特別講演会

11月3日(木・祝) 13:30~15:00 講堂 参加者 41名

演題:「水辺に棲む『その他の無脊椎動物』と環境」

講師:松政 正俊 氏(岩手医科大学教授)

(3) 県博日曜講座(計3回)

① 令和4年9月25日(日) 13:30~15:00 講堂 参加者 69名

演題:「岩手の水辺の生きもの:特に野鳥について」

講師:高橋 雅雄(当館専門学芸調査員)

② 令和4年11月13日(日) 13:30~15:00 講堂 参加者 47名

演題:「岩手の水辺のクモ・トンボ」

講師:渡辺 修二(当館主任専門学芸員)

③ 令和4年11月27日(日) 13:30~15:00 講堂 参加者 70名

演題:「岩手の水辺の植物について~春子谷地を中心に~」

講師:鈴木まほろ(当館主任専門学芸員)

(4) 展示解説会(計2回)

① 令和4年9月23日(金・祝) 14:30~15:30 参加者 15名

② 令和4年10月9日(日) 14:30~15:30 参加者 18名 合計 33名

(5) 自然観察会

11月23日(水・祝) 10:30~12:00 盛岡市高松公園 参加者 20名

テーマ:「ハクチョウとカモ類を観察しよう」

講師:高橋 雅雄(当館専門学芸調査員)

〔印刷物〕

ポスター B2判、カラー印刷 500部

リーフレット(解説書) A3判(巻三ツ折り)、両面カラー印刷 10,000部

〔エ〕 テーマ展「新収蔵・新指定展 | 文化史編~2018年度からの新コレクション~」

当館の資料総数はおよそ30万点であり、そのほとんどは県内外からご寄贈いただいたものである。当館では平成30(2018)年度から約50,000点の資料を新たな岩手県の資産として収集および登録しており、本展覧会では考古・民俗・歴史の三部門より準備が整った未公開資料を中心に、お披露目するとともに、岩手県内で新たに指定された文化遺産も併せて紹介した。

会 期:令和5年1月7日(土)~令和5年2月26日(日)

実開催日数 44日

会 場:特別展示室・ミニプラザ・いわて文化史展示室

会期中の来場者数:3,376名



図 5.(1)-7 展覧会ポスター

〔展示内容〕 展示資料 275 点【写真パネルを含む】

- ・考古部門（展示資料 44 点）
 - 軽米町長倉 I 遺跡出土品、一戸町御所野遺跡出土品、紫波町西田遺跡出土品、盛岡市萩内遺跡出土品、葛巻町馬場焼窯跡出土品
- ・民俗部門（展示資料 123 点）
 - 家電機器などの生活道具、各種郷土玩具、県有形民俗文化財「盛岡藩操座元鈴江四郎兵衛関係資料」、ユネスコ無形文化遺産「風流踊」「来訪神：仮面・仮装の神々」「伝統建築工匠の技術建造物を受け継ぐための伝統技術」紹介パネル、国・県新指定等文化財紹介パネルほか
- ・歴史部門（展示資料 108 点）
 - 近代の岩手、岩手と戦争、災害の歴史、国・県新指定等文化財紹介写真パネル、いわて文化史展示室関連展示

〔関連事業〕

(1) 県博日曜講座

- ① 令和 5 年 1 月 8 日（日） 13:30～15:00 講堂 参加者 59 名
 演題：「竹倉史人著『土偶を読む』を読む」
 講師：金子 昭彦（当館学芸第三課長）
- ② 令和 5 年 1 月 22 日（日） 13:30～15:00 講堂 参加者 53 名
 演題：「縄文土器のいろんな見方～日常什器か芸術品か～」
 講師：高木 晃（当館学芸第一課長）
- ③ 令和 5 年 2 月 12 日（日） 13:30～15:00 講堂 参加者 37 名
 演題：「岩手で受け継がれてきた手わざ」
 講師：川向 富貴子（当館専門学芸員）
- ④ 令和 5 年 2 月 26 日（日） 13:30～15:00 講堂 参加者 40 名
 演題：「縄文の逸品『巻貝形土器』からみえてくる三陸の豊かさ」
 講師：長谷川 真 氏（宮古市教育委員会事務局文化課 副主幹兼学芸係長）

(2) 展示解説会 各回 14:30～15:30

- ① 令和 5 年 1 月 22 日（日） 参加者 5 名
- ② 令和 5 年 2 月 12 日（日） 参加者 15 名 合計 20 名

〔印刷物〕

- ポスター B2 判、カラー印刷 500 部
- リーフレット A4 判、両面カラー印刷 10,000 部

(オ) 共催展「地質情報展 2023 いわて—明日につなぐ大地の知恵—」



図 5.(1)-8 展覧会ポスター

総合地質情報展は、「地質」を身近に感じることを目的とし、産業技術総合研究所地質調査総合センターと日本地質学会との共催で、これまで全国各地で開催されてきた。開催地域周辺の地質から最新の地質学の成果をはじめ、地震・津波・地盤災害等のしくみについてわかりやすく体験的に実感できる内容となっている。通算で第 26 回となる今回は岩手県立博物館で開催された。

会 期：令和 5 年 3 月 10 日（金）～ 3 月 12 日（日）

実開催日数 3 日

時 間：9：30～16：30（最終日は 15：00 まで）

会 場：特別展示室・グランドホールほか

会期中の来場者数：792 名

〔展示内容〕

(1) 楽しく学ぶ！ 体験・実験コーナー

① 化石のレプリカづくり

三葉虫・アンモナイト・巻き貝の 3 種類からひとつを選んで石膏のレプリカを作成する。

② 火山噴火実験

ペットボトルと水を使って地下のマグマが爆発的噴火を生み出す様子を擬似的に体感し、火山の爆発的噴火のしくみについて学ぶ。

③ 岩手火山の塗り絵とペーパークラフト

岩手山の地質図を塗り絵にし、地質を色分けして自作の地質図を作る。

また、3D プリンターで作成した岩手山の立体地形模型に地質図をかぶせて型取りするペーパークラフトを作成する。

④ 地盤のゆれ実験

硬い地盤と柔らかい地盤を再現した模型を揺らし、それぞれの揺れ方の違いを観察する。

⑤ ペットボトルで液状化実験

地盤の液状化を再現する実験ボトル「エキジョッカー」および「エッキー」を使って、地震がもたらす液状化の仕組みに触れる。

⑥ 自然の不思議：鳴り砂

特定の地域の砂浜で取れた砂（鳴き砂）をワイングラスに入れてすりこぎ棒で突き、その音を確かめるとともに、その仕組みについて理解する。

⑦ ロックバラランシング

河原に転がっている石を使い、石の種類と形の関係性に着目しながら、どこまで積み重ねられるか挑戦する。

(2) 見て・聞いて学ぶ！ 一展示・解説コーナー

① 巨大地質図でみる東北地域と岩手火山

大型床張り地質図の上に乗って、東北地方の詳細な地質を体感する。

② 岩手火山と東北の火山

活火山である岩手山の特徴や噴火の歴史をパネルで紹介する。また、岩手県を含めた東北6県の火山も併せて紹介する。

③ 地震の起こり方

日本で起こる3種類の地震(海溝型地震、スラブ内地震、内陸地震)の仕組みを解説する。

④ 東北地方の地球化学図

地質の分布によって濃度が変わる元素や鉱床地域で濃度が高い元素について、地図を用いて解説する。

⑤ 東北地方の県の石

日本地質学会が選定した47都道府県の「県の石」のうち、東北6県の県の岩石・鉱物・化石についてパネルと実物標本で紹介する(一部の化石を除く)。

⑥ 津波堆積物

地層の中に記録されている過去の津波の痕跡を調べ、海底で発生した巨大地震の歴史をたどる研究を紹介する。また、津波で残された堆積物に海底からもたらされた有害な物質が環境に与える影響についても併せて紹介する。

⑦ 再生可能エネルギー—地熱発電と地中熱利用—

地熱発電や地中熱利用の様子を紹介する。

⑧ 地質標本館

産業技術総合研究所地質標本館(茨城県つくば市)の展示紹介などを行う。

⑨ 三陸ジオパーク

岩手県を中心に東北3県にまたがる三陸ジオパークの見どころを紹介する。

⑩ 連携企業紹介

産総研東北センターや連携企業の活動紹介および岩手県の企業3社の取り組みについて紹介する。

〔関連事業〕

市民講演会「岩手火山・ジオパーク・防災の話」 3月11日(土) 聴講者数58人

① 演題:「岩手火山」 13:00~13:40

講師:伊藤 順一 氏(産業技術総合研究所)

② 演題:「ジオパーク」 13:55~14:35

講師:渡辺 真人 氏(産業技術総合研究所)

③ 演題:「防災」 14:50~15:30

講師:越谷 信 氏(岩手大学理工学部)

〔印刷物〕

ポスター B2、カラー印刷 70部

リーフレット A4、両面カラー印刷 23,000部

※当館で配布したもののみ

(カ) テーマ展「新収蔵・新指定展Ⅱ自然史編～2018年度からの新コレクション～」



図5.(1)-9 展覧会ポスター

平成30(2018)年度以降、当館では約50,000点の資料が新たな岩手県の資産として登録された。そのうちの約38,000点が、生物・地質部門で新たに登録された資料である。

新種の可能性が期待される岩手県産アンモナイト化石や理科教育の歴史を物語る教材資料など、貴重かつバラエティーに富んだ展示になった。

会 期：令和5年3月25日(土)～5月7日(日)

実開催日数39日

会 場：特別展示室・ミニプラザ

会期中の来場者数：889名(※3月31日現在)

〔展示内容〕 展示資料327点【写真パネル含む】

・生物部門(展示資料164点)

剥製(オオフウチョウ、キジ×ヤマドリ交雑個体、クロコシジロウミツバメ 他)

昆虫標本(チョウセンアカシジミ青山之也コレクション、市川杜夫コレクション 他)

県立水沢農業高等学校旧蔵資料(教育掛図「麒麟」、蚕体解剖模型 他)

新指定天然記念物(折爪岳のヒメボタル生息地、上琴畑湿原)

・地質部門(展示資料163点)

岩手大学工学部旧蔵標本(レプトフリーアム ロンビカム、レピドストロブスの一種 他)

トンネルの岩石(粘板岩、蛇紋岩、チャート 他)、南極片麻岩、クルミ化石

五井コレクション(メタセコイア、ハリギリの一種、ハンノキの一種 他)

小守コレクション(テトラゴニテス フレネンシス、フレニテスの一種 他)

〔関連事業〕

(1) 県博日曜講座

① 令和5年4月9日(日) 13:30～15:00 講堂 参加者39名

演題：「剥製から生まれる鳥類学」

講師：高橋 雅雄(当館専門学芸調査員)

② 令和5年4月23日(日) 13:30～15:00 講堂 参加者52名

演題：「生命史をひも解くー白亜紀(後編)ー」

講師：望月 貴史(当館専門学芸員)

(2) 展示解説会 各回15:00～16:00

① 令和5年3月26日(日) 参加者30名

② 令和5年4月23日(日) 参加者27名 合計57名

〔印刷物〕

ポスター B2判 カラー印刷 500部

リーフレット A4判 両面カラー印刷 12,000部

（２）教育普及活動

令和4年度は、教育普及活動として26件の事業を行った。今年度はコロナ感染症対策も緩和されてきたが、「ゴールデンウィークイベント」、「ヒストリックカー&クラシックカーミーティング in 岩手県立博物館」、「北上川水源地域セミナー」（北上川ダム統合管理事務所共催）は中止となった。「博物館まつり」は、規模を縮小し「秋のまなび教室」として5部門がそれぞれイベントを10月8日（土）～10月10日（月）の三日間に分散開催した。

企画展「赤色に宿るチカラ」に関連して、こども向けイベント「赤いものクイズ」を開催し記念品（赤い天然石：赤メノウ、赤サンゴ、バラ輝石）を贈呈した。

学校の長期休み中の子供展示解説会（夏、冬、春「休みスペシャル ワクワク！こどもツアー」）は、平日を解説員、土日祝日を学芸員が担当した。コロナ禍のため今年度も触察はできなかったが、代わりに解説内容に係る記念品（標本箱・鳥の羽毛・鉱物・古銭など）を配布し、好評であった。

講座・観察会としては、ほかに、自然観察会、地質観察会、考古学セミナー（今年度は講演会のみ）、「博物館で学ぶ岩手の歴史講座」等を開催している。平成29年度から休止していた民俗部門の「伝統芸能鑑賞会」は、中学生以下を対象とする「民俗講座」としてリニューアルし、夏季に「たいけん！むかしのくらし（あかり、洗濯、氷かき）」、秋季に「たいけん！むかしのしごと（千歯、唐箕、石臼）」を実施している。

毎月第1土曜日には講堂にて「ミュージアムシアター」で様々なプログラムを上映し、幅広い年代の皆さんにご利用いただいているが、若年層の参加が少なくなりプログラムおよび意義を問いつ時期に来ている。また、今年度も人気の「冬休みワクワク！ワークショップ」（「たいけん教室」の特別版）を年明けに開催した。

学習支援や社会教育事業としては、例年よりも件数は減ったままであるが、小中学校・県立学校・大学・幼稚園・各種団体等からの団体利用や教材貸し出し、学校への出前授業に対応した。

当館講堂で実施する「イワテミュージアムコンサート」では、数年ぶりに学校等関連団体でない松園シルバードックスをお願いしたが、定期公演を望む声多数など好評であった。



図5.(2)-1 盛岡市立上田小学校における出前講座

ア. 開催事業

(ア) 展示付帯事業（入館料を要する区域〔展示室内〕での事業）

表 5.(2)-1 令和4年度展示付帯事業参加者総数

	イベント名	回数	参加者総数
1	学芸員による展示解説会	8	154
2	第71回企画展「赤色に宿るチカラ」赤いものクイズ	49	2,490
3	ワクワク！こどもツアー	37	103
4	解説員による依頼解説	実施 69／開館日数 302	1,259
5	チャレンジ！はくぶつかん	51	2,377
6	ワードクイズ	174	1,212
7	ナイトミュージアム	2	40
合計			7,635

表 5.(2)-2 令和4年度展示付帯事業別参加者詳細

■ 学芸員による展示解説会（展覧会／定時）

延べ 154 名

	期日	講師等	演題・イベント名ほか	参加人数
1	6月19日 日	米田 寛（考古） 近藤 良子（民俗）	第71回企画展「赤色に宿るチカラ」展示解説会	24
2	7月17日 日			20
3	8月14日 日			27
4	9月23日 金	高橋 雅雄（生物）	テーマ展「水辺の生きもの」展示解説会	15
5	10月9日 日			18
6	1月22日 日	米田 寛（考古）、近藤 良子（民俗）、工藤 健（歴史）	テーマ展「新収蔵・新指定展Ⅰ 文化史編」展示解説会	5
7	2月12日 日	高木 晃（考古）、木戸口俊子・近藤 良子（民俗）、目時 和哉（歴史）		15
8	3月26日 日	鈴木まほろ・渡辺 修二・高橋 雅雄（生物）、望月 貴史・佐藤 修一郎（地質）	テーマ展「新収蔵・新指定展Ⅱ 自然史編」展示解説会	30

※展覧会担当学芸員が展示の見所を解説。

■ 第71回企画展「赤色に宿るチカラ」赤いものクイズ（展覧会／随時）

延べ 2,490 名

	期日	曜日	当番	参加者数（こども）	参加者数（大人）
1	6月25日	土	米田 寛、村田 雄哉	54	72
2	6月26日	日	米田 寛、近藤 良子	60	74
3	6月28日	火		3	4
4	6月29日	水		1	1
5	6月30日	木		3	1
6	7月1日	金		0	0
7	7月2日	土		17	20
8	7月3日	日		54	51
9	7月5日	火		0	0
10	7月6日	水		1	1
11	7月7日	木		0	0

	期日	曜日	当番	参加者数 (こども)	参加者数 (大人)
12	7月8日	金	米田 寛、近藤 良子	0	0
13	7月9日	土		17	20
14	7月10日	日		74	84
15	7月16日	土		83	94
16	7月17日	日		126	140
17	7月18日	月		48	61
18	7月20日	水		4	3
19	7月21日	木		7	2
20	7月22日	金		13	11
21	7月23日	土		54	63
22	7月24日	日		63	65
23	7月26日	火		15	11
24	7月27日	水		24	10
25	7月28日	木		12	13
26	7月29日	金		2	3
27	7月30日	土		22	19
28	7月31日	日		27	25
29	8月1日	月		62	51
30	8月2日	火		21	13
31	8月3日	水		32	24
32	8月4日	木		29	21
33	8月5日	金		14	16
34	8月6日	土		24	23
35	8月7日	日		19	16
36	8月8日	月		14	12
37	8月9日	火		15	12
38	8月10日	水		12	11
39	8月11日	木		35	37
40	8月12日	金		13	27
41	8月13日	土		26	27
42	8月14日	日		2	2
43	8月15日	月	8	8	
44	8月16日	火	9	12	
45	8月17日	水	29	30	
46	8月18日	木	10	5	
47	8月19日	金	13	10	
48	8月20日	土	15	15	
49	8月21日	日	44	40	
合計				1,230	1,260

※企画展「赤色に宿るチカラ」関連クイズ

■ 夏・冬・春のワクワク！こどもツアー（常設展示室／定時）

延べ103名

	期日	曜日	演題	講師等	参加者数	備考
1	7月26日	火	身近で暮らす 生き物たち	解説員	4	小学生以下2、小学生1、大人1
2	7月27日	水		解説員	5	小学生以下1、小学生2、大人2
3	7月28日	木		解説員	4	小学生以下2、小学生1、大人1
4	7月29日	金		解説員	3	小学生2、大人1
5	7月30日	土		解説員	0	

	期日	曜日	演題	講師等	参加者数	備考	
6	7月31日	日		高橋 雅雄	9	小学生以下3、小学生5、大人1	
7	8月1日	月		解説員	2	小学生1、大人1	
8	8月2日	火		解説員	2	小学生1、大人1	
9	8月3日	水		解説員	0		
10	8月4日	木		解説員	2	小学生2	
11	8月5日	金		解説員	5	小学生2、大人3	
12	8月6日	土		解説員	0		
13	8月7日	日		高橋 雅雄	2	小学生1、大人1	
14	8月8日	月		解説員	2	小学生1、大人1	
15	8月9日	火		解説員	2	小学生以下1、大人1	
16	8月10日	水		解説員	3	小学生以下1、小学生1、大人1	
17	8月11日	木		解説員	0		
18	12月27日	火		大昔の人々の くらしや道具	解説員	2	小学生以下1、大人1
19	12月28日	水			解説員	7	小学生以下1、小学生3、大人3
20	1月4日	水			解説員	2	小学生1、大人1
21	1月5日	木			解説員	3	小学生2、大人1
22	1月6日	金			解説員	5	小学生3、大人2
23	1月7日	土	金子 昭彦		4	小学生以下1、小学生1、大人2	
24	1月8日	日	米田 寛		5	小学生以下3、大人2	
25	1月9日	月	解説員		3	小学生以下1、大人2	
26	1月11日	火	解説員		2	小学生以下1、大人1	
27	1月12日	水	解説員		4	小学生以下1、小学生1、大人2	
28	1月13日	木	解説員		0		
29	3月22日	水	昔のお金と昔 の道具		解説員	3	小学生1、大人2
30	3月23日	木			解説員	0	
31	3月24日	金			解説員	4	小学生3、大人1
32	3月25日	土			工藤 健	0	
33	3月26日	日			近藤 良子	2	小学生1、大人1
34	3月28日	火			解説員	0	
35	3月29日	水		解説員	3	小学生以下2、大人1	
36	3月30日	木		解説員	3	小学生2、大人1	
37	3月31日	金		解説員	4	小学生以下1、小学生1、大人2	

※平成28年度から実施している子ども向け定時解説。

■ 解説員による依頼解説（常設展示室／随時）

69件 1,259名

実施日	参加者数		解説・案内・利用箇所										実施件数
			総合展示室					いわて文化史 展示室			いわて自然 史展示室		
			地質	考古	歴史	民俗	現勢・ 生物	考古	歴史	民俗	地質	生物	
4月	学校等	19	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	一般	11	2	2	2	2	2	0	0	0	0	0	2
5月	学校等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般	32	4	4	4	6	5	1	1	1	1	2	7
6月	学校等	212	8	4	2	2	2	0	0	0	0	0	9
	一般	40	4	3	4	3	3	1	1	1	1	1	5

実施日	参加者数		解説・案内・利用箇所										実施件数
			総合展示室					いわて文化史展示室			いわて自然史展示室		
			地質	考古	歴史	民俗	生物 現勢・	考古	歴史	民俗	地質	生物	
7月	学校等	113	3	2	1	1	1	0	0	0	0	0	3
	一般	48	4	5	4	5	5	1	1	1	1	1	5
8月	学校等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般	60	4	2	2	1	4	0	0	0	0	0	7
9月	学校等	127	3	3	4	4	3	0	0	0	0	0	5
	一般	20	4	4	4	4	4	0	0	0	0	0	4
10月	学校等	174	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
	一般	24	1	1	1	2	2	0	0	0	0	0	2
11月	学校等	77	1	1	1	2	1	0	0	1	0	0	2
	一般	15	2	2	2	2	2	0	0	0	0	0	2
12月	学校等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	学校等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般	5	2	4	4	2	2	1	1	2	1	1	4
2月	学校等	221	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	2
	一般	26	2	3	3	2	2	0	0	0	1	1	3
3月	学校等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	一般	35	4	3	2	2	2	0	0	0	0	0	4
	計	1,259	50	43	40	41	41	4	4	9	5	6	69

※来館者の依頼による解説員の展示資料解説。

■ チャレンジ! はくぶつかん (常設展示室ほか/随時)

延べ2,377名

	期日	曜日	テーマ	シート作成	参加者数 (保護者込)	月別総数 (保護者込)	備考
1	4月9日	土	金	高橋 雅雄	29	171	大人 15
2	4月10日	日			44		大人 21
3	4月16日	土			53		大人 24
4	4月17日	日			45		大人 22
5	5月14日	土	東	工藤 健	31	133	大人 15
6	5月15日	日			54		大人 24
7	5月21日	土			7		大人 4
8	5月22日	日			41		大人 20
9	6月11日	土	赤	渡辺 修二	12	144	大人 6
10	6月12日	日			55		大人 25
11	6月18日	土			38		大人 15
12	6月19日	日			39		大人 17
13	7月9日	土	風	佐藤修一郎	34	267	大人 17
14	7月10日	日			56		大人 25
15	7月16日	土			44		大人 22
16	7月17日	日			66		大人 32
17	7月18日	月			67		大人 29
18	8月13日	土	南	近藤 良子	59	202	大人 30
19	8月14日	日			47		大人 24
20	8月20日	土			43		大人 22
21	8月21日	日			53		大人 24

	期日	曜日	テーマ	シート作成	参加者数 (保護者込)	月別総数 (保護者込)	備考
22	9月17日	土	水	米田 寛	25	229	大人 10
23	9月18日	日			大人 32		
24	9月19日	月			大人 29		
25	9月24日	土			大人 22		
26	9月25日	日			大人 14		
27	10月8日	土	米	昆 浩之	24	248	-
28	10月9日	日			大人 46		
29	10月10日	月			44		-
30	10月15日	土			58		大人 25
31	10月16日	日			32		大人 18
32	11月12日	土	黄	山崎 遙	52	231	大人 25
33	11月13日	日			43		大人 18
34	11月19日	土			51		大人 23
35	11月20日	日			85		大人 85
36	12月10日	土	終わり	望月 貴史	46	165	大人 25
37	12月11日	日			52		大人 22
38	12月17日	土			35		大人 19
39	12月18日	日			32		大人 16
40	1月14日	土	新しい	川向富貴子	70	219	大人 33
41	1月15日	日			74		大人 35
42	1月21日	土			36		大人 17
43	1月22日	日			39		大人 20
44	2月11日	土	貰う	目時 和哉	59	215	大人 25
45	2月12日	日			67		大人 33
46	2月18日	土			42		大人 20
47	2月19日	日			47		大人 22
48	3月11日	土	三	村田 雄哉	44	153	大人 22
49	3月12日	日			49		大人 24
50	3月18日	土			28		大人 12
51	3月19日	日			32		大人 14

※当館学芸員が毎月作成するワークシート（展示に関するクイズ）を配布、平成15年度から実施。今年度は23名の最優秀チャレンジャー（全12回に参加した皆勤賞、5回目4名、4回目5名、3回目1名、2回目2名、1回目11名）が誕生した。

■ ワードクイズ（常設展示室／随時）

延べ1,212名

期日	回数	テーマ	シート作成	参加者数	参加者総数
4月1日（金）～4月10日（日）の開館日 ※R3年度3月23日からの続き	9	石・化石	佐藤修一郎	38	115
	9	生き物	高橋 雅雄	38	
	9	歴史	川向富貴子	39	
7月21日（木・祝）～8月12日（金）の開館日	22	石・化石	佐藤修一郎	263	646
	22	生き物	昆 浩之	218	
	22	歴史	村田 雄哉	165	
12月20日（火）～1月13日（金）の開館日	17	石・化石	金子 昭彦	72	192
	17	生き物	米田 寛	68	
	17	歴史	村田 雄哉	52	
3月21日（火）～3月31日（金）の開館日	10	石・化石	佐藤修一郎	73	259
	10	生き物	高橋 雅雄	95	
	10	歴史	村田 雄哉	91	

※公益財団法人岩手県文化振興事業団自主事業として、平成 27 年度から実施しているワークシート（当館学芸員作成）。

■ ナイトミュージアム（常設展示室／定時）

延べ 40 名

	期日	曜日	時間	会場	講師・運営	参加者数
1	8月5日	金	16:30～17:30	総合展示室・いわて自然史展示室	博物館全職員	19
2	8月6日	土	16:30～17:30			21

※平成 28 年度から実施。閉館後、照明を落とした展示室をツアーガイドにしたがって見学し、各部門学芸員が解説する。

※事前申込制。

■ 展示資料解説「けんぱくものしりシート」

	発行日		テーマ		シート作成者
1	4月2日	土	民俗	田山曆	解説員
2	5月7日	土	生物	ニホンカモシカ	
3	6月4日	土	体験学習室	魚釣り	
4	7月2日	土	地質	オオバタグルミ	
5	8月6日	土	考古	縄文土器	
6	9月17日	土	歴史	一切経見返絵	
7	10月1日	土	民俗	木炭	
8	11月5日	土	生物	深海魚	
9	12月3日	土	体験学習室	トンビコート	
10	1月7日	土	地質	岩石のできかた	
11	2月4日	土	考古	衝角付冑	
12	3月4日	土	歴史	紙腔琴	

※当館解説員が毎月作成している展示資料解説カード。館内で配布するとともに、当館 HP に掲載している。

(イ) 教育普及事業（無料または実費負担事業）

表 5.(2)-3 令和 4 年度教育普及事業別参加者総数

	種別	イベント名	回数	参加者総数
1	講演会	文化講演会	1	80
2	講演会	考古学セミナー	1	46
3	講演会	特別講演会	1	41
4	講演会	岩手県立博物館友の会話のサロン	2	83
5	講演会	県博日曜講座	22	930
6	見学会	県博バックヤードツアー	2	11
7	見学会	自然観察会	2	41
8	見学会	地質観察会	2	55
9	鑑賞会	イワテミュージアムコンサート	1	60
10	鑑賞会	ミュージアムシアター	10	121
11	ワークショップ	たいけん教室～みんなのためそう～	47	737
12	ワークショップ	冬のワクワク！ワークショップ	1	66

	種別	イベント名	回数	参加者総数
13	ワークショップ	秋のまなび教室	5	115
14	ワークショップ	民俗講座	2	54
15	実習・講習会	博物館で学ぶ岩手の歴史講座	6	54
16	実習・講習会	館園実習（7日間）	1	6
17	実習・講習会	文化財等取扱講習会（2日間）	1	19
18	実習・講習会	教員のための博物館の日（2日間）	1	18
19	その他	県博出前講座	21	823
			合計	3,360

表 5.(2)-4 令和4年度教育普及事業別参加者詳細

■ 文化講演会（講演会）

期日	曜日	演題・イベント名ほか	講師等		参加者数
			名前	所属等	
10月23日	日	南半球のマングローブ林での鳥類研究：カッコウ類と宿主の軍拡競争	上田 恵介 氏	日本野鳥の会会長	80

※テーマ展「水辺の生きもの」関連事業として実施。

■ 考古学セミナー（講演会）

期日	曜日	演題・イベント名ほか	講師等		参加者数
			名前	所属等	
10月30日	日	琥珀利用の歴史	千葉 啓蔵 氏	久慈市教育委員会	46

※感染症対策の一環として事前申込制とし、定員の上限を設定した。

※現地見学会は休止。

■ 特別講演会（講演会）

期日	曜日	演題・イベント名ほか	講師等		参加者数
			名前	所属等	
11月3日	木/祝	水辺に棲む『その他の無脊椎動物』と環境	松政 正俊 氏	岩手医科大学教授	41

※テーマ展「水辺の生きもの」関連事業として実施。

■ 岩手県立博物館友の会話のサロン（講演会）

延べ83名

	期日	曜日	演題・イベント名ほか	講師等		参加者数
				名前	所属等	
1	5月21日	土	岩手山の江戸時代の噴火	土井 宣夫 氏	岩手大学客員教授	25
2	2月18日	土	本州産クマガラの生態等	藤井 忠志 氏	NPO 法人本州産クマガラ研究会理事長	58

■ 県博日曜講座（講演会）

延べ930名

	期日	曜日	演題・イベント名ほか	講師等		参加者数
				名前	所属等	
1	4月10日	日	考古学から見た岩手の歴史	金子 昭彦		30
2	4月24日	日	石碑に刻まれた三陸津波の記憶	目時 和哉		35
3	5月8日	日	生命史をひもとく－白亜紀（前編）－	望月 貴史		47
4	5月22日	日	十和田平安噴火と安比川流域の集団	丸山 浩治		45
5	6月12日	日	世界の中の岩手－明治初期の出来事を通して－	工藤 健		34

	期日	曜日	演題・イベント名ほか	講師等		参加者数
				名前	所属等	
6	6月26日	日	盛岡藩の諸職人について	昆 浩之		40
7	7月10日	日	押出遺跡の漆製品から探る縄文ロジスティクス ～人・モノが紡ぐ交流の物語～	水戸部秀樹 氏	山形県埋蔵文化財センター	44
8	7月24日	日	古代国家との境界に生きる～蝦夷の赤い土器から探る集団関係～	米田 寛		48
9	8月7日	日	赤彩表現される異界・異形のものたち —企画展「赤色に宿るチカラ」鑑賞ガイド—	近藤 良子		32
10	8月21日	日	地質観察地の今昔	佐藤修一郎		28
11	9月11日	日	江戸～明治の大衆娯楽について—操人形芝居を中心に—	木戸口俊子		21
12	9月25日	日	岩手の水辺の生きもの：特に野鳥について	高橋 雅雄		69
13	11月13日	日	岩手の水辺のクモ・トンボ	渡辺 修二		47
14	11月27日	日	岩手の水辺の植物について	鈴木まほろ		70
15	12月11日	日	「続 雑学のススめ」(笑いと頭の体操)～中高年の皆さんと一緒に考える日本語(大丈夫ですか、その日本語)と名言(あまり知られていない心が潤う名言)～	高橋 廣至		39
16	12月25日	日	文化財を守るための環境管理紹介ツアー	山崎 遙 丸山 浩治		25
17	1月8日	日	竹倉史人著『土偶を読む』を読む。	金子 昭彦		59
18	1月22日	日	縄文土器のいろんな見方	高木 晃		53
19	2月12日	日	岩手で受け継がれたきた手わざ	川向富貴子		37
20	2月26日	日	縄文の逸品「巻貝形土器」からみえてくる三陸の豊かさ	長谷川 真 氏	宮古市教育委員会	40
21	3月12日	日	困った鳥：カワウ	高橋 雅雄		53
22	3月26日	日	絵図の魅力に触れる	村田 雄哉		34

※感染症対策の一環として定員数を制限した。

■ 県博バックヤードツアー（見学会）

延べ11名

	期日	曜日	概要	会場	講師等	参加者数
1	5月15日	日	自然史コース	第2・4・5収蔵庫	学芸職員	5
2			歴史コース	第1・3・4収蔵庫		6

※5月18日の国際博物館の日記念イベントとして平成18年度から実施。これまで1コース10人の定員で実施していたが、前年度から5人に減じている(令和2年度は中止)。このほか、5月18日(火)を入館無料とした。

※事前申込制。

■ 自然観察会（見学会）

延べ41名

	期日	曜日	イベント名	会場	講師等		参加者数
					名前	所属等	
1	5月29日	日	第83回自然観察会： 湿地の生き物を観察しよう	滝沢市木賊川遊水地	生物部門	当館学芸員	22
2	11月23日	水/祝	第84回自然観察会： ハクチョウとカモ類を観察しよう	盛岡市高松公園	生物部門	当館学芸員	19

※事前申込制。

■ 地質観察会（見学会）

延べ 55 名

	期日	曜日	イベント名ほか	会場	講師等		参加者数
					名前	所属等	
1	7月3日	日	第83回地質観察会： 北上市西部、地層は続くよ ～ 竜の口層貝類化石をも とに ～	北上市和賀町	大石 雅之 氏	当館研究協 力員	25
2	10月30日	日	第84回地質観察会： 陸前高田市の玉山金山を歩 く	陸前高田市竹 駒町	蒲田 理 氏	紫波町文化 財調査委員	30

※事前申込制。

■ イワテミュージアムコンサート（鑑賞会）

期日	曜日	演題・イベント名ほか	参加者数
11月20日	日	松園シルバーダックスによる合唱コンサート	60

※公益財団法人岩手県文化振興事業団自主事業として平成28年度から実施。

※感染症対策の一環として事前申込制とし、定員数を制限した。

■ ミュージアムシアター（鑑賞会）

延べ 121 名

	期日	曜日	概要	種別	運営	参加者数
1	4月2日	土	・1ねん1くみシリーズ（4話） ・忍たま乱太郎のがんばるし かないさシリーズ（3話）	アニメ	映写：中央地域視聴覚ライ ブラリー映写ボランティア シネマ友の会	4
2	5月7日	土	・なかよしこいのぼり ・赤いカーネーション ・こぎつねの交通安全 ・おれたちともだち	アニメ	映写：中央地域視聴覚ライ ブラリー映写ボランティア シネマ友の会	6
3	6月4日	土	サクラサク	実写	映写：中央地域視聴覚ライ ブラリー映写ボランティア シネマ友の会	20
4	7月2日	土	・ねぎぼうずのあさたろう ・楽しい民話と宮沢賢治の世界	アニメ	映写：中央地域視聴覚ライ ブラリー映写ボランティア シネマ友の会	7
5	8月6日	土	ガラスのうさぎ	アニメ	映写：中央地域視聴覚ライ ブラリー映写ボランティア シネマ友の会	9
6	10月1日	土	小津安二郎の名作1「晩春」	実写	映写：中央地域視聴覚ライ ブラリー映写ボランティア シネマ友の会	10
7	11月5日	土	次郎物語	実写	映写：中央地域視聴覚ライ ブラリー映写ボランティア シネマ友の会	13
8	12月3日	土	フランダースの犬	アニメ	映写：中央地域視聴覚ライ ブラリー映写ボランティア シネマ友の会	20
9	2月4日	土	おくりびと	実写	映写：中央地域視聴覚ライ ブラリー映写ボランティア シネマ友の会	11
10	3月4日	土	東京物語	実写	映写：中央地域視聴覚ライ ブラリー映写ボランティア シネマ友の会	21

※平成14年度から実施する16mmフィルムまたはDVD上映会。盛岡教育事務所中央視聴覚ライブラリーとの共催。

■ たいけん教室～みんなのためそう～（ワークショップ）

延べ737名

	期日	曜日	演題・イベント名ほか	講師	参加者 実数	参加者総数 (保護者込)
1	4月10日	日	スライムであそぼう	当館解説員	5	9
2	4月17日	日	まが玉アクセサリー	当館解説員	5	10
3	4月24日	日	こいのぼりづくり	当館解説員	5	10
4	5月1日	日	土器づくり	当館解説員	5	10
5	5月8日	日	アンモナイトの消しゴムづくり	当館解説員	5	10
6	5月15日	日	オリジナル卵をつくろう	当館解説員	5	10
7	5月22日	日	化石のレプリカ	当館解説員	4	7
8	5月29日	日	草花のそめもの	当館解説員	6	11
9	6月5日	日	チャグチャグ馬コづくり	当館解説員	10	21
10	6月12日	日	砂絵	当館解説員	8	15
11	6月19日	日	手づくり万華鏡	当館解説員	9	18
12	6月26日	日	ウォータードームづくり	当館解説員	10	20
13	7月3日	日	スライムであそぼう	当館解説員	9	16
14	7月10日	日	まが玉アクセサリー	当館解説員	10	15
15	7月17日	日	ちぎり絵のうちわ	当館解説員	9	15
16	7月24日	日	ミニさんさだいこ（午前）	当館解説員	20	38
17	7月24日	日	ミニさんさだいこ（午後）	当館解説員		
18	7月31日	日	カラフルクモづくり（午前）	当館解説員	19	37
19	7月31日	日	カラフルクモづくり（午後）	当館解説員		
20	8月7日	日	天然石のフォトフレーム（午前）	当館解説員	20	37
21	8月7日	日	天然石のフォトフレーム（午後）	当館解説員		
22	8月14日	日	お絵かきはんこ	当館解説員	10	18
23	8月21日	日	化石のレプリカ	当館解説員	10	20
24	8月28日	日	3Dメガネで万華鏡	当館解説員	10	18
25	10月2日	日	猫絵馬づくり	当館解説員	4	7
26	10月16日	日	スライムであそぼう	当館解説員	7	12
27	10月23日	日	カラフルクモづくり	当館解説員	11	21
28	10月30日	日	ヨーヨーの絵つけ	当館解説員	8	14
29	11月6日	日	化石のレプリカ	当館解説員	8	13
30	11月13日	日	天然石のフォトフレーム	当館解説員	9	17
31	11月20日	日	お絵かきはんこ	当館解説員	9	16
32	11月27日	日	松ぼっくりのXmas ツリー	当館解説員	10	20
33	12月4日	日	松ぼっくりのXmas ツリー	当館解説員	10	20
34	12月11日	日	たこづくり	当館解説員	10	21
35	12月18日	日	かんたん門松	当館解説員	10	19
36	12月25日	日	まゆで干支づくり(卯)	当館解説員	20	36
37	12月25日	日	まゆで干支づくり(卯)	当館解説員		
38	1月15日	日	木のかまの絵つけ	当館解説員	7	12
39	1月22日	日	まが玉アクセサリー	当館解説員	10	18
40	1月29日	日	紙コップのあやつり人形	当館解説員	6	12
41	2月5日	日	土偶づくり	当館解説員	10	19
42	2月12日	日	化石のレプリカ	当館解説員	10	19
43	2月19日	日	おひなさまづくり	当館解説員	3	6
44	2月26日	日	スライムであそぼう	当館解説員	9	18
45	3月19日	日	アンモナイトの消しゴムづくり	当館解説員	10	17
46	3月26日	日	手づくり万華鏡（午前）	当館解説員	19	35
47	3月26日	日	手づくり万華鏡（午後）	当館解説員		

※昭和 56 年度から実施している当館解説員によるワークショップ。

※定員はプログラムごとに 20～30 名の範囲で設定してきたが、令和 2 年度からは感染症対策として 5 名、令和 4 年 6 月からは 10 名とした。

※学校の長期休業期間の 7 月 24 日、7 月 31 日、8 月 7 日、3 月 26 日は午前午後の 2 回実施した。

※事前申込制。

■ 冬のワクワク！ワークショップ（ワークショップ）

期日	曜日	演題・イベント名ほか	講師等	参加者 実数	参加者総数 (保護者込)
1 月 7 日	土	化石のレプリカづくり (AM 2 回、PM 2 回)	当館解説員 ほか	38	66

※平成 24 年度から実施している当館解説員によるワークショップ。事前申込制としたが、定員に満たなかった場合は当日受付可とした。

■ 秋のまなび教室（ワークショップ）

延べ 115 名

	期日	曜日	イベント名	講師等	参加者 実数	参加者総数 (保護者込)
1	10 月 8 日	土	「生きもの探偵」	生物部門	5	11
			「どきのけんきゅう」	考古部門	9	14
2	10 月 9 日	日	「侍になろう！」	歴史部門	5	12
			「ミニミニ縁日！」	民俗部門	29	58
3	10 月 10 日	月/祝	「たんけん！岩石園」	地質部門	7	20

※公益財団法人岩手県文化振興事業団自主事業。

※事前申込制としたが、空きがあれば当日受付可とした。

■ 民俗講座「たいけん！むかしのくらし」（ワークショップ）

延べ 54 名

	期日	曜日		会場	講師等	参加者数	備考
1	8 月 20 日	土	①10:00 ②11:30 ③13:30	旧佐々木家住宅	学芸職員 館園実習生	25	こども 15、大人 10
2	10 月 23 日	日		体験学習室テラス	学芸職員 解説員	29	こども 15、大人 14

※令和 4 年度からの新規事業。収蔵資料の民具を実際に使用することで、昔の暮らしと仕事を学ぶ幼児～中学生向けのワークショップ。

※事前申込制。

■ 博物館で学ぶ岩手の歴史講座（実習・講習会）

延べ 54 名

	期日	曜日	内容	講師等		参加者数
				名前	所属等	
1	9 月 24 日	土	はじめての歴史学	工藤 健	当館学芸員	11
2	10 月 1 日	土	いわての古代～中世史	目時 和哉	当館学芸員	10
3	10 月 15 日	土	いわての近世史	昆 浩之	当館学芸員	8
4	10 月 22 日	土	いわての近代史	工藤 健	当館学芸員	8
5	10 月 29 日	土	いわての現代史	村田 雄哉	当館学芸員	9
6	11 月 5 日	土	いわての歴史資料	昆 浩之	当館学芸員	8

※令和 3 年度から実施。歴史を専門的に学んだことのない方や基礎から学びなおしたいと考えている方を主な対象として、古代から現在までの本県及び本国の歴史展開の概説と、くずし字や和様漢文の初歩的読解法を含む史料の取扱法の解説を主な内容とするリレー講座。

※事前申込制。

■ 館園実習（実習・講習会）

受講者 6 名

	期日	曜日	講師	講座内容	受講者数
1	8月18日	木	高橋 廣至 館長	実習にあたって	6
2			学芸第三課	岩手県立博物館概要説明	
3			実習担当	施設見学	
4			学芸第一課長	講義「地方博物館の使命と役割」	
5			総務課	博物館管理業務の実務	
6	8月19日	金	学芸第二課	博物館資料管理の実務	6
7			企画展担当	博物館展示の実務（企画展を例に）	
8			文化財科学部門	博物館資料保存の実務	
9			解説員	展示資料解説の実務（解説会）	
10			文化財科学部門	博物館資料保存の実務	
11	8月20日	土	民俗部門	博物館資料整理の実務（民俗講座補助）	6
12			学芸第三課	博物館展示の実務・博物館管理業務の実務（ケース・演示具組立、メンテナンス）	
13	8月21日	日	生物部門	博物館展示の実務 博物館資料整理の実務（自然史系）	6
14			解説員	博物館教育普及の実務 （体験学習室・たいけん教室補助）	
15			生物部門	博物館展示の実務 博物館資料整理の実務（自然史系）	
16	8月23日	火	歴史部門	博物館展示の実務 博物館資料整理の実務	6
17			地質部門	博物館展示の実務 博物館資料整理の実務（動画制作準備）	
18			歴史部門	博物館展示の実務 博物館資料整理の実務	
19	8月24日	水	考古部門	博物館展示の実務 博物館資料整理の実務	6
20			歴史部門	博物館展示の実務 博物館資料整理の実務	
21			考古部門	博物館展示の実務 博物館資料整理の実務	
22	8月25日	木	地質部門	博物館展示の実務 博物館資料整理の実務（自然史系）	6
23			歴史部門	博物館展示の実務 博物館資料整理の実務（人文系）	
24			学芸第三課長	実習終了にあたって	

※今年度は、盛岡大学、東海大学、茨城大学、東京農業大学、岩手大学から合計6名を受け入れた。

■ 文化財等取扱講習会（実習・講習会）

受講者 19 名

月日	時間	A 班	B 班
1月27日（木）		受付	
		〔講堂前〕 9:40~10:00	
	20分	開講式・オリエンテーション	
		〔講堂〕 10:00~	
		【資料及び環境管理】文化財科学 〔 講堂・展示室 〕 10:30~	
		【資料及び環境管理】文化財科学 〔 講堂・展示室 〕	
60分		昼食（ 教室・実技室 ） 12:00-13:00	

月日	時間	A 班	B 班
	70 分	【人文系資料取扱基礎①】考古 〔 講堂 〕 13:00～	【人文系資料取扱基礎①】歴史 〔 第1収蔵庫 〕 13:00～
	30 分	【自然史資料取扱基礎①】生物 〔 第2収蔵庫 〕 14:20～	【自然史資料取扱基礎①】地質 〔 第4収蔵庫 〕 14:20～
	70 分	【人文系資料取扱基礎②】歴史 〔 第1収蔵庫 〕 15:05～	【人文系資料取扱基礎②】考古 〔 講堂 〕 15:05～
1 月 28 日 (金)		受付	
		〔講堂前〕 9:40～9:55	
		【連絡】〔 講堂 〕	
	30 分	【自然史資料取扱基礎②】地質 〔 第4収蔵庫 〕 10:00～	【自然史資料取扱基礎②】生物 〔 第2収蔵庫 〕 10:00～
	70 分	【人文系資料取扱基礎③】民俗 〔 講堂・第3収蔵庫 〕 10:40～	【人文系資料取扱基礎③】古美術 〔 第1収蔵庫 〕 10:40～
	60 分	昼食 (教室・実技室) 12:00-13:00	
	70 分	【人文系資料取扱基礎④】古美術 〔 第1収蔵庫 〕 13:00～	【人文系資料取扱基礎④】民俗 〔 講堂・第3収蔵庫 〕 13:00～
		【意見交換】 〔 講堂 〕 14:25～	
	閉講式 〔 講堂 〕 15:30～15:40		

※事前申込制。

■ 教員のための博物館の日 (実習・講習会)

延べ 18 名

期日	曜日	講師		講座内容	受講者数	備考
		名前	所属等			
8月5～6日	金・土	望月 貴史	地質部門	アンモナイトのストラップづくり	18	5日(大人10)、6日(大人6、子ども2)
		渡辺 修二	生物部門	骨から分かる生物の進化		
		工藤 健	歴史部門	総合展示室(古代～近世)展示解説		
		川向富貴子	民俗部門	授業で役立つ昔の暮らし		

※公益財団法人岩手県文化振興事業団自主事業。

※学校との連携を深める目的として平成28年度から実施。講座以外に参加者から博物館の利用法について相談を受けた。受講者の子どもも同伴可としている。

■ 博物館まつり

10月9日(日)に予定していた博物館まつりは、新型コロナウイルス感染症対策のため中止とし、代替事業として秋のまなび教室を行った。

※公益財団法人岩手県文化振興事業団自主事業。

■ 県博出前講座

※延べ 823 名

	期日	曜日	派遣職員	演題・イベント名ほか	依頼者(主催者)	参加者数	備考
1	4月9日	土	望月 貴史	岩手の化石(恐竜)について	奥州市江刺愛宕地区センター 食を育む会 子どもひろば	27	子ども8名、大人19名
2	4月20日	水	木戸口俊子 米田 寛	①博学連携事業について ②操り人形の歴史	岩手県立平館高等学校	9	担当教諭1名、生徒8名
3	6月3日	金	高橋 雅雄	地域環境調査実習C	岩手県立大学総合政策学部	20	
4	6月21日	火	鈴木まほろ	校庭の植物観察	八幡平市立柏台小学校	19	小学3・4年生17名、教諭2名
5	7月9日	土	渡辺 修二	消費者交流会「生き物調査隊」	有限会社ピース	40	

	期日	曜日	派遣職員	演題・イベント名ほか	依頼者 (主催者)	参加者数	備考
6	8月30日	火	望月 貴史	学校設定教科「ライフ」 岩手の化石	岩手県立青松支援学校	6	
7	9月13日	火	米田 寛	学校設定教科「ライフ」 蝦夷の赤い土器	岩手県立青松支援学校	8	
8	9月30日	金	鈴木まほろ	未来に残そうわたしたちのふるさと 岩手の絶滅危惧植物	盛岡市立仙北小学校	120	小学5年生
9	10月4日	火	渡辺 修二	未来に残そうわたしたちのふるさと 岩手のカワシンジュガイ	盛岡市立仙北小学校	120	小学5年生
10	10月18日	火	渡辺 修二	学校設定教科「ライフ」 岩手のカワシンジュガイ	岩手県立青松支援学校	3	
11	10月25日	火	望月 貴史	理科中学1年【地球】 地球「4章 語る大地」 岩手の化石	盛岡市立下橋中学校	60	中学1年生
12	10月30日	日	鈴木まほろ	秋の草花を観察しよう!	奥州市江刺愛宕地区 センター 食を育む 会 子どもひろば	26	子ども13名、 大人13名
13	11月4日	金	渡辺 修二	未来に残そうわたしたちのふるさと 森林と川の生きものの関係	盛岡市立仙北小学校	120	小学5年生
14	11月8日	火	近藤 良子 川向富貴子	学校設定教科「ライフ」 人の一生～ゆりかごから墓場まで～	岩手県立青松支援学校	7	
15	11月15日	火	村田 雄哉 昆 浩之	学校設定教科「ライフ」 侍になろう	岩手県立青松支援学校	7	
16	11月30日	水	望月 貴史	生命の進化	岩手県立盛岡となん 支援学校	6	中学3年生1名、 中学2年生5名
17	1月11日	水	望月 貴史	岩手の化石	認定こども園日高な なつ星放課後児童ク ラブ	38	小学生32名、 大人6名
18	1月20日	金	望月 貴史	北松園小学校 PTA 3年生学年 レク 岩手の化石	盛岡市立北松園小学 校	86	
19	1月31日	火	近藤 良子 川向富貴子	昔のくらしの知恵	盛岡市立上田小学校	55	小学3年生
20	2月8日	水	近藤 良子 川向富貴子	かわる道具とくらし	八幡平市立柏台小学 校	8	小学3年生
21	2月22日	水	丸山 浩治	美術 I 津波で被災した資料の再生	岩手県立岩谷堂高等 学校	38	高校1年生36 名、教諭2名

※岩手県内に立地する学校、PTA または地区子ども会、学童クラブ等の課外活動組織を対象とし、当館が講師派遣に係る実費を負担したものの。

(ウ) 講演会・講座に係る職員派遣

表 5.(2)-5 令和4年度職員派遣

延べ804名 ※一部のオンライン参加者を含まない

	期日	曜日	派遣職員	演題・イベント名ほか	依頼者 (主催者)	会場	参加者数
1	4月16日	土	望月 貴史	いわて大恐竜展 ナイト ミュージアム展示解説	株式会社テレビ 岩手	岩手県民会館 展示室	30
2	4月23日	土	望月 貴史	いわて大恐竜展 ナイト ミュージアム展示解説	株式会社テレビ 岩手	岩手県民会館 展示室	30
3	4月30日	土	望月 貴史	いわて大恐竜展 ナイト ミュージアム展示解説	株式会社テレビ 岩手	岩手県民会館 展示室	39

	期日	曜日	派遣職員	演題・イベント名ほか	依頼者 (主催者)	会場	参加 者数
4	5月30日	月	渡辺 修二	カワシンジュガイの生態について	滝沢市教育委員会	滝沢市役所	8
5	6月11日	土	鈴木まほろ	自然散策	深沢紅子野の花美術館	中津川河川敷遊歩道	9
6	7月3日	日	鈴木まほろ	第28回大会実務ワークショップ 講演「日本全国にある押し葉標本の保全上の課題と、災害時の相互救援について」	日本微生物資源学会	(オンライン)	
7	7月21日	木	渡辺 修二	高層湿原で見られるトンボなど・現地観察会	八幡平ガイドの会	岩手県民の森森林学習館フォレストi・御在所沼	10
8	7月23日	土	渡辺 修二	自然観察会	子ども食堂「キッチンすまいる」	みちのく民俗村	20
9	7月24日	日	渡辺 修二	親子で昆虫観察会	盛岡市立浜民公民館	盛岡市外山森林公園	20
10	7月26日	火	望月 貴史	三陸の大地の成り立ち	三陸ジオパーク推進協議会	宮古市民総合体育館	18
11	8月6日	土	渡辺 修二	カワシンジュガイ移植体験事業	滝沢市河川課	滝沢市仁沢瀬川	30
12	8月7日	日	渡辺 修二	キッズ観察会	滝沢市環境パートナーシップ会議	滝沢市木賊川遊水地	10
13	9月5日	月	金子 昭彦	縄文時代と遮光器土偶(令和4年度成人教育「縄文講座」)	盛岡市立松園地区公民館	盛岡市立松園地区公民館	14
14	9月17日	土	近藤 良子	岩手の養蚕信仰	盛岡市立上田公民館	盛岡市立上田公民館	22
15	10月12日	水	鈴木まほろ	三陸ジオパークの自然資源(植生)について	三陸ジオパーク推進協議会	道の駅くじ	8
16	10月14日	金	鈴木まほろ	外来植物について	株式会社かまいしDMC	根浜海岸観光施設	14
17	10月17日	月	渡辺 修二	岩手のクモ	岩手町立一方井公民館	岩手町立一方井公民館	25
18	10月29日	土	鈴木まほろ	環境講座「岩手の水辺の植物と環境変化」	盛岡市立中央公民館	盛岡市立中央公民館 大会議室	4
19	10月29日	土	望月 貴史	宮古市の地質と化石	宮古市教育委員会	宮古市立崎山公民館	16
20	11月8日	火	目時 和哉	石碑が語る津波災害の歴史	盛岡地方气象台	盛岡地方气象台	20
21	11月12日	土	望月 貴史 佐藤修一郎	令和4年度岩手県高等学校教育研究会理科部会地学部会研修会 久慈地域の地質巡検	岩手県高等学校教育研究会	久慈市・野田村	6
22	11月19日	土	目時 和哉	石碑が語る災害の歴史	いわて高等教育コンソーシアム	マリオス	24
23	11月22日	火	渡辺 修二	森林と河川及び河川生物の関係	花巻遠野北上地区流域協議会	花巻地区合同庁舎	24
24	11月30日	水	丸山 浩治 目時 和哉	岩手県立図書館指定管理者職員向け古典籍取扱い講習会	岩手県立図書館	岩手県立図書館	20
25	12月3日	土	望月 貴史	三陸ジオパークと釜石市の地質	釜石市文化スポーツ部世界遺産課	釜石市鉄の歴史館	29
26	1月8日	日	望月 貴史	三陸ジオパーク展示キット展示解説会	三陸ジオパーク推進協議会	イオンタウン釜石	80

	期日	曜日	派遣職員	演題・イベント名ほか	依頼者 (主催者)	会場	参加者数
27	2月11日	土	望月 貴史	三陸ジオパークの地質と魅力	岩手県沿岸広域振興局	金石情報交流センター	37
28	2月18日	土	川向富貴子	久慈市山形市民センター成人教育事業「郷土の歴史講座」 あの世のはなし	久慈市山形市民センター	久慈市山形市民センター	18
29	2月19日	日	鈴木まほろ	ニホンジカが喰う生物多様性	岩手生態学ネットワーク	いわて県民情報交流センター	97
30	2月20日	月	渡辺 修二	相同器官	高教研理科部会生物部会	盛岡市立高等学校	20
31	2月24日	金	目時 和哉	防災マップの共同制作による地域の文化遺産防災力向上に向けた取組	東北大学災害科学国際研究所、奈良文化財研究所、文化財防災センター	東北大学災害科学国際研究所	60
32	2月25日	土	近藤 良子	鬼学講座「岩手県内の不思議な動物信仰」	北上市立鬼の館	北上市立鬼の館	17
33	3月25日	土	渡辺 修二	滝沢市でのカワソウジュガイ天然記念物指定の影響	岩手県立大学	岩手県立大学	25

※依頼者が講師派遣に係る実費を負担、もしくは共同プロジェクトとして実施したもの。

イ. 学校教育との連携

(ア) 博物館展示活動を活用した学習利用の受け入れ

今年度の教育機関の来館状況は、下記のとおりである。合計で令和4年度は92校2,916人（前年度は128校5,126人）が来館した。

表5.(2)-6 令和4年度学習利用状況（区分別）

a. 幼稚園・保育園等

	来館日	都道府県	団体名	利用目的	引率	生徒	合計
1	5月20日	岩手県	めぐみ幼稚園	親子遠足	4	23	27
2	9月13日	岩手県	MH ナーサリー	園外保育	4	20	24
3	10月4日	岩手県	盛岡市立くりやがわ保育園	園外保育	4	20	24
4	10月14日	岩手県	なでしここども園	園外保育	12	71	83
5	1月27日	岩手県	盛岡白百合学園幼稚園	園外保育	3	19	22
6	2月28日	岩手県	二葉幼稚園、青葉幼稚園	卒園遠足	8	60	68
小 計					35	213	248

b. 小学校

	来館日	都道府県	団体名	利用目的	引率	生徒	合計
1	6月2日	岩手県	一関市立新沼小学校	修学旅行	3	5	8
2	6月3日	岩手県	一関市立弥栄小学校	修学旅行	3	16	19
3	6月3日	岩手県	一関市立黄海小学校	修学旅行	4	16	20
4	6月3日	岩手県	奥州市立姉体小学校	修学旅行	6	38	44
5	6月9日	岩手県	宮古市立田老第一小学校	修学旅行	4	14	18
6	6月9日	岩手県	陸前高田市立広田小学校	修学旅行	4	22	26
7	6月10日	岩手県	一関市立老松小学校	修学旅行	4	14	18
8	6月10日	岩手県	一関市立藤沢中学校	修学旅行	5	28	33
9	6月10日	岩手県	山田町立船越小学校	修学旅行	3	15	18

	来館日	都道府県	団体名	利用目的	引率	生徒	合計
10	6月10日	岩手県	宮古市立花輪小学校	修学旅行	4	18	22
11	6月15日	宮城県	名取市立那智が丘小学校	修学旅行	5	32	37
12	6月16日	岩手県	田野畑村立田野畑小学校	修学旅行	4	23	27
13	6月16日	岩手県	金ヶ崎町立金ヶ崎小学校	修学旅行	7	58	65
14	6月16日	岩手県	住田町立世田米小学校	修学旅行	3	17	20
15	6月16日	岩手県	遠野市立青笹小学校	修学旅行	3	23	26
16	6月16日	岩手県	陸前高田市立小友小学校	修学旅行	4	11	15
17	6月16日	岩手県	陸前高田市立高田小学校	修学旅行	5	26	31
18	6月17日	岩手県	金ヶ崎町立西小学校	修学旅行	3	8	11
19	6月22日	青森県	佐井村立佐井小学校	修学旅行	3	7	10
20	6月23日	岩手県	一関市立大東小学校	修学旅行	5	42	47
21	6月23日	岩手県	一関市立室根小学校	修学旅行	4	21	25
22	6月24日	岩手県	大船渡市立末崎小学校	修学旅行	4	20	24
23	6月24日	岩手県	洋野町立大野小学校	修学旅行	4	17	21
24	6月24日	青森県	十和田市立北園小学校	修学旅行	6	69	75
25	6月29日	岩手県	岩泉町立安家小学校	修学旅行	3	3	6
26	6月29日	岩手県	一関市立一関小学校	修学旅行	8	106	114
27	7月1日	岩手県	陸前高田市立米崎小学校	修学旅行	4	18	22
28	7月1日	青森県	横浜町立横浜小学校	修学旅行	4	30	34
29	7月7日	岩手県	一関市立油島小学校	修学旅行	4	8	12
30	9月15日	宮城県	気仙沼市立階上小学校	修学旅行	4	37	41
31	9月16日	岩手県	普代村立普代小学校	修学旅行	4	13	17
32	9月21日	岩手県	盛岡市立月が丘小学校	社会科見学	3	46	49
33	9月22日	岩手県	久慈市立小久慈小学校	修学旅行	2	21	23
34	9月28日	岩手県	二戸市立石切所小学校	見学学習	3	38	41
35	9月29日	岩手県	盛岡市立緑が丘小学校	校外学習	5	106	111
36	9月30日	岩手県	盛岡市立洪民小学校	社会科見学	4	33	37
37	10月7日	岩手県	矢巾町立煙山小学校	校外学習	2	8	10
38	10月7日	岩手県	盛岡市立太田東小学校	社会科見学	3	52	55
39	10月26日	岩手県	二戸市立浄法寺小学校	社会科見学	2	13	15
40	11月1日	岩手県	盛岡市立洪民小学校	校外学習	3	43	46
41	11月8日	岩手県	盛岡市立好摩小学校	社会科見学	2	22	24
42	11月16日	岩手県	盛岡市立中野小学校	社会科見学	2	29	31
43	11月24日	岩手県	盛岡市立中野小学校	社会科見学	3	28	31
44	11月29日	岩手県	盛岡市立中野小学校	社会科見学	2	30	32
45	12月6日	岩手県	盛岡市立北松園小学校	生活科学習	2	29	31
46	2月1日	岩手県	盛岡市立厨川小学校	社会科見学	5	56	61
47	2月3日	岩手県	盛岡市立青山小学校	社会科見学	6	125	131
48	2月10日	岩手県	盛岡市立向中野小学校	社会科見学	7	149	156
49	2月14日	岩手県	盛岡市立羽場小学校	総合学習	2	29	31
				小 計	189	1,632	1,821

c. 中学校

	来館日	都道府県	団体名	利用目的	引率	生徒	合計
1	4月14日	岩手県	盛岡市立松園中学校	社会科見学	4	15	19
2	4月22日	北海道	石狩市立石狩中学校	修学旅行	1	6	7
3	5月11日	北海道	占冠村立占冠中学校	修学旅行	0	4	4
4	5月18日	山形県	川西町立川西中学校	修学旅行	2	31	33
5	5月26日	山形県	大江町立大江中学校	修学旅行	3	28	31

	来館日	都道府県	団体名	利用目的	引率	生徒	合計
6	7月5日	岩手県	花巻市立湯口中学校	総合学習	4	40	44
7	7月7日	岩手県	八幡平市立安代中学校	総合学習	2	17	19
8	9月28日	岩手県	大槌町立吉里吉里中学校	校外学習	6	18	24
9	9月28日	岩手県	久慈市立山形中学校	社会科見学	2	16	18
10	9月28日	宮城県	塩竈市立玉川中学校	修学旅行	8	99	107
11	10月4日	岩手県	北上市立南中学校	校外学習	8	111	119
12	10月7日	青森県	八戸工業大学第二高等学校附属中学校	校外学習	1	10	11
13	10月13日	東京都	桐朋中学校	修学旅行	3	86	89
			小 計		44	481	525

d. 高等学校

	来館日	都道府県	団体名	利用目的	引率	生徒	合計
1	6月26日	岩手県	岩手県立黒沢尻北高等学校	職場訪問	1	4	5
2	7月21日	岩手県	岩手県立平舘高等学校	総合的な学習	4	52	56
3	8月8日	岩手県	岩手県立盛岡第一高等学校	学芸対応	1	3	4
4	10月27日	岩手県	岩手県立花巻北高等学校	学芸対応	0	2	2
5	12月7日	岩手県	岩手県立大迫高等学校	研修	2	19	21
6	12月27日	岩手県	岩手県立盛岡北高等学校	学芸対応	0	7	7
7	1月15日	岩手県	岩手県立盛岡第二高等学校	学芸対応	1	5	6
			小 計		9	92	101

e. 大学・専門学校・専修学校等

	来館日	都道府県	団体名	利用目的	引率	生徒	合計
1	5月28日	東京都	東京 ECO 動物海洋専門学校	研修	1	10	11
2	6月29日	岩手県	岩手大学大学院	見学	1	1	2
3	10月4日	岩手県	岩手県立大学盛岡短期大学部	見学	1	23	24
4	11月26日	宮城県	東北福祉大学	見学	2	8	10
			小 計		5	42	47

f. 支援学校等

	来館日	都道府県	団体名	利用目的	引率	生徒	合計
1	4月19日	岩手県	岩手県立盛岡青松支援学校(中等部)	生活科	4	1	5
2	5月10日	岩手県	岩手県立盛岡青松支援学校	校外学習	1	1	2
3	5月24日	岩手県	岩手県立盛岡青松支援学校(中等部)	校外学習	2	2	4
4	7月22日	岩手県	岩手県立盛岡青松支援学校(中等部)	校外学習	3	4	7
5	11月22日	岩手県	岩手県立盛岡青松支援学校(中等部)	校外学習	1	1	2
6	11月29日	岩手県	岩手県立盛岡聴覚支援学校(小等部)	校外学習	2	2	4
7	11月29日	岩手県	岩手県立盛岡青松支援学校(中等部)	校外学習	1	1	2
8	12月8日	岩手県	岩手県立盛岡視覚支援学校	見学	3	1	4
			小 計		17	13	30

g. その他(児童サービス等)

	来館日	都道府県	団体名	利用目的	引率	生徒	合計
1	7月29日	岩手県	学童保育クラブMJ けやき子供会	見学	8	54	62
2	7月29日	岩手県	第二緑が丘学童保育クラブ	見学	4	19	23
3	8月2日	岩手県	宇宙学童クラブ	見学	2	22	24
4	10月8日	岩手県	Ambi デイ教室	見学	9	15	16
5	3月31日	岩手県	こどものデイサービスなないろ	見学	7	4	11
			小 計		30	114	144

表 5.(2)-7 令和 4 年度都道府県別学習利用状況（都道府県別校数）

岩手県	青森県	宮城県	山形県	北海道	東京	合計
78	4	4	2	2	2	92

表 5.(2)-8 令和 4 年度区分別学習利用状況（区分別校数）

幼稚園 保育園	小学校	中学校	高等学校	大学	専門学校 専修学校	支援学校	その他	合計
6	49	13	7	3	1	8	5	92

表 5.(2)-9 令和 4 年度都道府県別学習利用状況（都道府県別・区分別受入人数）

	県内	青森県	宮城県	山形県	他 (北海道・東京都)	合計
小学校	1,624	119	78	0	0	1,821
中学校	243	11	107	64	100	525
高等学校	101	0	0	0	0	101
特別支援学校	30	0	0	0	0	30
大学	26	0	10	0	0	36
幼稚園・保育園	248	0	0	0	0	248
専門・専修学校	0	0	0	0	11	11
その他	144	0	0	0	0	144
合計	2,433	130	195	64	111	2,916

※下見は含まない

(イ) 教材貸出

2件3点の貸出を行った（昨年度は1件22点）。なお、貸出資料一覧にない資料の貸出についての相談もあり、これは部門ごとに対応して貸出を行っている（本件数には含めていない）。

多様なニーズを踏まえ、貸出可能な資料の再選定やメニューの充実を図りたい。

表 5.(2)-10 令和 4 年度の教材貸出

貸出日	貸出先	点数	資料
11月15日	岩手県立盛岡視覚支援学校	1	体験用甲冑（1）
1月14日	盛岡市立下小路中学校	3	ランプ（1）、昆虫標本・標本作成用具（1）

(ウ) 新学習指導要領対照目録の改訂

今年度は中学校ならびに高等学校の学習集指導要領改訂に合わせ、新学習指導要領対照目録の一部更新を行った。今後改訂版を当館ホームページに公開する。

(エ) 県内高等学校との博学連携プロジェクト

a. 岩手県立平舘高等学校

当館では平成 27 年度から平舘高等学校との共同プロジェクトを立ち上げ、体験学習室や貸出用の教材を製作している。8 年目となる今年度は、家政科学科 3 年生の 8 名が人形芝居の「操り人形装束」1 着、

「人形頭」9点、体験学習室の子ども用座布団7点、女学生鞆1点を製作した。成果品は体験学習室に設置した。以下に経過を記す。

- 令和4年4月 岩手県における操り人形の歴史に係る講義
- 令和4年7月 倉沢人形歌舞伎伝承館（花巻市東和町）見学と操り人形の実見
講師：倉沢人形歌舞伎保存会幹事長 下林 育男 氏
- 令和4年10月 人形の頭製作指導
講師：当館学芸第二課長 木戸口俊子
- 令和4年11月 外部講師を招聘しての技術指導
講師：東亜和裁盛岡支部指導員 藤原智恵美 氏
- 令和5年2月 平館高等学校にて引渡し式
- 令和5年3月 体験学習室に設置



図 5.(2)-2 倉沢人形歌舞伎伝承館にて



図 5.(2)-3 株東亜指導員による技術指導

b. 岩手県立盛岡峰南高等支援学校

当館では平成 26 年度から盛岡峰南高等支援学校へ体験学習室の教材や白布などのクリーニングを依頼している。今年度は、展示用養生マットのクリーニングを依頼した。

c. 岩手県立盛岡農業高等学校

昨年度に引き続き 10 月 23 日（日）に当館で開催した民俗講座②「たいけん！むかしのくらし」の脱穀体験に用いる稲を提供いただいた。

また、同校植物科学科作物研究班が取り組んでいる合鴨を使った無農薬での水稻栽培をパネルで紹介した。



図 5.(2)-4 岩手県立盛岡農業高校生徒さんによる稲の刈り取り



図.(2)-5 民俗講座②「たいけん！むかしのくらし」

(オ) 博物館館園実習

学芸員資格取得に係る館園実習について、当館の実習生受入方針に基づいて実施した。当館における実習は、主に県内大学に在学する者、または本県出身者を対象としている。例年、地質・考古・歴史・民俗・生物・文化財科学に係る博物館資料の整理や展示作業、教育普及事業の実務などの実習、及び社会教育機関としての博物館の役割についての講義等を行っている。実習・講義の内容については表 5.(2)-4 の本項を参照のこと。実習期間と受入れ人数等は次のとおり。

○期間：令和 4 年 8 月 18 日（木）～25 日（木） ※22 日（月）をのぞく 7 日間

○実習生出身校と参加人数：岩手大学、盛岡大学、東海大学、茨城大学、東京農業大学 合計 6 名

ウ. 職場体験・インターンシップ

今年度は 2 件 7 名の職場体験・インターンシップの申し込みがあり、職場体験は中学校 2 校で実施した。

表 5.(2)-11 令和 4 年度職場体験・インターンシップ参加校

	実施日時	所属校	人数	体験内容
1	6 月 30 日（木）	滝沢市立姥屋敷中学校	1	職場の仕事内容の説明と民俗部門学芸員体験
2	9 月 22 日（木）	洋野町立種市中学校	6	学芸員体験、資料整理

エ. 問い合わせ受付

学芸員が一年間に対応した問い合わせについて集計を行っている。内容は、質問や要望、調査研究に関することなど多岐にわたり、即答が可能な場合もあれば回答に相当期間を要する場合もある。なお、この中には計画された事業に関するものや外部研究者との連絡調整等を含んでいない。

表 5.(2)-12 令和 4 年度の問い合わせ受付状況

部門	件数	問合せ方法	件数	主な対応内容
地質	51	来館	22	岩石・鉱物・化石の鑑定、折爪断層の場所について、和賀川河床の化石採取地について、岩石採取に関わる許可等について 他
		電話	18	三貫島の地形的・地質的な特徴及びそれが三貫島が鳥の営巣地になっていることとつながるかどうかについて、モシリユウについて、焼け走り溶岩流の形成年代について 他
		FAX、メール、手紙、その他	11	奥州市の「北股風穴」について、乳頭山について 他
生物	183	来館	33	環境調査に関するヒアリング、哺乳類の骨の同定、標本閲覧、剥製の廃棄方法 他
		電話	35	タケの開花周期について、紅葉の仕組み、淡水魚の保全について、野生生物との共生について、トンボの産卵行動 他
		FAX、メール、手紙、その他	115	鳥・昆虫・植物等の写真同定、調査対象種の標本情報、鳥の白変個体について、カツラの化石について 他
考古	27	来館	13	縄文土器の形状の変遷について、岩手県内の縄文時代の遺跡数・資料展示施設情報について、雫石川上流採取の頁岩・流紋岩・玄武岩について（縄文遺跡の石器石材として）、鳥畑コレクション中の書簡類原稿類の調査 他

部門	件数	問合せ方法	件数	主な対応内容
		電話	8	青森県階上町滝端遺跡出土の屈折像土偶について、熊穴洞穴出土人骨について、弥生時代の鉄製品について、アイヌの墓に埋葬される南部箔椀について 他
		FAX、メール、手紙、その他	6	添付写真データの土偶が作られた時期やその類例について、弥生～古墳時代の木製品について 他
歴史	61	来館	9	南部家の系譜について、盛岡藩の宮大工について、旧姉帯村の地図について、沢田家資料調査 他
		電話	30	岩手県の街道・道路について、胆沢郡の表記（伊沢）について、近世初期の宮古における酒造業者について、遺品の刀の扱いについて、津波に関する石碑の性格について、正保国絵図と花巻の一里塚について 他
		FAX、メール、手紙、その他	22	奥羽越列藩同盟の旗印について、奥羽寒図記について、三戸町手代森稲荷社と南部氏の関係について、三戸郡の蝦夷地警固について、和様漢文体の碑文の現代語訳依頼 他
民俗	145	来館	17	岩手県内の人形まつりの事例について、郷土玩具について、縄文時代の漆掻きについて、曲家の現存数について 他
		電話	79	南部鉄器の歴史紹介について、盛岡絵暦について、雫石あねこ装束について、サイトギの秘儀について、まゆ細工の歴史について、北上市の方言について、重要有形民俗文化財（酒造道具）の修復業者相談 他
		FAX、メール、手紙、その他	49	茅の栽培について、割沢鉄山での山の神祭祀について、壬辰に火祭りを行う理由と近在の類似事例について、田山暦の資料画像提供について、馬産にかかる動画の校正依頼 他
文化財科学	12	電話	11	津波被災文化財再生作業の研修について、当館での文化財の赤外線撮影について、和本の修復について、資料のカビ除去方法について、文化財のくん蒸業者情報について、個人所有の書籍の修復について 他
		FAX、メール、手紙、その他	1	マッチの保管方法について
合計			479	

（3）調査研究活動

博物館における調査研究活動は、展示、教育普及等を展開するうえでの基幹活動として位置づけられており、それに基づいて研究が進められる。各学芸員は、研究テーマを小テーマとこれを包括する大テーマに区分した上で、各テーマに関連した調査・研究を行っており、これらの中には当館の研究協力員や他機関に所属する研究者と共同で進められているものが含まれる。また、2月27日には「令和4年度館内調査研究報告会」を開催し、全学芸員から研究活動の進捗、研究成果が報告された。

なお、一定の成果が得られた研究については、『岩手県立博物館研究報告』第40号および『岩手県立博物館調査研究報告書』第36冊をはじめ、関連する学術誌や各種報告書等への掲載、学会での発表によってその成果の公表につとめている。

ア. 調査研究活動の概要

地質部門4テーマ、生物部門11テーマ、自然史部門（地質・生物）1テーマ、考古部門5テーマ、歴史部門8テーマ、民俗部門5テーマ、文化財科学部門4テーマで調査研究活動が推進された（表5.(3)-1）。また、調査研究活動に関わる製作・同定の実施状況は表5.(3)-2のとおりである。

表 5.(3)-1 令和4年度調査研究テーマとその実施状況

部門等	大テーマ	小テーマ	氏名	成果
地質	地域地質に関する研究 A	北上山地における地質学的資料に関する基礎的研究	望月 貴史 佐藤修一郎	岩手大学工学部標本（令和3年度寄贈）に含まれる北上山地産化石標本の整理・登録作業を行ったほか、研究協力員の大石氏と共同で陸前高田市雪沢周辺の石炭系鬼丸統の分布域の調査と再検討を行った。
	地域地質に関する研究 B	奥羽山脈ならびに北上低地帯における地質学的資料に関する基礎的研究	佐藤修一郎 望月 貴史	北上市や一関市を中心に鮮新統竜の口層の分布について調査し、新たな分布を数カ所確認した。また北上市に分布する岩崎新田層から産出する植物化石の分布を調査した。
	古生物学的研究	古生代および中生代に関する古生物学的研究	望月 貴史	主に宮古市腹帯や花巻市大迫町で岩石と化石に関する地質学的調査を行った。また、福島県立博物館と共同で福島県内産生痕化石に関する調査研究を行い、その成果を共著で福島県立博物館紀要に報告した（2023年3月掲載）。
	地域環境に関する研究	火山・地震・気象・災害・資源に関わる研究	佐藤修一郎	継続して県内に設置されている地震計の分布を調べている。分布図とともに地震学習の教材として活かしたい。
生物	地域生態系の研究	岩手県内の湿性草原環境の生物相の把握	鈴木まほろ 渡辺 修二 高橋 雅雄	岩手県内の湿性草原環境（特に滝沢市春子谷地湿原と盛岡市高松公園芝水園）において、植生・昆虫類（特にトンボ目とバッタ目）・クモ類・鳥類・哺乳類に関する生息状況調査を実施した。成果の一部を令和4年度秋テーマ展「水辺の生きもの」及び日曜講座で公表した。
	日本産鳥類の生態学的研究	湿性草原の生物多様性保全における耕作放棄地の生態的価値：越冬鳥類を指標とした評価	高橋 雅雄	湿性草原棲の小型鳥類4種について、東北地方西部・中国地方・四国地方で越冬調査を実施した。論文「九州地方におけるオオセッカ <i>Locustella pryeri</i> の越冬状況」が受理・掲載された（高橋ほか 2022, 日本鳥学会誌）。
		鳥類におけるタヌキ溜糞場の生態的価値の解明	高橋 雅雄	当館・岩手大学・盛岡市動物公園にて、タヌキの溜糞場のカメラトラップ調査を実施し、撮影データを集計・解析した。
	国内および県内における鳥類分布に関する研究	東北地方の希少猛禽類の繁殖状況に関する研究	高橋 雅雄	オジロワシについて、青森県で繁殖状況を調査した。チゴハヤブサについて、青森県・岩手県・秋田県・山形県で繁殖状況を調査し、学会で発表した。
		東北地方北部のウ類の生態と保全管理に関する研究	高橋 雅雄	岩手県において、カワウの繁殖状況を調査し、論文「岩手県におけるカワウの繁殖分布と営巣数」が受理・掲載された（田部田ほか 2022, 伊豆沼・内沼研究報告）。ウミウの繁殖状況を調査し、論文「岩手県三陸海岸のウミウの繁殖分布と営巣数」が受理された（高橋・田部田, 山階鳥類学雑誌）。青森県において、カワウの生息状況を調査した。両県において、カワウとウミウの胃内寄生虫を調査し、学会で発表した。
		岩手県の希少鳥類の生息状況に関する研究	高橋 雅雄	ミゾゴイについて、岩手県の生息確認情報を収集した。ケリについて、岩手県で繁殖状況を調査した。オオセッカについて青森県～宮城県の上陸沿岸で秋季の生息状況を調査した。
		岩手県立博物館周辺の鳥類の生息状況に関する研究	高橋 雅雄	当館周辺の雑木林にて、月1回のルートセンサスを実施し、生息する鳥類の種類相と季節変化を明らかにした。論文「ラインセンサスで確認された岩手県立博物館周辺の鳥類相」を岩手県立博物館研究報告に発表した。

部門等	大テーマ	小テーマ	氏名	成果
	地域の無脊椎動物相と生態に関する研究	県内の無脊椎動物相の研究	渡辺 修二	3ヶ所(宮古市2, 岩泉町1)の洞穴で調査を行い、ホラヒメグモ科3種、ヤミサラグモ科1種の未記載種を採集したほか、ホラゴマグモの2カ所目の生息地を確認した。今後論文での公表の準備を進める。また、県内で2例目のスナアカネの採集記録、アオサナエの採集記録を報告した(佐々木・佐々木・渡辺, 月刊むし)。また、県内のトンボ相(3件)及びクモ相(1件)の調査について、岩手県立博物館研究報告で報告した(佐々木・佐々木・渡辺, 同左, 渡辺・高橋)。その他、八幡平市の旧牧草地での昆虫・クモ相の変遷を長期モニタリングする調査を開始した。
		県内の無脊椎動物の生態に関する研究	渡辺 修二	ワスレナグモについて大船渡市及び陸前高田市の生息地で今年度の生息状況を確認したほか、大船渡市立博物館の協力で、既知の生息地の周辺でも巣穴を確認した。巣穴の形状について計測を行ったほか、越冬中と思われる巣穴の様子を撮影した。調査結果は令和5年度に東京蜘蛛談話会誌に投稿を予定している。
	地域の植物相と植物生態に関する研究	県内の絶滅危惧植物を中心とする植物の分布と生態に関する研究	鈴木まほろ	県レッドデータブック改訂調査を兼ねて、県内各地において絶滅危惧植物の分布調査を行った。早池峰山では、シカ等草食動物による食痕調査も行った。結果は県等関係機関に報告した。
		県内の植物相の研究	鈴木まほろ	『岩手県植物誌』の改訂に備え、県内の植物相について現地調査および標本・文献調査を行い、情報を整理した。また、岩手県植物誌調査会と共同で岩手県植物目録の編集を行った。
(地質・生物) 自然史	自然史標本の管理・公開に関する研究	自然史標本の管理・公開、成果の発信に関する研究	望月 貴史 佐藤修一郎 鈴木まほろ 渡辺 修二 高橋 雅雄	他館(熊本県・岩手県)の押し葉標本の水濡れ事故に対応し、乾燥処置及び処置後の整理を行い、方法論に関して新たな知見を得た。
考古	考古学史の研究	岩手県における埋蔵文化財保護、研究のあゆみ	金子 昭彦 高木 晃 米田 寛	当館所蔵鳥畑壽夫コレクション整理をとおして、昭和30年代の研究動向を調査し、館内資料収蔵目録として公開を目指し、担当者の作業は終了しているが外部委託者の原稿待ちの状態である。草間俊一コレクション・小岩末治コレクションの整理を進め、同様に早期の収蔵目録の作成公開を目指している。
	先史時代の考古学的研究	縄文時代の土偶の研究	金子 昭彦	これまで県内の土偶を主に研究してきたが(第68回企画展「遮光器土偶の世界」)、他地域の土偶を学ぶことで、岩手県出土の土偶の理解をより深めたい。今年度は、西日本にも出土する屈折像土偶を調査し、その検討結果を現在文章としてまとめている。また、昨年サントリー学芸賞を受賞した竹倉史人著『土偶を読む』を検証した結果を、県博日曜講座で発表し、現在文章としてまとめている。
		縄文時代の環状列石を含む配石遺構の研究	金子 昭彦 高木 晃 米田 寛	洋野町西平内I遺跡において4年目の野外調査を行い、集石遺構集中区域の南側縁辺部で遺構分布が希薄になる状況を確認した。また南側尾根部のポーリング調査を実施し、遺跡主要部の概略範囲を把握した。現在、令和5年度に予定している当該遺跡の発掘調査報告書発刊に向け、遺構・遺物の整理作業を継続している。
岩手の旧石器時代の石材研究	米田 寛	県内の石材調査を進め、集団の移動を論じる基礎データの蓄積を行った。成果は調査報告会等で報告する。		

部門等	大テーマ	小テーマ	氏名	成果	
	古墳時代の考古学的研究	岩手県内における古墳時代社会についての研究	高木 晃	東北地方北半の古墳時代集落に特徴的な方割石について、その類似資料である東京都落川・一宮遺跡出土磨痕石の実見調査を行い、共通点、相違点を確認した。引き続き石器としての機能、用途の解明を目的とした調査を継続する。	
歴史	古代～中世史の研究	古代・中世の東北史の研究	目時 和哉	世界遺産ガイダンスセンターにおける展示協力を通して最新の考古学的知見の収取に努めた。また、山形県における奥州藤原氏（特に比爪氏）に関する伝承の現地調査を行った。特に岩手県外における平泉関係の伝承について調査を継続し、その成果についてはまとめて公表をはかりたい。	
	近世史の研究	盛岡藩の町人についての研究	昆 浩之	江戸・上方の書物問屋と盛岡の書物商人の関係について調査した。	
	岩手の寺社研究	岩手への仏教の伝播に関する研究	村田 雄哉	各市町村や県が刊行する各種調査報告書や編纂物・現地調査により、岩手県北東部に残る中世以前の仏像の基礎データ（法量・形状・材質・構造・保存状態・伝来等）を収集・整理し、当該地域への仏教の伝播や信仰の特色、彫刻史などの今後の研究に資する情報を蓄積することができた。	
	近代・現代史の研究	岩手県出身者の北海道開拓に関する研究	岩手県出身者の北海道開拓に関する研究	工藤 健	明治初期に北海道開拓に携わった個人、団体の足跡を、地方史や郷土史家の先行研究を参照し整理した。その成果を日曜講座で発表し、特筆すべき点を博物館だより175号のいわて文化ノート「北を拓いた岩手県人―明治初期北海道開拓を中心に―」として公表した。
			近代岩手県の開発に関する歴史	工藤 健	近代岩手県の各産業の様相に加え、金田一国土の業績や中央政界との結びつきについて、先行研究と館蔵資料をもとに研究した。また、2015年度以降に県、国に指定された文化財のうち近現代のものについて、訪問し調査した。以上の調査成果を、テーマ展「新収蔵・新指定展Ⅰ」で紹介した。
			岩手県におけるラグビーフットボールに関する研究	工藤 健	岩手県でのラグビーフットボール競技の伝播、普及、現状について、文献の調査や関係者からの聞き取りを進めた。加えて、ラグビーや他スポーツに関する展示を行う資料館を訪問し、展示方法や研究方法について調査した。本研究は次年度も継続し、成果を次年度のテーマ展で公開する。
	災害史・災害文化に関する研究	岩手県の災害の歴史に関する研究	目時 和哉	津波災害史資料である石碑群について、末崎町内会の全面的な支援を受けて住民の認知度に関する大規模な質問紙調査を実施し、その成果を全国規模の学会において報告した。今年度新たに寄贈の申し入れのあった関東大震災関連資料について、岩手県出身者が帝都復興事業において果たした役割を明らかにした。	
	被災文化財に関する研究	津波被災文化財の再生と利活用に関する研究	目時 和哉	東日本大震災で被災した宮城県・福島県沿岸部の文化施設と共同で情報発信のためのコンテンツ、及び被災した吉田家文書、旧吉田家住宅活用を促進するコンテンツを制作した。さらに令和元年東日本台風被災地の文化施設と共同で展覧会を開催した。	

部門等	大テーマ	小テーマ	氏名	成果
民俗	有形民俗資料に関する研究	岩手の民具一般に関する基礎研究	木戸口俊子 近藤 良子 川向富貴子	館蔵の生活道具について分析を行い、その成果を常設展示やデジタルアーカイブなどで公表したほか、出前授業、民俗講座などで活用した。特に、館蔵の盛岡竿についてその特徴をまとめ、研究報告で公表したほか、手仕事に関する資料（ホームスパン・菓子型など）の寄贈を受け、その性質などの聞き取り調査を行った。 1927年に行われた日米人形交流の岩手県における動向を整理し『調査研究報告書』第36冊にまとめた。
	無形民俗資料に関する研究	岩手の無形民俗一般に関する基礎研究	木戸口俊子 近藤 良子 川向富貴子	県内の民俗芸能や祭礼、民俗技術について現地探訪を行い、その成果を新収蔵・新指定展Ⅰで公開した。また、常設展示における「製炭」と「漆精製」に関するコーナーの充実を図るべく現地調査を行い展示替えの計画を検討した。
	民家の保存と活用に関する研究	岩手の民家に関する研究	近藤 良子	南部曲がり屋及び直屋での住まい方や昔の道具等についての調査結果を民俗講座や館園実習等の教育普及事業において活用した。また、耐震補強工事完了に伴い、経緯や概要について年報にまとめ公表した。
	民俗芸能に関わる研究	岩手の操り人形に関する研究	木戸口俊子	『盛岡藩雑書』の中にある「操人形」に関する記載を抽出し、そこから当時の大衆芸能の様子や鈴江四郎兵衛をはじめとした代々の操座元の様子を探ったほか、併せて人形芝居以外の大衆芸能についても確認し、領内の芸能の様子を講座での発表や研究報告で公表した。
	画像資料の保存活用に関する研究	森口多里写真コレクションに関する研究	川向富貴子	森口多里コレクションの撮影内容を整理分析し、その成果を館内展示に活用した。また、他館の企画展示に協力し、コレクションからの資料貸出を行った。
文化財科学	文化財の保存修復に関する研究	津波被災資料の安定化処理法および抜本修復法に関する研究	丸山 浩治 山崎 遙	2020年度に設定した脱塩基準によって安定化処理を行い、経過観察を進めている。また、研修会や県博出前講座で当該作業の方法と成果を示し、必要性和意義を伝えた。
		安定化処理に使用する薬剤が資料に与える影響	山崎 遙	脱酸処理された被災紙資料の効果の持続性を確認するため、一年を通して観察を実施。脱酸処理前から紙の酸性劣化が進行していたとみられる資料の脱酸効果は低下していたが、劣化がそこまで進行していない資料の脱酸効果は未だ持続中であった。
	展示・収蔵環境に関する研究	気密性の低い空間の調湿に関する研究	丸山 浩治	石川啄木記念館と共同で実証研究を進め、既存の機器や安価な資材で、かつ簡便な方法で、ある程度の湿度環境改善が可能であることを確認した。
	前近代における自然災害史研究	火山噴火イベントと物質文化の変遷に関する研究	丸山 浩治	安比川流域における十和田10世紀噴火の影響について、集落動態および物質文化（竪穴建物、煮炊具）から検討し、噴火を契機として在地民の流出と国家側からの流入が進むことを明らかにした。その成果は県博日曜講座で公表した。

表 5.(3)-2 調査研究活動に関わる製作・同定

部門	事業名	内容
地質	岩石標本箱製作	木箱（浅箱） 8個を作製した。
	岩石薄片製作	岩石薄片 9点を作製した。

イ. 館内調査研究報告会

〔日 時〕 令和5年2月27日(月) 9:30~16:30

9:30~9:35 開会行事 挨拶 高橋 廣至(館長)

I 個別調査研究 午前の部 (10分1鈴、12分2鈴=終了・質疑、15分3鈴終了)

- 9:45~10:00 今でも残る近代岩手—紫波町編— 工藤 健
10:00~10:15 館藏品から見る江戸時代の出版と統制 昆 浩之
10:15~10:30 津波災害に関する石碑群の住民認知度と現代的な防災における活用可能性について 目時 和哉
10:30~10:45 岩手県北東部に残る中世以前の仏像 村田 雄哉
10:45~11:00 〔休憩〕
11:00~11:15 民俗芸能の現代的課題 川向富貴子
11:15~11:30 盛岡藩主・藩士の温泉湯治 近藤 良子
11:30~11:45 『盛岡藩雑書』にみる大衆芸能～操り人形芝居を中心に～ 木戸口俊子
11:45~12:00 岩手県内産古生代の植物化石(続報) 望月 貴史

午後の部

- 13:00~13:15 鮮新統竜の口層の新分布 佐藤修一郎
13:15~13:30 絶滅危惧種オオセッカはどこで越冬するか 高橋 雅雄
13:30~13:45 洞穴で採集した新種候補のクモ 渡辺 修二
13:45~14:00 春子谷地の植物を最初に調べた人物 鈴木まほろ
14:00~14:15 〔休憩〕
14:15~14:30 旧石器時代の石器石材研究～和賀川流域の頁岩・泥岩について～ 米田 寛
14:30~14:45 遮光器型「土面」の使用方法 金子 昭彦
14:45~15:00 令和4年度の西平内I遺跡調査成果 高木 晃
15:00~15:15 〔休憩〕
15:15~15:30 低気密建物におけるノンエアタイトケース内の調湿 丸山 浩治
15:30~15:45 紙資料への脱酸処理の有効性3 山崎 遙

II 部門別調査研究

- 15:45~16:15 〔地質・生物・考古・歴史・民俗・文化財科学〕
16:15~ 閉会行事・講評 小平 忠孝氏(社会教育等推進参与)

ウ. 調査研究成果の公表

(ア) 『岩手県立博物館研究報告』第40号

仕様: A4判相当PDF版・101頁、発行日: 2023年3月31日、当館HPにて公開

- 1 高橋 雅雄 ラインセンスで確認された岩手県立博物館周辺の鳥類相
- 2 渡辺 修二 岩手県奥州市江刺の水田で観察されたトンボ
- 3 渡辺 修二・高橋 雅雄 岩手県山田町大島のクモ

- 4 佐々木 全・佐々木悠太・渡辺 修二 岩手県雫石町のトンボ相－準絶滅危惧種マダラヤンマの新たな採集記録を含めて－
- 5 佐々木 全・佐々木悠太・渡辺 修二 岩手県滝沢市のトンボ相 (2)－東部地域を主たる調査地として－
- 6 米田 寛 岩手県西和賀町峠山牧場 I 遺跡 A 地区出土の旧石器時代の石偶について
- 7 近藤 良子 盛岡竿の特徴－岩手県立博物館所蔵の盛岡竿を参考に－
- 8 四ツ家絵里 天台寺「桂泉鐘の銘」を読み解く
- 9 木戸口俊子 盛岡藩『雑書』にみる大衆芸能～「操」・「鈴江四郎兵衛」を中心に～

(イ) 『岩手県立博物館調査研究報告書』第 36 冊

昭和 2 年 (1927) に渋沢栄一らが中心となって進めた日米親善人形交流の岩手県における歴史の流れを概観した。また、平成 29 年度に岩手デジタルミュージアム構築事業実行委員会 (事務局：岩手県立博物館) が開催した巡回展等の事業報告を併記した。目次は以下のとおりである。

I 日米人形交流と岩手

II アメリカへ渡った“ミス岩手”

特別寄稿「日米人形交流 100 周年に向けて 現代も続く『人形使節』のこころ」

株式会社吉徳顧問 青木 勝 氏

III 岩手に残る友情人形

特別寄稿「岩手に残る青い目の人形を探して」

『岩手に残る青い目の人形』著者 加藤 昭雄 氏

IV 巡回展「海を越えた絆～『ミス岩手』と青い目の人形～」実施記録

特別寄稿「震災も乗り越えて」

元陸前高田市立気仙小学校長 菅野祥一郎 氏

仕様：A4 判相当 PDF 版・91 頁、発行日：2023 年 3 月 30 日、当館 HP にて公開

主題：友情人形と答礼人形～日米人形交流と岩手～

担当：民俗部門 (川向富貴子)

編集：川口印刷工業株式会社

(ウ) 学会・研究会・他機関での発表、および著作 (* 共同発表の際の当館職員)

a. 口頭発表等

- ・久保 貴志・猪瀬 弘瑛・安里 開士・望月 貴史*・菜花 智・いわき自然史研究会：福島県いわき市の双葉層群玉山層のコンボウガキ属密集層の古環境と古生態。日本古生物学会 2023 年例会，2023 年 2 月，福岡市 (ハイブリッド開催)，ポスター発表
- ・米田 寛：旧石器時代出土装飾品の様相。岩手考古学会第 53 回研究大会 (岩手県の出土装飾品に関する考古学的研究)，2022 年 7 月，盛岡市，口頭発表
- ・金子 昭彦：縄文～続縄文時代 (北大 I 式期)。岩手考古学会第 53 回研究大会 (岩手県の出土装飾品に関する考古学的研究)，2022 年 7 月，盛岡市，口頭発表
- ・立石 淑恵・高橋 雅雄*・東 信行。「東北地方におけるチゴハヤブサの繁殖成績と営巣環境」日本鳥学会 2022 年度大会，ポスター発表 P025 (東京農業大学 2022 年 11 月)
- ・田部田 勉・嘉藤 慎穰・高橋 雅雄*。「カワウの繁殖成績に対する営巣密度と肉食獣の侵入の影響」日本鳥学会 2022 年度大会，ポスター発表 P006 (東京農業大学 2022 年 11 月)

- ・篠崎 桃歌・高橋 雅雄*・静 一徳・石野 智子・熊谷 貴. 「*Contracaecum rudolphii* 遺伝子型によりカワウ食性を判定する生態モニタリング法の開発」第 81 回日本寄生虫学会東日本支部大会・日本共生生物学会第 6 回大会 合同大会, 口頭発表 A06 (東京医科歯科大学 2022 年 10 月 1 日)
- ・目時 和哉*・福留 邦洋. 「過去の津波到達点を示す石碑の認知度と避難行動の関係に関する研究—岩手県大船渡市末崎町における質問紙調査を通して—」. 地域安全学会 2022 年度第 51 回秋季研究発表会, ポスター発表 (静岡県地震防災センター 2022 年 10 月)
- ・目時 和哉. 「防災マップの共同制作による地域の文化遺産防災力向上に向けた取組—岩手県の事例報告」. 歴史文化資料保全の大学・共同利用ネットワーク事業シンポジウム, 口頭発表 (東北大学 2023 年 2 月)
- ・篠崎 桃歌・高橋 雅雄*・静 一徳・石野 智子・大久保滋夫・熊谷 貴. 「カワウ寄生線虫 *Contracaecum rudolphii* の遺伝子型による食歴判定ツールの開発」第 92 回日本寄生虫学会大会, 口頭発表 2C-07 (金沢大学 2023 年 3 月 31 日)

b. 論文・報文

- ・渡辺 修二*・古澤 明輝 (2022) 岩手県におけるコガネグモ採集と産卵の記録. KISHIDAIA, 121: 1-2. 査読無し
- ・神吉 隆行・渡辺 修二* (2023) 岩手県釜石市におけるツシマトリノフンダマシの記録. 岩手蟲乃會會報, 49: 20. 査読無し
- ・渡辺 修二 (2022) 岩手県でオオウロコチャタテを採集. 岩手蟲乃會會報, 49: 42. 査読無し
- ・安藤 奏音・渡辺 修二* (2023) 龍泉洞管理者の自然環境と観光促進に関する意識. 日本洞穴学研究所報告, 40: 1-12. 査読無し
- ・中島 一豪・安藤 奏音・渡辺 修二*・小向 益男 (2023) 龍泉洞における照明植生の分布と観光-非観光区画における無脊椎動物の種組成の違い. 日本洞穴学研究所報告, 40: 13-20. 査読無し
- ・渡辺 修二*・小向 益男・安藤 奏音・中島 一豪 (2023) 龍泉洞で採集されたヤマドリ *Syrmaticus soemmerringii* (Temminck, 1830) (キジ目キジ科) の骨. 日本洞穴学研究所報告, 40: 21-24. 査読無し
- ・佐々木 全・佐々木悠太・渡辺 修二* (2022) アオサナエの岩手県における北限—滝沢市における採集記録—. 月刊むし, 621: 62. 査読無し
- ・佐々木 全・佐々木悠太・渡辺 修二* (2023) 岩手県の内陸部においてスナアカネを記録. 月刊むし, 623: 51-2. 査読無し
- ・猪瀬 弘瑛・望月 貴史*・横田 昭彦・吉田 純輝 (2023) 福島県郡山市に分布する中部中新統堀口層から螺旋状生痕化石 *Gyrolithes* の発見. 福島県立博物館紀要, 37: 85-91. 査読無し
- ・金子 昭彦 (2022) 遮光器型土面・土版型土面. DOGU 第 5 号: 35-50. 査読無し
- ・金子 昭彦 (2022) 縄文時代の人物画. DOGU 第 5 号: 51-58. 査読無し
- ・金子 昭彦 (2023) 東北地方・縄文晩期の土偶(8). (公財)岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター紀要, 42:1-16. 査読無し
- ・金子 昭彦 (2023) 東北地方北部・続縄文系文化に関する私見. 岩手考古学 第 34 号: 7-16. 査読無し
- ・高橋 雅雄*・宮 彰男・古山 隆・磯貝 和秀・三戸 貞夫 (2022) 九州地方におけるオオセッカ *Locustella pryeri* の越冬状況. 日本鳥学会誌 71: 197-201. 査読あり
- ・田部田 勉・穂刈 裕一・齋藤 息吹・本多 里奈・高橋 雅雄* (2022) 岩手県におけるカワウの繁殖分布と営巣数. 伊豆沼・内沼研究報告 16: 39-46. 査読あり
- ・田部田 勉・高橋 雅雄* (2023) 岩手県三陸海岸のウミウの繁殖分布と営巣数. 山階鳥類学雑誌, 55:1-9. 査読あり
- ・目時 和哉*・福留 邦洋 (2022) 過去の津波到達点を示す石碑の認知度と避難行動の関係に関する研究

ー岩手県大船渡市末崎町における質問紙調査を通してー、2022 年地域安全学会梗概集 No.51：57-60.
査読なし

- ・目時 和哉 (2023) 防災マップの共同制作による地域の文化遺産防災力向上に向けた取組ー岩手県の事例報告. 歴史文化資料保全ネットワーク叢書 歴史が導く災害科学の新展開VI 文化遺産を守り伝える新たな技術：22-26. 査読なし

c. 新聞の著作その他

- ・読売新聞岩手版「ミュージアムリポート」

望月 貴史 「岩手の恐竜 40 年経て 相次ぐ発見」 2022 年 4 月 1 日
金子 昭彦 「考古学から見た歴史 平安庶民 竪穴住居に」 2022 年 4 月 15 日
昆 浩之 「馬 東北地方に適した役畜」 2022 年 4 月 29 日
丸山 浩治 「温湿度管理 カビや虫から資料を守る」 2022 年 5 月 20 日
工藤 健 「干支 60 年周期 年数を計算」 2022 年 6 月 3 日
米田 寛 「旧石器時代の装飾品 明日を生きる願い形に」 2022 年 6 月 17 日
近藤 良子 「不動明王 煩惱立つ 霊鳥の火焰」 2022 年 7 月 2 日
佐藤修一郎 「化石採集 賢治ゆかりのクルミ」 2022 年 7 月 20 日
木戸口俊子 「かき氷 かんなどで削って 夏の涼」 2022 年 8 月 3 日
金子 昭彦 「考古学的考え方 事実 愚直に積み重ね」 2022 年 8 月 19 日
目時 和哉 「吉浜のお盆 高台移転 村長を顕彰」 2022 年 9 月 2 日
川向富貴子 「弔いのかたち 船の模型 海に流し供養」 2022 年 9 月 16 日
高橋 雅雄 「岩手のカエル類 13 種生息 違い探して」 2022 年 9 月 30 日
渡辺 修二 「湿地のバロメーター クモが教える環境変化」 2022 年 10 月 14 日
川向富貴子 「菓子の木型 玉櫻堂の道具 継承願う」 2022 年 11 月 18 日
鈴木まほろ 「湿原の希少種 春子谷地 水流のスゲ」 2022 年 10 月 28 日
山崎 遙 「酸性紙と脱酸処理 洋紙の劣化 薬品で防ぐ」 2022 年 12 月 2 日
工藤 健 「境界線の歴史 盛岡の境 明治から変遷」 2022 年 12 月 16 日
昆 浩之 「家庭の医学 江戸の健康 支えた辞典」 2023 年 1 月 6 日
目時 和哉 「帝都復興 大震災 100 年 県人の功績」 2023 年 1 月 20 日
村田 雄哉 「南天 魔除け 身近な縁起物」 2023 年 2 月 3 日
高木 晃 「2 色の土器 割れた後 強い火で変色」 2023 年 2 月 17 日
木戸口俊子 「編み笠 雫石あねっこ 手業の装束」 2023 年 3 月 10 日
佐藤修一郎 「雫石町の成り立ち 大昔は海底 地層に痕跡」 2023 年 3 月 24 日

- ・岩手日報「いわてリレーエッセー 遊歩道」

目時 和哉 「ヒストリー・ブローカー ～過去と現在の仲立人というお仕事～」
2022 年 10 月 22 日

エ. 受託研究実施状況

岩手県立博物館では、平成 2 年度から文化財の自然科学的調査・保存修復に関する受託研究を実施している。平成 24 年度からは東日本大震災で被災した文化財等の安定化処理および修理を開始した。令和 4 年度の研究受託実績は表 5.(3)-3 に示すとおりである。

表 5.(3)-3 令和 4 年度受託研究実施実績

受託内容	件数	委託機関
被災紙製資料安定化処理及び修理業務	1	陸前高田市教育委員会
被災鳥羽源藏コレクション安定化処理及び修理業務	1	陸前高田市教育委員会
被災民俗資料安定化処理業務	1	陸前高田市教育委員会
被災自然史関連資料修理業務	1	陸前高田市教育委員会
資料の生物学的劣化防除（くん蒸）業務	12	県内市町村教育委員会、資料館等

オ. 研究受託事業（岩手における環状列石関連遺跡調査）

考古部門では、令和元年度に「岩手における環状列石関連遺跡調査事業」を岩手県教育委員会から受託し、九戸郡洋野町種市に所在する「西平内 I 遺跡」の発掘調査を、洋野町教育委員会と共同で実施してきた。本事業は 5 カ年計画で進めており、うち 4 年間で野外調査と室内整理作業にあて、最終年度の令和 5 年度に調査報告書を発刊する予定である。

縄文時代後期前葉の北海道から北東北にかけては、環状列石をランドマークとする遺跡が複数存在し、当該期におけるこの地域の特徴の一つに数えられている。

これらには世界遺産の構成資産となった著名な遺跡が含まれるが、この西平内 I 遺跡も三陸道建設に関連して実施された発掘調査とその後の各種追加調査等によって、これらに劣らない内容を有する保存状態が良好な遺跡であることが判明し、平成 30 年 6 月に洋野町史跡に指定された。

野外調査の 4 年目にあたる令和 4 年度は、遺跡南側の遺構分布状況把握を主目的として以下の調査を実施した。令和 4 年 9 月 6 日～9 日に前年度調査区の隣接地 45 m²の試掘調査を行い 5 カ所の集石遺構を検出、精査した。



図 5.(3)-1 地中ハンドボーリング調査の実施状況

また同年 11 月 13 日～20 日には南側尾根部を中心とした約 3 千 m²を対象とした地中ハンドボーリング調査により 100 点余りの礫反応を確認、記録した。全体の状況として遺跡南側での遺構集中区域が概ね明らかとなるとともに、集石遺構が西側に帯状に連なる状態を把握できた。次年度はこれまでの調査成果をまとめて報告書の作成を行う。

カ. 自然史標本データ整備事業

独立行政法人国立科学博物館が運営する科学系博物館情報ネットワークシステムの自然史標本情報検索システムに掲載するため、当館で所蔵する生物標本資料 9,500 件について、データ整理・整形を行い、提供した。

キ. 学術研究貢献活動

当館学芸員が依頼を受けた学術雑誌の査読等、館外の学術研究活動に貢献したものを以下に示す。

表 5.(3)-4 令和 4 年度学術雑誌の査読受託数

学芸員名	学術雑誌名	出版元	備考
高橋 雅雄	Ornithological Science	日本鳥学会	査読
高橋 雅雄	Ornithological Science	日本鳥学会	責任編集

ク. 研究協力員制度

当館の調査研究活動の増進に資するため、当館学芸員の推薦により館外研究者を研究協力員として認定し、当館の調査研究等に従事する制度を平成 11 年度から実施している。研究協力員としての活動期間は 3 年間で、申請・審査を経て更新することができる。

令和 4 年度は 3 名の更新が承認された。令和 4 年 3 月末現在で 10 名（順不同）となっている。

○研究協力員（更新）

- 1 吉田裕生（元当館学芸第二課長）
：東北地方産鉱物の記載鉱物学的研究、とくにマンガン硼酸塩・硫酸塩鉱物の研究 [地質部門]
- 2 千葉武勝（元岩手県病害虫防除所長）
：昆虫標本の整理、とくに鞘翅目、膜翅目昆虫の同定、標本作成、調査研究手法に関する助言 [生物部門]
- 3 沼宮内信之（日本森林技術協会）：北東北の植物相（特にスゲ属） [生物部門]

○研究協力員（継続）

- 4 山岸千人（岩手県立盛岡第一高等学校教諭）：山岸定次郎資料の整理 [地質部門]
- 5 吉田充（元当館学芸第三課長）
：大鉢森山周辺に分布する母岩変性岩類から産出する金属資源（金）の研究等 [地質部門]
- 6 大石雅之（元当館学芸部長）
：岩手県産脊椎動物化石を中心とする古生物学的研究 [地質部門]
- 7 工藤紘一（元当館学芸第二課長）
：岩手の年中行事をはじめとする民俗事象の研究 [民俗部門]
- 8 玉山光典（盛岡中央高等学校助教諭）：日本（特に岩手県）の変形菌相 [生物部門]
- 9 大友令史（岩手県病害虫防除所）：病害虫の生態的研究 [生物部門]
- 10 藤井千春（元当館主任専門学芸員・岩手県立前沢高等学校教諭）
：北日本における発光生物の生態学的研究 [生物部門]

(4) 資料収集保管活動

ア. 資料の収集整理

令和4年度3月末現在の登録資料数は15,342点で、開館以降の累計は362,640点にのぼる(表5.(4)-1)。県内外の方々のご厚意によって今年度当館が受贈した資料は51件と、昨年の37件よりも大幅に増えている(表5.(4)-2)。中でも、1,000点を超える昆虫標本群が3件、200点を超える文書群が2件と、大型コレクションの寄贈が増えている。この傾向は今後も続くと見られ、収蔵スペースの確保が緊急課題である。

表5.(4)-1 令和4年度資料登録状況

	年度区分	地質	生物	考古	歴史	民俗	区分計
採集	令和3年度末累計	3,263	37,687	922	3	185	42,060
	令和4年度計	18	3,176	-	-	41	3,235
	累計	3,281	40,863	922	3	226	45,295
発掘	令和3年度末累計	209	-	3,470	-	-	3,679
	令和4年度計	-	-	-	-	-	-
	累計	209	-	3,470	-	-	3,679
寄贈	令和3年度末累計	5,756	156,525	55,110	39,067	18,752	275,210
	令和4年度計	386	10,235	136	533	788	12,078
	累計	6,142	166,760	55,246	39,600	19,540	287,288
購入	令和3年度末累計	1,398	12,176	269	6,975	2,523	23,341
	令和4年度計	11	-	-	-	6	17
	累計	1,409	12,176	269	6,975	2,529	23,358
製作	令和3年度末累計	115	584	95	114	505	1,413
	令和4年度計	-	6	-	-	-	6
	累計	115	590	95	114	505	1,419
所管換	令和3年度末累計	1	84	-	1,104	278	1,467
	令和4年度計	-	-	-	-	-	-
	累計	1	84	-	1,104	278	1,467
不明	令和3年度末累計	-	101	-	-	27	128
	令和4年度計	-	6	-	-	-	6
	累計	-	107	-	-	27	134
合計	令和3年度末累計	10,742	207,157	59,866	47,263	22,270	347,298
	令和4年度計	415	13,423	136	533	835	15,342
	累計	11,157	220,580	60,002	47,796	23,105	362,640

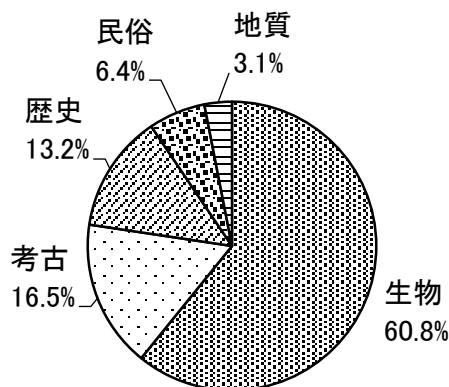


図5.(4)-1 分野別収蔵点数の割合

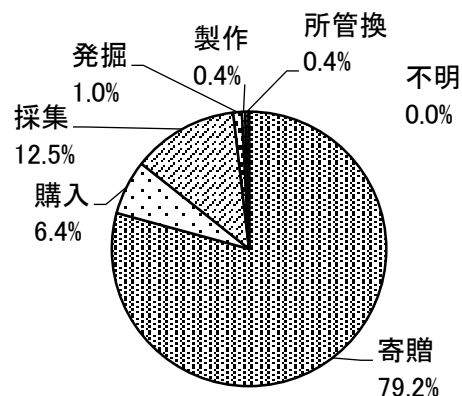


図5.(4)-2 受入方法別収蔵点数の割合

新規登録資料点数は生物部門が最も多く、13,423 点で全体の約 87%を占める。

地質部門では中生代前期白亜紀のアンモナイト化石など 415 点を、生物部門では学芸員採集のクモ類標本、青山之也氏寄贈のチョウセンアカシジミ標本、岩手県植物誌調査会採集の植物標本など 13,423 点を、歴史部門では田村家資料、金田一惣八家資料など 533 点を、民俗部門ではみちのくあかね会関係資料、菊地作藏氏関係資料など 835 点を、考古部門では大船渡市の貝塚出土資料など 136 点をそれぞれ登録した。

毎年増加する膨大な資料の登録を円滑に進め、将来的に多くの資料情報を当館ホームページ上で公開することを目指し、資料登録は平成 24 年 4 月から早稲田システム開発(株)が提供する I.B.Museum SaaS により行っている。本システムは文字情報と画像情報をデータベース上で統合できること、登録情報のうち選択した部分のみをインターネット上で公開できること、クラウド型システムのため自館でのハードの更新が不要であることなどの利点がある。このシステムを使用し、現在 1,123 点の当館所蔵の資料情報及び画像を公開中である。

表 5.(4)-2 令和 4 年度の主な受贈資料

部門	寄贈者 (敬称略)		居住地 所在地	資 料 名	数 量
地 質	1	菊地 喜雄	盛岡市	大船渡市産化石を含む地質標本	一式
	2	松政 正俊	盛岡市	現生貝類の貝殻標本	53
生 物	3	小田 公良	久慈市	書籍、図鑑等	一式
	4	坂東 祥伸	盛岡市	書籍、標本	20 冊・11 箱
	5	—	—	植物標本	3 箱
	6	平野 俊秀	紫波町	昆虫標本	一式
	7	市川 杜夫	盛岡市	魚類標本、ヘビの標本ほか	30
	8	東 紀子	盛岡市	アオウミガメ剥製	1
	9	佐々木悠太	滝沢市	サラサヤンマ	1
	10	佐々木悠太	滝沢市	アオサナエ	1
	11	—	—	クワガタ	2
	12	藤澤 悟	矢巾町	キンケイ	1
	13	佐々木 全	滝沢市	スナアカネ・エゾトンボ	2
	14	佐々木悠太	滝沢市	ノシメトンボ小型化石標本等	4
	15	佐々木 全・悠太	滝沢市	マダラヤンマ等/マイコアカネ	7
	16	菅野 進・友明	奥州市	ウラギンシジミ	1
	17	大森 泰英	滝沢市	カワウソの毛皮	1
	18	堅谷 達彦	久慈市	昆虫標本	一式
	19	佐々木 稔	仙台市	ヤマドリ×キジ交雑個体	1
	20	松政 正俊	盛岡市	無脊椎動物 液浸標本	20
	21	佐藤 幸子	盛岡市	地衣類標本	113
	22	在原 進	盛岡市	昆虫標本	一式
	考 古	23	山口 学	紫波町	考古資料 (石器・骨角器等)
歴 史	24	中村みゆき	盛岡市	関東軍報道隊演習写真帖	1
	25	金田一惣八	滝沢市	金田一家関連資料	92
	26	下館 義平	久慈市	延鉄	1
	27	田村 純一	盛岡市	田村家資料 (地図、教科書)	219
	28	佐藤 信男	盛岡市	国旗	1
	29	阿部 和夫	奥州市	阿部友之助氏従軍関連資料	23
	30	阿部 和夫	奥州市	阿部友之助氏拝受証書資料	5
	31	田村 純一	盛岡市	田村清治郎 (関東大震災復興) 関係資料	67
	32	本池 悟	所沢市	岩手県関連手紙資料	44
	33	熊谷 泉	盛岡市	大元帥陛下御統監陸軍特別大演習記念写真帖	1

部門	寄贈者 (敬称略)		居住地 所在地	資 料 名	数 量
歴 史	34	奥山 民生	東京都	列車行先表、いわて銀河鉄道開業記念入場券	2
	35	久慈 竹藏	野田村	野田佐藤家文書襖ほか	510
	36	田村 純一	盛岡市	田村家資料	7
	37	—	—	戦争関係資料	42
民 俗	38	本間 正幸	盛岡市	九二式電話機、8mmフィルム	2
	39	鎌田 隆	盛岡市	ぼたん菓子櫃	2
	40	藤本 達也	雫石町	オガミサマの道具(呪具)	一式
	41	(株)みちのくあかね会	盛岡市	ホームスパン関係資料	86
	42	村木 賢二	滝沢市	片口、飯かご、茶碗かごほか	9
	43	高橋 廣至	盛岡市	こけし	7
	44	森鍵 誠一	盛岡市	ホームスパン紡毛機関係データ(CD-R)	1
	45	玉櫻堂菓子舗	盛岡市	菓子木型など菓子製造道具ほか	一式(520)
	46	—	—	日本人形(2体ケース入り)	1
	47	佐々木典子	盛岡市	かき氷用食器、蕎麦猪口	7
	48	—	—	作並こけし	1
	49	伊藤 武雄	盛岡市	芸能面(鬼剣舞面・神楽面)	4
	50	飯岡 豊	盛岡市	ポータブル蓄音機、SPレコード	5
	51	矢幅 ミヨ	盛岡市	着物	1

計 51件 1,531点・14箱・7組

表5.(4)-3 資料の製作

部門	名 称	内 容 の 概 略
地 質	久慈産恐竜化石レプリカ製作及び3Dデータ	ティラノサウルス類の歯の化石、竜脚類の歯の化石などのレプリカ製作計47点、翼竜化石レプリカ用3Dデータ 1件
生 物	鳥類と哺乳類の剥製、両生類のレプリカ	鳥類仮剥製15点、鳥類本剥製4点、哺乳類本剥製1点、両生類レプリカ4点
民 俗	音源資料のデジタル化	昭和58年に市町村(東和町、花巻市、石鳥谷町)で採録した民謡のカセットテープ 計9本

表5.(4)-4 機器類の保守点検と修繕

項目	部門	内 容 の 概 略
保守点検	歴史	マイクロリーダープリンター
	文化財科学	文化財科学実験システム(文化財分析室、器具庫、X線分析室の空気清浄化システム及び局所排気装置)、表面分析装置(蛍光X線分析装置、X線回析装置)、保存処理機器(真空凍結乾燥機、真空樹脂含浸装置)、博物館資料滅菌システム
修 繕	歴史	歴史資料「手箱」
	文化財科学	気化式加湿器、エアコン、大型冷凍庫、博物館資料滅菌システム
その他	文化財科学	施設くん蒸消毒、文化財科学作業環境測定、使用済薬品等廃棄処分

1. 資料の保管管理

収集整理した資料は部門別または材質別に、第1～5収蔵庫で保管される。収集した資料については調査研究が行われ、学術的に重要と判定されたものが博物館資料として登録される。調査研究の過程で得られた学術データはデータベース化される。登録資料および学術データは常設展示や特別展示で公開されるほか、「収蔵資料目録」の刊行、資料貸出し等をとおり、他機関における活用にも積極的に協力している。

(ア) 資料の貸出

本年度についても、博物館や出版社をはじめとする様々な機関から、所蔵資料および写真類について多数の貸出の要請があり、実物資料については21件（414点と3組）、画像（写真）資料については67件・184点の貸出を行った。博物館関係機関はもとより、教科書等教育用書籍への掲載を目的とする借用が多くを占めた（表5.(4)-5・表5.(4)-6）。

表5.(4)-5 資料の貸出

部門	貸出先	所在地	資料名	点数
地質	1 山形県立博物館	山形県	ミズホクジラ全身骨格標本レプリカー一式ほか	47
	2 秋田県立博物館	秋田県	クピナガリュウ腹肋骨（複製）ほか	8
	3 釜石市文化スポーツ部	釜石市	中岳蛇紋岩、樋口沢シルル紀サンゴ化石ほか	7
	4 一関市博物館	一関市	気仙隕石	1
	5 奥州市牛の博物館	奥州市	鯨類肋骨片化石、ゴイサギガイ化石ほか	22
	6 花巻市総合文化財センター	花巻市	ナウマン子察地質図「東北部」パネルほか	9
生物	7 千田 喜博	広島県	ハネカクシ類標本	229
考古	8 中津市歴史博物館	大分県	馬立Ⅱ遺跡出土狩猟文土器、蔀内遺跡出土木弓	3
	9 岩手県立図書館	盛岡市	手代森遺跡出土遮光器土偶（復元製作品）ほか	2点、一式
	10 山田町教育委員会	山田町	山田町田の浜貝塚出土「鯨刀」（小田島コレクション）	1
	11 北上市立博物館	北上市	和賀町愛宕山遺跡出土資料（当館発掘資料）	6
歴史	12 盛岡市先人記念館	盛岡市	松皮肌鉄瓶 銘 有坂鑄之 19代有坂富右エ門宣養の作 ほか	5
	13 岩手県立平泉世界遺産ガイダンスセンター	平泉町	願成就院宝塔レプリカ、最明寺板碑レプリカ	2
	14 石川啄木記念館	盛岡市	教科書「標準 小学国語6の下」、「現代高等国文」	2
	15 東北歴史博物館	宮城県	銀本小札紫系緘二枚胴具足（岩手県指定文化財）ほか	14
	16 株式会社 NHK プロモーション	東京都	成島毘沙門堂木像二鬼坐像（複製）	2
民俗	17 みやこエフエム放送株式会社	宮古市	民謡調査音源 CD（南部木挽唄収録）	1
	18 八戸市博物館	八戸市	岩手県助産師会旧蔵 助産師関連資料	4点、2組
	19 奥州市牛の博物館	奥州市	森口多里コレクションプリントアルバムほか	42
	20 一関市芦東山記念館	一関市	卷子「百鬼夜行図」、同パネル	5
その他	21 八戸市博物館	八戸市	体験学習室ハンズオン資料（大漁バンテン）	2
	- 志波城跡愛護協会	盛岡市	移動展ケース	2

計 21件 414点・3組

表5.(4)-6 画像資料の貸出（使用許可含）

部門	貸出先	資料名	点数
地質	1 株式会社学研プラス	三葉虫シュードフィリップシア	1
	2 グループ・コロンプス有限会社	恐竜モシリウの上腕骨	1
	3 栃木県立博物館	岩手県岩泉町内 P/T 境界層露頭写真	1
	4 秋田県立博物館	モシリウ上腕骨、ティタノサウルス類歯ほか	4
	5 株式会社くもん出版	モシリウ上腕骨、マメンキサウルス	2
	6 金子 友里	モシリウ上腕骨	1
	7 釜石市立鉄の歴史館	中岳蛇紋岩、樋口沢シルル紀サンゴ化石ほか	7
	8 株式会社アドシステム	ハナイズミモリウシ全身骨格	1
	9 一関市博物館	気仙隕石	1

部門	貸出先		資料名	点数
地質	10	株式会社ベネッセコーポレーション	ハナイズミモリウシ全身骨格	1
	11	株式会社旺文社	哺乳類デスマスチルスの上顎大白歯	1
	12	株式会社岩手日報社	中岳蛇紋岩	1
	13	株式会社 NHK エデュケーショナル	モシリユウの生態復元図	1
	14	国立研究開発法人産業技術総合研究所 地質調査総合センター	綱取層、マエサワクジラ、篋岳・涌谷の砂金	3
	15	花巻市総合文化財センター	岩手県地質概略図、岩手県地質層序表	2
生物	16	盛岡てがみ館	ハヤチネウスユキソウ、ナンブイヌナズナほか	4
	17	NPO 法人 フォレストサイクル元樹	キリの花、南部赤松、岩手山	3
	18	株式会社岩崎書店	東日本大震災津波襲来時の写真（大上幹彦氏撮影）	3
	19	NHK 盛岡放送局	陸前高田市博物館資料救出作業（職員撮影）ほか	8
考古	20	岩手県立図書館	手代森遺跡出土遮光器土偶、萩内遺跡出土大型土偶頭部	2
	21	中津市歴史博物館	萩内遺跡出土大型土偶頭部	1
	22	北海道立埋蔵文化財センター	深鉢型土器 大木7b式集合写真	1
	23	魯 景遠	手代森遺跡出土遮光器土偶	1
	24	盛岡市遺跡の学び館	手代森遺跡出土遮光器土偶	1
	25	中央出版株式会社	手代森遺跡出土遮光器土偶	1
	26	福島市	日戸遺跡出土しゃがむ土偶	1
	27	株式会社 JAL ブランドコミュニケーション	萩内遺跡出土大型土偶頭部	1
	28	中央出版株式会社	豊岡遺跡出土遮光器土偶	1
	29	柏書房株式会社	豊岡遺跡出土遮光器土偶、寺場遺跡出土土偶	2
	30	中央出版株式会社	豊岡遺跡出土遮光器土偶	1
	31	北上市	小田島コレクション 北上市臥牛遺跡出土品	12
	32	井戸尻応援団	手代森遺跡出土遮光器土偶	1
	33	柏書房株式会社	手代森遺跡出土遮光器土偶	1
歴史	34	内城 弘隆	金田一勝定写真	1
	35	盛岡市先人記念館	香炉「鐵心院銀覚電榮居士」	1
	36	株式会社悠工房	俵物（ふかひれ・煎海鼠・干鮑）	3
	37	株式会社グローバルメディアサービス	一本松の写真（吉田家 20110403）	1
	38	株式会社 EXCERA	鯰尾兜（燕尾形兜）	1
	39	一般財団法人産業遺産国民会議	たたら模型	1
	40	株式会社トップシーン	BS 歴史館「もうひとつの黒船」映像、『私残記』下巻	2
	41	東京書籍株式会社	ふかひれ・煎海鼠・干鮑	3
	42	高田松原津波復興祈念公園市民協働グループ企画運営部会所属「ラムサールを目指す会」	蓑虫山人画「陸前国気仙郡今泉村愛宕山眺望之図」（名古屋市 長母寺蔵）ほか	3
	43	公益財団法人 鉄の歴史村地域振興事業団	大槌燭屋鍛冶絵巻	14
	44	株式会社かみゆ	鯰尾兜（燕尾形兜）	1
	45	岩手県政策企画部	明治4年7月岩手県管内図、戊辰戦争前岩手県管内図	2
	46	岩手県政策企画部	明治9年4月岩手県管内図	1
	47	応用地質株式会社	盛岡城下鳥瞰図	1
	48	株式会社吉川弘文館	鯰尾兜（燕尾形兜）	1
	49	株式会社教育統計会	俵物（ふかひれ・煎海鼠・干鮑）	1
	50	岩手県政策企画部	明治4年7月岩手県管内図ほか	3
	51	中川 大介	大村氏系図	1
	52	株式会社エディキュープ	太刀 銘 助真、岩手県立博物館外観	3
	53	NPO 法人日本ビオトープ協会	錦絵「新撰花鳥画」より「水葵 鴨 川翠」（歌川廣重）	1
54	株式会社テレビマンユニオン	金沢御山大盛之図	1	

部門	貸出先	資料名	点数	
	55	もりおか歴史文化館	鐘馗図（南部利幹）、和歌三神像（南部利敬）ほか	5
	56	紫波町赤沢郷土資料館	金沢御山大盛之図	23
	57	株式会社ユニフォトプレスインターナショナル	俵物（ふかひれ・煎海鼠・干鮑）	3
	58	一関市博物館	金沢御山大盛之図、大槌畑屋鍛冶絵巻	5
	59	株式会社読売新聞宮古通信部	三閉伊日記	2
民俗	60	八戸市博物館	岩手県助産師会旧蔵助産道具	2
	61	Dai Williams	福田ハレ氏関連画像	14
	62	大船渡市立博物館	スネカ装束（森口多里コレクション）	4
	63	中嶋奈津子	六角舞（森口多里コレクション）	3
	64	株式会社 KANADEL	南部曲り屋	1
	65	株式会社美和企画	絵経文「般若心経（盛岡系）」	1
その他	66	一関市芦東山記念館	卷子「百鬼夜行図」	1
	67	大日本図書株式会社	岩手県立博物館外観	1

計 67件 184点

(イ) 資料の熟覧・撮影等

コロナ禍であったため従前よりも少なかったが、他施設の職員による展示会等の事前調査や研究者による収蔵資料の熟覧・撮影希望も28件・762点と4組あり、これらの業務に各部門で対応した（表5(4)-7）。

表5.(4)-7 資料調査の熟覧・撮影

部門	貸出先	資料名	点数
地質	1 株式会社テレビ岩手	モシリユウの上腕骨化石	1
生物	2 倉田 正観	フクロソウ科ミツバフウロ、シソ科キセワタ	40
	3 寺本沙也加	海産貝類標本	18箱
	4 小川 路人	コヤマコウモリほか	8
	5 NHK 盛岡放送局	『植物研究雑誌』第6巻（岡村金太郎肖像）	1
考古	6 株式会社日経映像	豊岡遺跡出土遮光器土偶	1
	7 小川 忠博	萩内遺跡出土大型土偶頭部ほか	3
	8 佐藤 嘉広	紫波町墳館遺跡出土弥生土器片ほか	二式
	9 中尾 央	一関市熊穴洞穴出土古人骨	一式
	10 大島 晃一	鳥畑寿夫コレクション『訪古』第3号・第4号ほか	7
	11 石川日出志	清水下遺跡出土石包丁（うち1点はレプリカ）	2
	12 国立アイヌ民族博物館	北上市五条丸古墳出土蕨手刀ほか	3
歴史	13 劉 海宇	山蔭家資料『夢庵蔵鈎』、『夢庵蔵鈎』所収帯鈎	22
	14 東京大学資料編纂所	木村空宛南部信直書状ほか	9
	15 宮古市教育委員会	沢田家文書、盛合家資料	574
	16 石川啄木記念館	国語教科書	24
	17 盛岡市先人記念館	松皮肌鉄瓶（銘 有坂鑄之 19代有坂富右エ門宣養の作）ほか	5
	18 佐藤 信男	軍隊時代のゲートル、軍隊時代の作業着（半ズボン）	2
	19 東北歴史博物館	太刀 銘 奥州舞草友長ほか	6
	20 佐々木春樹	佐々木藍田関係資料	2
	21 一関市博物館	気仙隕石、七夕透鐔ほか	14
	22 高橋 杏里	中国古印「私ホ」、同「千秋」、同「明上」、同敬事ほか	23
	23 遠野市史編さん室	沢田家文書ほか	35
民俗	24 株式会社東日本朝日広告社	旧佐々木家住宅	1

25	小野寺華子	天明三年田山曆 ほか	3
26	株式会社河北新報社	天明三年田山曆（複製）ほか	3
27	盛岡タイムス	菊地作藏氏関係資料	6
28	株式会社胆江日日新聞社	森口多里コレクションプリント写真ほか	5

計 28 件 762 点・4 組

（ウ） 収蔵資料目録の刊行

当館収蔵資料を外部の機関や個人が有効利用できるようにすることを目的として、整理・検討が完了した登録資料について、目録を刊行している。令和 4 年度は、「岩手県立博物館収蔵資料目録第 29 集 生物 IX 両生類・爬虫類」を刊行し、PDF 及びエクセル形式の電子ファイルを公式ホームページで公開した。当館生物部門が令和 4 年度末までに登録した両生類・爬虫類の標本と複製の 158 件の情報を掲載した。

ウ. 文化財科学部門

岩手県立博物館には、先人から伝えられた貴重な文化財や、自然界の営みを知るうえで重要な自然史標本をはじめとする数多くの学術資料が収蔵・展示されている。これらの資料をできるだけ長くそのままの状態の後世に伝えるとともに、資料が有するさまざまな情報を自然科学的方法で解析し読み解くことを目的として、文化財科学部門が設置されている。

（ア） 資料の保管・管理

博物館資料をできるだけ長く後世に伝えるためには、資料の素材に適した保存環境を整える必要がある。岩手県立博物館では、収蔵庫及び展示室に温湿度記録計を設置し、継続的に温湿度変化を観察している。その結果にもとづき空調機を制御し、さらに必要に応じて除湿機や加湿器を使用しながら、展示室、収蔵庫内の温度を 21～23℃、湿度を 50～60%に維持することに努めている。なお、特に精密な湿度管理を施す必要がある資料については、調湿剤をセットしたエアタイトケースを活用している。

また、資料劣化に関係する化学物質（ギ酸、酢酸、ホルムアルデヒド、アセトアルデヒド、アンモニア）の濃度を定期的に確認し、基準値を超過する箇所については活性炭等の吸着剤を使用して低減を図るなど安定化に努めている。

なお、劣化が進んだ出土金属製品や木製品については、脱酸素剤、調湿剤を入れた透湿抵抗の高いガスバリアフィルムに封入し、劣化の進行防止を図っている。

（イ） 生物学的劣化からの防除

紙製品、木製品、繊維製品、自然史標本等有機物を素材とする資料は、虫やカビにより汚損される心配がある。新たに博物館に搬入される資料には有害な虫やカビが付着している可能性があり、有害生物を駆除することなく収蔵庫や展示室に運び込んだ場合、急激に繁殖する恐れがある。有害な虫やカビから資料を守るため、岩手県立博物館では新規に搬入された資料について、必ず滅菌装置で殺菌殺虫処理（文化財用薬剤によるくん蒸）を行っている。令和 4 年度の滅菌装置によるくん蒸実施状況は、表 5.(4)-9 に示すとおりである。

表 5.(4)-9 滅菌装置によるくん蒸実施状況

部 門	数 量	資 料 種 別
地 質	1 件	文書類
歴 史	43 件	文書類、木像、襖、トランク、戦争関係資料、震災関係資料 他
民 俗	74 件	オガミサン道具、オシラサマ、供養絵額、絵馬、面、掛軸、桶、鋸、紡毛機、ホームスパン資料、こけし、菓子型抜き、日本人形、漆関係資料、着物、蓄音機、映像フィルム、樹皮 他
生 物	343 件	昆虫標本、植物標本、剥製、文書類 他
被災資料	38 件	陸前高田市立博物館所管資料

令和 4 年 9 月 1 日から 10 日まで、密閉くん蒸法により、第 1・第 2・第 3・第 4 収蔵庫、歴史・古美術整理室及び第 2 資料登録室、総合展示室、いわて文化史展示室、特別展示室、いわて自然史展示室をくん蒸した。また、密閉不能箇所である第 4・第 5 収蔵庫前廊下について、9 月 11・12 日に防カビ剤の噴霧処理を実施した。これら各地点についてはその後、有害な虫やカビの発生源となる空調機の送排風口、収蔵庫の棚及び展示ケース上部に固着する塵埃の除去も行った。なお、令和 4 年 6～7 月及び 10～11 月には館内の害虫生息調査及び浮遊菌調査を、同年 12 月及び令和 5 年 2 月には浮遊菌調査を実施している。



図 5.(4)-1 職員による作業の確認

令和 5 年度についても、有害な虫やカビの発生を抑制する良好な展示・収蔵環境の確立を図るため、労働安全衛生法及び関連諸規則を順守しつつ、生物学的劣化防除のための対策を施す予定である。

(ウ) 機器の更新

当館では、博物館資料の内部構造や劣化状態把握のために X 線透過撮影を随時行っている。しかし、撮影装置は昭和 55 年の開館の際に整備されたもので、すでに 40 年以上が経過し老朽化が進んだうえに修理困難となっていた。このため、令和 5 年 3 月に新機（SOFTEX M-150W 特型）に更新された。



図 5.(4)-2 軟 X 線撮影装置

エ. 重要文化財旧藤野家住宅及び旧佐々木家住宅耐震補強工事

当館には奥州市と岩泉町から移築した 2 棟の建造物「旧藤野家住宅」「旧佐々木家住宅」があり、いずれも重要文化財の指定を受けている。両建造物は内部を開放しており自由に見学ができる。また、当館主催事業で活用するほか、さまざまな催しの場として貸し出しを行っている。

ここでは、令和 2 年から令和 4 年にかけて実施した両建造物の耐震補強工事の概要を報告する。

(ア) 事業の概要

事業名称：重要文化財（建造物）旧藤野家住宅及び旧佐々木家住宅防災施設整備（建造物）（耐震対策工事）事業

対象建造物：旧藤野家住宅、旧佐々木家住宅

事業主：岩手県

工事方針：耐震対策工事

事業期間：令和2年（2020）11月2日～令和4年（2022）5月31日（1年7ヶ月）

補強工事期間：令和3年（2021）7月27日～令和4年（2022）4月15日（9ヶ月）

総事業費：63,213,168円

事業目的：重要文化財（建造物）旧藤野家住宅及び旧佐々木家住宅に関し、「重要文化財（建造物・美術工芸品）修理、防災事業費国庫補助要項」（平成21年5月1日、文化財保護部長裁定）及び「重要文化財（建造物）耐震対策工事業 取り扱い要領」（平成21年5月1日）に基づき、令和2年度から令和3年度までの2ヵ年事業として、耐震対策工事を実施。

実施方法：工事の設計監理は株式会社三衡設計舎を選定の上、委託契約を結び実施し、工事は岩手県財務規則に準じ指名競争入札の上、落札者の株式会社熊谷工務店と契約締結後工事を実施した。また、技術指導を、令和2年度は建築装飾技術史研究所所長の窪寺茂氏、令和3年度は長岡造形大学准教授の津村泰範氏に依頼した。

担当課：岩手県教育委員会生涯学習文化財課

補強設計・工事監理：株式会社三衡設計舎 代表取締役社長 勝部 敬次

補強工事：株式会社熊谷工務店 代表取締役社長 熊谷 則子

(イ) 耐震診断の概要と結果

令和元年7月9日から令和2年3月16日及び令和2年6月23日から10月20日まで耐震診断を実施。旧藤野家住宅については、建物全体の深刻な傾斜は見受けられなかったが、傾斜の可能性は否めず、これ以上傾斜をさせないよう注意が必要であるとされた。また、旧佐々木家住宅については、全体的に北東側に傾斜しており、同じくこれ以上傾斜させないよう注意が必要であるとされた。構造性能の目標は、「安全確保水準」レベルでの検討であり、大地震時に倒壊せず、中地震時に機能が維持されることが目標値とされた。また、両民家とも通常展示物として使用しているため、地震時に人命を損なうことのない耐震性が要求される。

耐震診断の結果、旧藤野家住宅及び旧佐々木家住宅は必要な耐震性能を満たしていないことが判明、そのため構造補強が必要であると結論づけられた。

(ウ) 構造補強方針

旧藤野家住宅について耐震診断の結果、屋根面の補強は不要と判断された。両民家の主な補強方法として以下の構造補強方針が決定された。耐震要素として構造用合板を設置し、梁継手、梁仕口の金物補強を行う。また、茅葺屋根の合掌梁接合部の補強、引抜きが生じる柱の金物補強、金物を固定する基礎を増設する。旧佐々木家住宅の補強については、現状壁となっている箇所には構造用合板や鉄筋ブレースを配置して補強し、東側のまや部分は壁による補強の代わりに鉄骨ラーメンフレームによる補強を配置する。

(エ) 補強工事

工事名称：旧藤野家住宅及び旧佐々木家住宅耐震補強工事

施工場所：岩手県盛岡市上田字松屋敷 34 番 岩手県立博物館構内

発注者：岩手県知事 達増 拓也

受注者：株式会社熊谷工務店 代表取締役 熊谷 則子

工事期間：令和3年(2021)7月27日～令和4年(2022)4月15日(9ヶ月)

担当課：岩手県教育委員会生涯学習文化財課

技術指導：長岡造形大学建築・環境デザイン学科准教授 津村 泰範

工事監理：株式会社三衡設計舎 代表取締役社長 勝部 敬次

担当(施工)：株式会社熊谷工務店 中村 誠、門岡 慧、佐藤 友美

担当(施工)：株式会社三衡設計舎 勝部 敬次、田浦 正広

株式会社桜設計集団構造設計室 佐藤 孝浩

工事協力業者：株式会社小松組(基礎関係工事及び木工事ほか)、有限会社沢目左官工業所(左官(三和土)工事)、株式会社田中鋼設(鉄骨工事)

a. 共通仮設工事、直接仮設工事

県立博物館内に現場事務所設置、既存撤去一時保管用及び民具等の両家内部展示物一時保管用の仮設倉庫を設置した。両家住宅までの通路は、工事車両通行のため仮設用プラシキにて養生を行った。直接仮設については、基礎工事及び埋め戻しが完了し、既存床板復旧を行った後、内部の高所作業用のため、くさび式緊結足場を設置した。

b. 施工前調査、撤去工事

両家住宅の既存床板等を番付及び現況写真撮影の上、一時撤去。既存の和釘は当初材ではないと判断、やむを得ない場合は切断し、引き抜けた和釘は再利用とはせず保管とした。既存土壁は、極力落とさない方針とし、合板受け材下地で干渉する一部のみ、小舞までの欠き落としとした。欠き落としした土壁は、現地保管とした。補強面詳細施工図作成のため、現場員による実測調査を行い、納まり等の検討を工事監理者、構造設計者及び技術指導者等と行い、協議の上、決定した。

c. 土工事

三和土、床下土間を掘削し、発生土は屋内に土嚢積みして仮置き、基礎工事完了後、埋め戻しとし、床下残土は廃棄処分した。

d. 基礎工事

既存独立基礎に後施工アンカーを打ち、新規地中梁基礎と一体化した。外周部の新規土台基礎にあたっては、既存地中梁天端にアンカー打ちとした。

e. 既存礎石加工工事

ホールダウン金物等設置のためやむを得ない箇所は、既存礎石を削孔して、ホールダウン金物用のアンカーボルトを通して既存基礎に後施工アンカーにて定着した。

f. 木工事

新規土台、構造用合板下地受け材、構造用合板等の木工事を施工した。

g. 金属(金物)工事

柱脚金物については、礎石や柱脚周りの現況調査の上、製作寸法・形状を決定した。

h. 左官・塗装工事

既存仕上げが土壁となっている補強面は、構造用合板の上に、アク止め及び下地調整材塗布の上、内装用土壁調仕上げ塗材塗りとした。

i. 鉄骨工事

旧佐々木家住宅には、鉄骨フレームによる補強工事を行った。

j. 三和土復旧工事

基礎工事のため掘削した三和土の復旧には、近畿壁材「重吉たたき」（深草）を使用した。

k. 電気設備工事

新規基礎や補強壁面に干渉する電気配線は、必要に応じて切り廻した。合板補強で塞がれる既存コンセントは、配線撤去の上プラグ止めの処置を行った。工事完了後漏電がないことを確認した。

(オ) 工事写真及び完成写真

a. 旧藤野家住宅



図5.(4)-3 にわ（西側） 工事



図5.(4)-4 にわ（西側） 完成

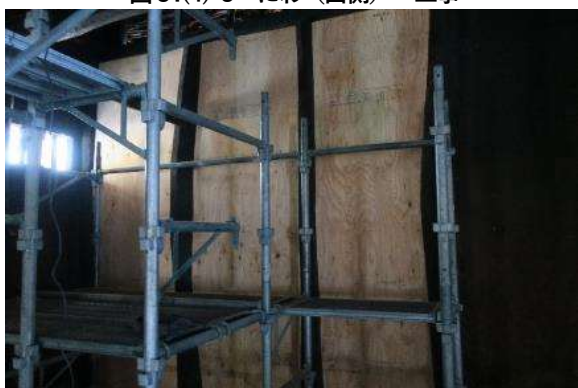


図5.(4)-5 にわ（東側） 工事



図5.(4)-6 にわ（東側） 完成



図5.(4)-7 なんと（北側） 工事

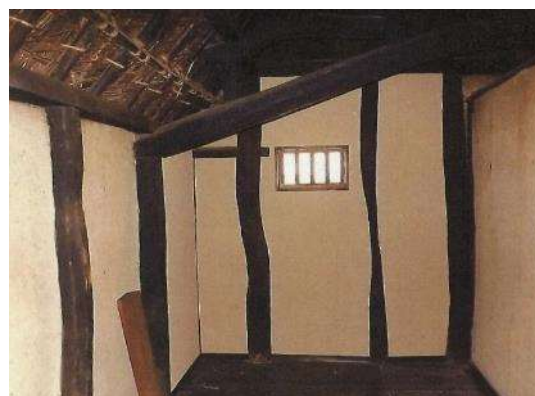


図5.(4)-8 なんと（北側） 完成



図5.(4)-9 おかみ (西側) 工事



図5.(4)-10 おかみ (西側) 完成

b. 旧佐々木家住宅



図5.(4)-11 おくざしき 工事



図5.(4)-12 おくざしき (南側) 完成



図5.(4)-13 でい (東側) 工事



図5.(4)-14 でい (東側) 完成



図5.(4)-15 にわ (東側) 工事



図5.(4)-16 にわ (東側) 完成



図5.(4)-17 外部（南側）おくざしき 工事



図5.(4)-18 外部（南側）おくざしき 完成



図5.(4)-19 まや 工事



図5.(4)-20 まや 完成



図5.(4)-21 なかでい（北側） 完成



図5.(4)-22 にわ（西側） 完成

※詳細については「重要文化財 旧藤野家住宅及び旧佐々木家住宅耐震補強工事報告書」令和4（2022）年5月 岩手県発行 株式会社三衡設計舎編集を参照のこと。

（5）総務企画調整

ア. 総括出版広報

(ア) 印刷物

a. 博物館だより

173号 令和4年6月1日発行 (A4判8頁・3,000部)

目次／企画展「赤色に宿るチカラ」表紙／いわて自然ノート「岩手のトンボ調査中！」p.2-3／展覧会案内「赤色に宿るチカラ」p.4-5／事業報告「博学連携事業 岩手県立平舘高等学校の生徒による操り人形装束製作」／活動レポート「チャレンジ!はくぶつかん」p.6／事業報告「トピック展 小林陵侑選手ジャンプスーツ」／解説員室より「博物館を見た後は…」p.7／インフォメーション p.8

174号 令和4年9月1日発行 (A4判8頁・3,000部)

目次／テーマ展「水辺の生きもの」表紙／いわて文化ノート p.2-3／展覧会案内「水辺の生きもの」p.4-5／事業報告 第83回自然観察会「湿地の生き物を観察しよう」／事業報告 第83回地質観察会「北上市西部、地層は続くよ ～竜の口層貝類化石をもとに～」p.6／事業報告 いわて大恐竜展 ティラノサウルスの進化の謎／事業報告 第2回 岩手県立博物館写真コンテスト「私の岩手山」入賞作品決定 p.7／インフォメーション p.8

175号 令和4年12月1日発行 (A4判8頁・3,000部)

目次／テーマ展「新収蔵・新指定展Ⅰ 文化史編」表紙／いわて文化ノート「北を拓いた岩手県人ー明治初期北海道開拓を中心にー」p.2-3／展覧会案内「新収蔵・新指定展Ⅰ 文化史編 ～2018年度からの新コレクション～」p.4-5／活動レポート「令和4年度博物館館園実習」／事業報告「秋のまなび教室」p.6／学芸員室より「「ナイトミュージアム」から」／事業報告「教員のための博物館の日」p.7／インフォメーション p.8

176号 令和5年3月1日発行 (A4判8頁・3,000部)

目次／テーマ展「新収蔵・新指定展Ⅱ 自然史編」表紙／いわて文化ノート「続けていくということ」p.2-3／展覧会案内 新収蔵・新指定展Ⅱ 自然史編 ～2018年度からの新コレクション～p.4-5／事業報告 第84回地質観察会「陸前高田市の玉山金山を歩く」／事業報告 令和4年度ミュージアムコンサート「松園シルバーダックスによる合唱コンサート」p.6／事業報告 民俗講座「たいけん!むかしのくらし」／事業報告 博物館でまなぶ岩手の歴史講座 p.7／インフォメーション p.8

b. 令和4年度岩手県立博物館年報

令和5年6月1日発行 (A4判相当PDF版、95頁、ホームページ掲載)

c. 行事案内リーフレット

令和4年度下半期分 (B4判変形・巻四ツ折、26,000部、令和4年9月発行)

令和5年度上半期分 (B4判変形・巻四ツ折、26,000部、令和5年4月発行)

d. いわはく子ども新聞 (旧 冬・春休み子ども新聞)

令和4年7月発行 (A4判・60,000部)

令和4年12月発行 (A4判・60,000部)

令和5年3月発行 (A4判・60,000部)

* 令和2年度より全県の小学生を対象に配付している。

(イ) 広報活動

a. 当館独自の広報

① 定期発行

博物館だより（年4回、全国の公共施設等へ配布、3,000部）

イベントガイド（毎月、市内外公共施設および松園地区配布、約1,500部）

※その他、モノクロ版を黒石野・緑が丘地区配布。PDFデータを県内教育事務所、県内市町村教育委員会、県内小学校へ送信。

行事案内リーフレット（年2回、公共施設および観光施設等配布、26,000部）

「いわはく子ども新聞」（年3回、全県の小学校等に配布、60,000部）

② 不定期発行

展覧会等、各事業別ちらし（随時）ほか

③ その他

令和4年度は「岩手県立博物館広報業務」について、株式会社総合広告社に広報業務委託を行った。期間は、令和4年6月1日（水）～令和5年3月31日（金）で主に博物館の展覧会をアピールする広報を実施した。主な実績としては、IBC岩手放送で情報番組内生中継を1本、ミニ番組を1回、15秒フリートCMを30本程度行ったほか、ラジオによる番組中継を4回、情報番組内での周知を12回程度実施した。また、館独自のTwitterアカウントを利用し、通年で各種事業の広告を展開した。

b. その他の公所への情報提供

日本博物館協会、全国科学博物館協議会、県観光協会、盛岡観光コンベンション協会、県庁広聴広報課、教育記者クラブ、県政記者クラブ等

c. 新聞各社への情報提供

胆江日日新聞、東海新報、岩手日日新聞、デーリー東北、盛岡タイムス、秋田魁新報、北鹿新聞、岩手日報ぼらん、いわにちりビング等

d. ミニコミ誌等への情報提供

acute、Amuse、AREAi、情報誌游悠、rakra、松園新聞、まいぶれ盛岡編集部、盛岡経済新聞、岩手の子育て情報誌fam、大人のための情報誌シニアズ等

e. テレビ・ラジオによる広報

テレビ・ラジオ（テレビパブリシティ、CM放送、テレビスポット、FM岩手特設番組、ラジオ番組中継等）

f. 主な取材対応

表5.(5)-1 主な取材対応一覧（主としてテレビ・ラジオ）

	取材対応日	取材相手	取材内容	対応者	備考（番組名等）
1	7月12日	IBCラジオ	企画展「赤色に宿るチカラ」	米田 寛 近藤 良子	IBCラジオ 684 いわてタウン情報（7月12日〈生放送〉）
2	7月19日	テレビ岩手	企画展「赤色に宿るチカラ」	近藤 良子	NNNストレイトニュース（7月19日）
3	7月21日	めんこいテレビ	企画展「赤色に宿るチカラ」	米田 寛	Mit Live News（8月17日）
4	8月6日	IBC岩手放送	企画展「赤色に宿るチカラ」	米田 寛 近藤 良子	じゃじゃじゃTV（8月6日〈生放送〉）

	取材対応日	取材相手	取材内容	対応者	備考（番組名等）
5	8月16日	IBC ラジオ	岩手のお盆のならわし	川向富貴子	朝からラジオ〈生放送〉
6	7月～8月	トップシーン (番組制作会社)	当館寄託資料「私残記」について	昆 浩之	NHK「英雄たちの選択」検証！200年前のロシア危機～露寇事件 松平定信 3つの意見書～ BSプレミアム、BS4K 20:00～20:59（8月31日） BSプレミアム、BS4K 8:00～8:59（9月7日）
7	9月28日	IBC 岩手放送	テーマ展「水辺の生きもの」	高橋 雅雄	じゃじゃじゃ TV（10月29日）
8	10月14日	IBC ラジオ	テーマ展「水辺の生きもの」	高橋 雅雄	IBC ラジオ 684 いわてタウン情報（10月14日〈生放送〉）
9	11月22日	NHK 総合	鳥類学者のアート観察術	高橋 雅雄	NHK 総合「レギュラー番組への道」（1月21日）
10	11月24日	IBC 岩手放送	被災文化財再生作業	丸山 浩治	ニュースエコー（12月5日）
11	12月15日	岩手朝日テレビ	岩手県立博物館及び三陸ジオパーク推進協議会との連携協力に関する協定締結式	高橋 廣至 工藤 善彦 栗澤 孝信	スーパーJチャンネルいわて（12月15日）
12	1月20日	IBC ラジオ	新収蔵・新指定展Ⅰ 文化史編	昆 浩之	IBC ラジオ 684 いわてタウン情報（1月20日〈生放送〉）
13	1月17日	めんこいテレビ	新収蔵・新指定展Ⅰ 文化史編	昆 浩之	ニュース（1月31日）
14	1月27日	IBC 岩手放送	新収蔵・新指定展Ⅰ 文化史編	昆 浩之	ニュース（1月27日）
15	2月14日	テレビマンユニオン (番組制作会社)	当館資料「金澤御山大盛之図」	工藤 健	SAMURAI WISDOM - TAKEDA SHINGEN - (英語版) (3月4日・5日 深夜)
16	3月8日	NHK 盛岡放送局	鳥羽源蔵について	鈴木まほろ	おぼんですいわて+web 記事 (3月31日)
17	3月10日	NHK 盛岡放送局	地質情報展 2023 いわて	望月 貴史	おぼんです岩手 (3月10日)
18	3月25日	めんこいテレビ	新収蔵展・新指定展Ⅱ 自然史編	佐藤修一郎 渡辺 修二 鈴木まほろ	
19	3月28日	IBC ラジオ	新収蔵・新指定展Ⅱ 自然史編	佐藤修一郎	IBC ラジオ 684 いわてタウン情報（3月28日〈生放送〉）

※青字は「(イ) 広報活動 a.定期発行③その他」に示した広報業務委託によるもの

(ウ) 博物館ホームページ及び SNS の運営

岩手県立博物館公式ホームページ <https://www2.pref.iwate.jp/~hp0910/>

公式ホームページは、平成 13 年 3 月 1 日に正式公開された。平成 24 年度末に委託製作によりデザインを刷新し、またウェブサーバの cgi プログラムを介して内容を更新できるシステムを導入することにより、更新頻度を高めた。令和元年度、全てのページの閲覧回数合計は 725,880 回、トップページの閲覧回数は 91,177 回だった。現在は閲覧回数を記録していない。

令和 4 年に県のウェブサーバの通信方法が暗号化されることとなり、その対応のため、12 月 14 日に cgi プログラムを当館独自のウェブサーバ <https://iwapmus.jp> に移設した。また、12 月 16 日にはホームページアドレスが現在のものに変更された。

I.B.Museum SaaS を利用した当館収蔵資料の公開システム「デジタルアーカイブ」への令和 4 年度のアクセス実績は、13,778 回である。

SNS の利用としては、開館 30 周年を機に平成 22 年 9 月 30 日からツイッターアカウントを運用しているほか、平成 28 年 1 月 5 日からフェイスブックの正式運用を開始した。令和 4 年度内のツイート回数は 459 回であった。年度末時点のツイッターアカウントのフォロワー数は 6,280 人と、前年度に比べて約 9.1%増加した。

イ. 情報機器の管理

令和 4 年度は、3 月に総務課及び学芸部共用デスクトップパソコンを更新した。また、教室に設置している無線 LAN アクセスポイントを更新した。その他、個人貸与のノートパソコン 2 台のバッテリー交換等修理を行った。

ウ. 委員会等職員派遣

県や市町村などからの依頼に応じて学芸員を派遣している。令和 4 年度の派遣回数は 57 回であった。

表 5.(5)-2 委員会等職員派遣

	月 日	委 嘱 元	委員会等名称	内 容	派遣職員
1	4 月 7 日	岩手県教育委員会	社会教育主事会議	同左 令和 4 年度 第 1 回	金子 昭彦
2	5 月 12 日	青森県環境生活部環境保全課	青森県環境影響評価審査会	風力発電 1 件の審査	高橋 雅雄
3	5 月 20 日	岩手県環境生活部環境生活企画室	岩手県環境審議会	同左 第 49 回	鈴木まほろ
4	6 月 1 日	岩手県環境生活部自然保護課	いわてレッドデータブック改訂検討委員会専門部会	同左 令和 4 年度第 1 回	鈴木まほろ 渡辺 修二 高橋 雅雄
5	6 月 3 日	八幡平市博物館	八幡平市博物館協議会	同左 令和 4 年度事業内容等	木戸口俊子
6	6 月 14 日	岩手県環境生活部環境保全課	県環境影響評価技術審査会	同左 第 94 回	鈴木まほろ
7	6 月 17 日	沿岸広域振興局大船渡土木センター	大船渡地区公共事業等に係る希少野生動植物調査検討委員会	橋梁架替工事に先立つ希少植物の確認調査	鈴木まほろ
8	6 月 20 日	釜石市文化・スポーツ課	—	三浦命助関係資料の調査	川向富貴子
9	6 月 22 日	岩手県教育委員会	教育振興運動推進幹事会	学校づくり推進フォーラム	木戸口俊子
10	7 月 5 日	岩手県環境生活部環境保全課	県環境影響評価技術審査会	同左 第 95 回	鈴木まほろ
11	7 月 6 日	大船渡市教育委員会	大船渡市文化財審議会	今年度事業報告・次年度事業計画・文化財の保存活用に関する協議	近藤 良子
12	7 月 7 日	盛岡市先人記念館	盛岡市先人記念館協議会	同左 令和 4 年度第 1 回	工藤 健
13	7 月 8 日	盛岡市子ども科学館	盛岡市子ども科学館協議会	同左 令和 4 年度第 1 回	高木 晃
14	7 月 12 日	宮古市北上山地民俗資料館	宮古市北上山地民俗資料館運営委員会	昨年度事業実施報告・今年度事業計画	木戸口俊子
15	7 月 20 日	北上市都市整備部道路環境課	北上地区公共事業等に係る希少野生動植物保護検討委員	公共工事に先立つ希少植物の確認調査	鈴木まほろ
16	7 月 26 日	岩手県環境生活部環境保全課	県環境影響評価技術審査会	同左 第 96 回	鈴木まほろ

	月 日	委 嘱 元	委員会等名称	内 容	派遣職員
17	7月28日	岩手県環境生活部自然保護課	岩手県環境審議会自然・鳥獣部会	同左 令和4年度第1回	鈴木まほろ
18	7月29日	北上市教育委員会	国指定史跡八天遺跡保存活用計画等策定委員会	史跡の植物相調査(第1回)	鈴木まほろ
19	8月16日	沿岸広域振興局大船渡土木センター	大船渡地区公共事業等に係る希少野生動植物調査検討委員会	公共工事に先立つ希少植物の確認調査	鈴木まほろ
20	8月16日	沿岸広域振興局大船渡土木センター	大船渡地区公共事業等に係る希少野生動植物調査検討委員会	同左 令和4年度第1回	鈴木まほろ
21	9月21日	岩手県環境生活部環境生活企画室	岩手県環境審議会	同左 第50回	鈴木まほろ
22	9月28日	沿岸広域振興局大船渡土木センター	大船渡地区公共事業等に係る希少野生動植物調査検討委員会	公共工事に先立つ希少植物の確認調査	鈴木まほろ
23	9月29日	岩手県環境生活部環境保全課	県環境影響評価技術審査会	同左 第97回	鈴木まほろ
24	10月3日	県南広域振興局北上土木センター	北上地区公共事業等に係る希少野生動植物保護検討委員	河川改修工事に先立つ希少種の確認調査	鈴木まほろ
25	10月25日	北上市教育委員会	国指定史跡八天遺跡保存活用計画等策定委員会	史跡の植物相調査(第2回)	鈴木まほろ
26	11月7日	岩手県環境生活部環境保全課	県環境影響評価技術審査会	同左 第98回	鈴木まほろ
27	11月9日	盛岡市都市整備部公園みどり課	第1回高松公園環境保全協議会	高松公園芝水園の環境保全の方向性の検討	高橋 雅雄
28	11月16日	東北農政局和賀中央農業水利事務所	和賀中央地区環境配慮検討委員会	同左	渡辺 修二
29	11月18日	高教研理科部会生物部会	生物教材研究委員会	同左 令和4年度第1回	渡辺 修二
30	12月5日	高教研理科部会	岩手県高等学校理科研究発表会審査員	事前審査	渡辺 修二
31	12月13日	高教研理科部会	岩手県高等学校理科研究発表会審査員	岩手県高等学校理科研究発表会	渡辺 修二
32	12月20日	北上市教育委員会	国指定史跡八天遺跡保存活用計画等策定委員会	同左 第8回	鈴木まほろ
33	12月22日	金ケ崎町生活環境課	生物多様性かねがさき地域戦略推進協議会	同左 令和4年度	鈴木まほろ
34	1月20日	滝沢市教育委員会	滝沢市文化財調査委員会	同左 令和4年度	渡辺 修二
35	1月24日	岩手県環境生活部自然保護課	県希少野生動植物保護検討委員会	同左 令和4年度	鈴木まほろ
36	1月24日	岩手県環境生活部自然保護課	いわてレッドデータブック改訂検討委員会	同左 令和4年度	鈴木まほろ 渡辺 修二 高橋 雅雄
37	1月24日	岩手県環境生活部自然保護課	いわてレッドデータブック改訂検討委員会専門部会	同左 令和4年度第2回	鈴木まほろ 渡辺 修二 高橋 雅雄
38	1月25日	岩手県教育委員会	令和4年度津波石碑調査検討委員会	津波関連石碑の保存活用に関する協議	目時 和哉
39	1月27日	岩手県環境生活部環境保全課	県環境影響評価技術審査会	同左 第99回	鈴木まほろ
40	2月3日	岩手県環境生活部自然保護課	早池峰地域保全対策事業推進協議会シカ対策部会	早池峰山周辺地域のシカ対策に関する協議	鈴木まほろ
41	2月6日	岩手県教育委員会	教育振興運動推進幹事会	今年度事業報告・次年度事業計画	木戸口俊子

	月 日	委 嘱 元	委員会等名称	内 容	派遣職員
42	2月10日	岩手県環境生活部環境生活企画室	岩手県環境審議会	同左 第52回	鈴木まほろ
43	2月15日	八幡平市博物館	八幡平市博物館協議会	今年度事業報告・次年度事業計画	木戸口俊子
44	2月17日	東北森林管理局	早池峰山周辺地域ニホンジカ生息状況等調査検討委員会	同左 令和4年度	鈴木まほろ
45	2月20日	高教研理科部会生物部会	生物教材研究委員会	同左 令和4年度第2回	渡辺 修二
46	2月20日	青森県農林水産部水産局水産振興課	青森県カワウ対策協議会	同左 令和4年度	高橋 雅雄
47	2月20日	青森県内水面漁業協同組合連合会	青森県カワウ被害防除対策研修会	青森県におけるカワウの生態と被害防除対策の考え方	高橋 雅雄
48	2月21日	釜石市教育委員会	釜石市橋野高炉跡史跡整備検討委員会	今年度事業報告・次年度事業計画	丸山 浩治
49	2月24日	釜石市文化・スポーツ課	釜石市文化財保存活用地域計画協議会	釜石市の文化財保存活用地域計画等	川向富貴子
50	2月28日	県南広域振興局北上農村整備センター	北上地区公共事業等に係る希少野生動植物保護検討委員	同左 令和4年度	鈴木まほろ
51	3月1日	盛岡市先人記念館	盛岡市先人記念館協議会	同左 令和4年度第2回	工藤 健
52	3月10日	北上市教育委員会	国指定史跡八天遺跡保存活用計画等策定委員会	同左 第9回	鈴木まほろ
53	3月10日	盛岡市子ども科学館	盛岡市子ども科学館協議会	同左 令和4年度第2回	高木 晃
54	3月20日	花巻市教育委員会	石鳩岡神楽・土沢神楽国庫補助調査事業	国記録作成等の措置を講ずべき無形民俗文化財「石鳩岡神楽・土沢神楽」会議	川向富貴子
55	3月22日	岩手県環境生活部環境保全課	県環境影響評価技術審査会	同左 第100回	鈴木まほろ 高橋 雅雄
56	3月27日	沿岸広域振興局大船渡土木センター住田整備事務所	大船渡地区公共事業等に係る希少野生動植物調査検討委員会	公共工事に先立つ希少植物の確認調査	鈴木まほろ
57	3月30日	青森県環境生活部環境保全課	青森県環境影響評価審査会	風力発電1件の審査	高橋 雅雄

エ. 外部助成

○研究助成

今年度2件の助成を受けた他、令和2年に採択された科学研究費助成事業1件が令和5年度まで継続中である。

表5.(5)-2 令和4年度外部助成金採択状況

	氏 名	部門	関連事業・研究テーマ名等	助成の名称	金額	申請先
1	高橋 雅雄	生物	湿性草原の生物多様性保全における耕作放棄地の生態的価値：越冬鳥類を指標とした評価	科学研究費助成事業	429万円 (R3年度117万円)	独立行政法人日本学術振興会
2	高橋 雅雄	生物	令和4年度テーマ展「水辺の生きもの」の開催	全国科学博物館活動等助成	40万円	一般財団法人 全国科学博物館振興財団
3	高橋 雅雄	生物	三陸沿岸における絶滅危惧種オセッカの渡り中継地の特定	三陸ジオパーク学術研究助成金	26万円	三陸ジオパーク推進協議会

オ. 連携協定

三陸地域の活性化と持続的な発展に寄与することを目的とし、三陸ジオパーク推進協議会と連携協力していく事業を推進するための協定を締結した（令和4年12月15日、宮古市イーストピアみやこ）。

連携・協力事業は次のとおりである。

- (ア) 三陸の地域社会のつながりに関する文化・歴史の学術研究（取組）に関すること
- (イ) 三陸地域の生物に関する学術研究（取組）に関すること
- (ウ) 三陸地域の地形・地質等地球化学分野の学術研究（取組）に関すること
- (エ) その他、教育、情報発信など本協定の目的に沿うと認められる事業



図5.(5)-1 協定締結式の様子

(6) 新型コロナウイルスへの対応について

新型コロナウイルス感染症の流行拡大に対応し、令和2年度から当館ではさまざまな感染拡大防止策を講じてきた。

〈入館者への対応〉



図5.(6)-1 博物館入口付近の様子

前年度に引き続き博物館入口（総合受付前）での手指消毒、サーモグラフィーによる検温とマスクの着用及び連絡先提出を入館者へお願いした。

その後、10月から連絡先提出の呼びかけを休止した（岩手県の飲食店新型コロナ感染対策認証基準のうち、県が独自に求めている項目である「来店者名簿の作成」について、疫学調査の状況等に鑑み、事業者や店舗利用者の負担軽減を図るため、9月16日から当該項目の実施が必要と判断されるまでの当面の間、その運用を休止した措置に準じる）。

また、国が決定した「マスク着用の考え方の見直し等について」に基づき、令和5年3月13日からはマスクの着用について個人の主体的な選択を尊重する対応に改めた。

〈各種展示室での対応〉

総合展示室や特別展示室の入口、ハンズオン展示（イヌワシのたまご）設置箇所や地形模型付近に手指消毒用アルコールを設置した。

来館者が直接触れるような場所（タッチパネルやタブレット、ボタン型スイッチ、ハンズオンなど）は解説員が随時消毒を行った。

団体の受け入れは上限 100 名、解説員による団体解説付きの見学は上限を 30 名程度（学校団体の場合は 1 クラス）までとし、30 分以内の解説時間と定め対応した。

〈体験学習室の対応〉



図 5.(6)-2 体験学習室入口付近の様子

同時の利用人数の上限を 15 名程度とし、団体での利用は不可とした。6 月からは上限 15 名の範囲内であれば団体利用も可とした。

令和 2 年度から土日祝日と県内小中学校の長期休業期間中に限り閉室としていたが、感染状況が低水準に抑制されつつあった令和 3 年 11 月には土曜の開室を、12 月には日祝日の開室も再開した。しかし、令和 4 年 1 月 23 日に岩手緊急事態宣言が発出されたことにより、再び平日のみの開室に戻した。令和 4 年 6 月より土日祝日及び県内小学校の長期休業期間は 60 分ごとの入れ替え制（1 日 4 回）で開室している。

その他、令和 2 年度からハンズオン資料の一部を撤収し消毒作業の徹底を図っているが、令和 4 年度も取り組みを継続した。主な消毒方法として、おもちゃ等はアルコール、身につけるコーナーの布製品は除菌剤を用いている。

〈映像室の対応〉

令和 2 年度から定員の上限を 20 名（収容人数 50 名）とし、換気と消毒作業のため 1 日 3 回（10:10、13:10、15:10）の定時上映とした。

感染が抑制されてきた令和 3 年 11 月には 1 日 5 回に上映を増やしたが、翌年 1 月の岩手緊急事態宣言を機に 3 回上映に戻し現在に至る。



図 5.(6)-3 映像室内の様子

〈その他の施設利用について〉

受付およびミュージアムショップカウンター、サービスコーナーに透明シートまたはアクリル板を設置した。

館内の来館者が直接触れるような場所（記念スタンプコーナー、連絡先記入用机など）は随時消毒を行った。また、貸し出し用の車椅子やベビーカー、手押し車、老眼鏡、VR、視聴用器具、筆記具、クリップボードなども使用後に消毒を行った。

各階トイレ前などに手指用アルコールを設置し、常時利用できるようにした。

飲食可能空間である喫茶「ひだまり」では、手指消毒用アルコール設置をはじめ、机の配置の変更やアクリル板の設置などを行った。



図 5.(6)-4 ひだまり内の様子

〈イベント〉

岩手県文化振興事業団自主事業として計画していた下記の集客イベントを中止した。

- ・例年5月 ゴールデンウィークスペシャルイベント
- ・例年10月 博物館まつり
- ・例年10月 ヒストリックカー&クラシックカーミーティング in 岩手県立博物館

博物館まつりは9月中旬に開催困難と判断し中止を決定。

代替事業として屋外で実施する小規模イベントを行うこととし、博物館近隣の教育機関と公式 HP 及び SNS に限定して広報した。

当館講堂（収容人数 140 名）で開催する講演会や鑑賞会は定員の上限を 50 名程度とした。秋冬開催の考古学セミナー（講演会）やミュージアムコンサートに関しては事前申込による参加受付とし、参加者を事前調整した。冬開催の北上川水源地域セミナー（北上川ダム統合管理事務所共催）は中止となった。しかし、秋の文化講演会と特別講演会は入館者数が見込めるため例外的に定員の上限を撤廃し当日受付で対応した。

狭小な展示室などで実施するイベント（展覧会展示解説会、県博バックヤードツアー、ワクワク！子どもツアー、ナイトミュージアム）も前年度と同様に厳しく人数制限を行い、密な環境とならないように人員整理要員を配し参加者の誘導を行った。

現地見学会（自然観察会、地質観察会）は前年度と同様に感染状況を見ながら限定的に広報し、募集人数も例年より減らすなどの措置を講じて実施した。

また、たいけん教室及び冬のワクワク！ワークショップも前年度と同様に人数制限を行い実施した。特に、コロナ禍以前のたいけん教室は毎回 50 名前後（子ども 20～30 名と付き添いの保護者）が参加していたが、感染リスク軽減のため定員を 5～10 名に減じた。また、会場に飛沫防止パーティションを設置したり、参加者ごとに消毒液を配布したりした。プログラム内容も指導を担当する解説員と参加者が適切な距離を保てるように対策を講じている。

上記のように、種々の感染拡大防止策を講じながら事業の運営にあたり、幸いにも当館の利用に起因する入館者・利用者の感染はこれまで報告されていないが、新型コロナウイルス感染症に対する効果的な感染防止策と博物館事業実施の両立を図るべく検討を重ねているところである。

6 被災文化財等再生活動

(1) はじめに

2011年3月11日に発災した東日本大震災によって、東日本太平洋沿岸部に在った膨大な数の文化財、自然史標本、その関連資料等が被災した。当館ではこの未曾有の大規模自然災害発生を受け、2011年4月2日以降、岩手県太平洋沿岸部で被災した様々な資料の救出とその再生に取り組んできた。救出された資料は概ね50万点にのぼり、そのうち約46万点は本県内で最も被害の大きかった陸前高田市の所管資料である。

当館に搬入された被災資料のうち、宮古市、山田町、大槌町、釜石市、大船渡市の5市町の資料については2019年度末で措置を完了した。しかし、陸前高田市所管資料はおよそ35%が安定化処理未了の状態であり、その処理を日々進めている。

(2) これまでと現在

救出された資料を再生するには、津波によってもたらされた砂や泥、その後に発生したカビや、塩分など目視では確認困難な資料劣化誘因物質を除去し、資料を長期にわたり安定的に保管できる状態にする安定化処理が不可欠である。そこで当館では、全国の博物館、大学、文化財科学の研究者等と連携しながら試行錯誤を重ね、その安定化処理方法の構築に努めてきた。



図 6.(2)-1 真空凍結乾燥



図 6.(2)-2 資料の状態確認



図 6.(2)-3 中性洗剤による洗浄



図 6.(2)-4 機械による和紙資料の滌きばめ

2015年までの安定化処理は除泥と脱塩、除菌を目的とした内容であったが、処理を終えて経過観察していた紙製資料と民俗資料の一部に異臭や変色等の異常が確認された。その原因と対処法を東京文化財研究所の指導の下で共同調査・検討した結果、ヘドロ由来のタンパク質や脂質が微生物の繁殖に起因している可能性が指摘され、この改善策として新たに医療用中性洗剤を用いたタンパク質や脂質の洗浄・除去工程を2016年度より加えることとなった。これ以降、同様の異常発生は確認されていない。しかし、中性洗剤の使用はその残留を防ぐための十分なすすぎ工程が不可欠であり、場合によっては資料に負担をかけることに繋がる。よって、中性洗剤の使用量は極力少ないほうがよい。同工程導入当初は中性洗剤濃度0.5%を基本としてきたが、2019年度末に再度の共同調査を行い、2020年度からは0.3%に減じて洗浄作業を実施している。これによる不具合は現在までのところ確認されていない。

2022年度に当館で実施した安定化処理及び修理は、表6に示すとおりである。

表6 2022年度の安定化処理及び修理の実施状況

	件名	件数
1	被災紙製資料安定化処理及び修理業務	1
2	被災鳥羽源蔵コレクション安定化処理及び修理業務	1
3	被災民俗資料安定化処理業務	1
4	被災自然史関連資料修理業務	1

(3) 今後の課題

発災から12年が経過した現在も、陸前高田市の津波被災資料は未処理のものが相当数残されている。また、安定化処理を施した資料であっても、津波で被災した資料の再生は国際的に未経験であるため、保管の過程で状態に変化が生じないかどうかを当分の間注意深く経過観察する必要がある。課題は依然として多く、被災文化財等の再生活動には今後も長期的な対応が求められる。

一方で、東日本大震災以降も台風や集中豪雨による水害が多発しており、これにより文化財等が水損する被害が全国各地で発生している。

当館では、これまで被災資料再生に従事してきた専門機関との連携を今後も図りつつ、残された資料の再生を進めるとともに、今後も起こり得る大規模自然災害に対する備えの啓発と2次レスキューへの協力、被災資料を安全に処理しうる汎用的な方法の構築にさらに取り組んでいきたいと考えている。皆様には引き続き御支援をお願いしたい。

7 「東北発 博物館・文化財等防災力向上プロジェクト」 事業について

(1) はじめに

岩手県立博物館では、平成26年（2014）より、東日本大震災被災地における被災した博物館・文化財等の再生に向けた取組を支援するとともに、その過程で得られた被災文化財等再生のノウハウを、今後発生が懸念される大規模自然災害に備えて、国内外と共有することを目的として「津波により被災した文化財の保存修復技術の構築と専門機関の連携に関するプロジェクト」（通称「大津波プロジェクト」。以下この通称で略記する。）を立ち上げ、文化庁による助成金も活用しながら、全国各地での展覧会やワークショップ等の活動を継続してきた。

令和4年度には文化庁によって新たに用意されたInnovate MUSEUM事業の助成を受け、約10年にわたる「大津波プロジェクト」の取組を発展的に継承して、東日本大震災を経験した東北から国内の博物館・文化財等防災力の底上げをはかることを目的とした「東北発 博物館・文化財等防災力向上プロジェクト」を企画・実施した。

本章では当該プロジェクトの事業成果の概略について、以下報告する。

(2) 事業別成果報告

ア. 博物館を核とした自然災害被災地の文化復興モデル構築事業

(ア) 市民参加型吉田家文書データベース整備活動

a. データベースシステムの構築

岩手県の東日本大震災津波被災地における体系的な歴史資料として稀有な存在である岩手県指定文化財「吉田家文書」について、今後被災地の文化・観光振興に活用できるよう、全152件（流失資料画像を含む）、30000枚以上の資料画像を搭載したデータベースを構築した。令和7年に復旧作業完了を予定している旧吉田家住宅主屋内を含め、陸前高田市内での公開・活用を予定している。当該データベースの活用により進展した読解の成果を容易にフィードバックできる仕様となっており、将来的に被災前後の画像を、翻刻文、読み下し文や解説などと相互参照しながら閲覧することが可能となる。

b. 吉田家文書解読会

データベースに搭載する翻刻文作成のため、岩手県盛岡市・陸前高田市の市民有志のべ250人・日以上の参画を得て解読作業を進めた。更に吉田家文書に対する市民の興味を喚起するため、陸前高田市立博物館による教育普及事業の一環として市民向け講座を実施、40名の参加を集めた。いずれも令和5年度以降も継続し、その成果についてはデータベースのコンテンツとしてフィードバックする。



図 7.(2)-1 データベース閲覧画面



図 7.(2)-2 旧吉田家住宅主屋空撮映像

(イ) 旧吉田家住宅主屋復旧・活用推進活動

東日本大震災によりかつての街並みが完全に失われた土地に復旧が進められ、今後地域の歴史・文化のシンボルとして文化・観光振興上の拠点となることが見込まれる岩手県指定文化財旧吉田家住宅主屋について、陸前高田市教育委員会が文化財防災センターの監修を受けながら、被災から再生までの過程をつぶさに記録する映像作品を制作した。復旧作業の中で駆使されている地域の伝統的な大工・左官技術や、被災した有形文化財復旧の過程の保存を可能にするとともに、現在進行中の復旧作業のファンドレイズも視野に入れ、市内外に情報発信を行うためのツールとしての活用も期待される。

イ. 東北地区博物館・文化財等防災マップ整備事業

(ア) 博物館・文化財等防災マップ整備活動

a. 文化遺産防災マップ運用研修会

地域連携による文化遺産防災体制整備のため、東北大学災害科学国際研究所、文化財防災センターから講師の派遣を受け、岩手県の文化財防災関係者を対象として、現在の文化遺産防災上の課題と、その解決に向けた最新の実践例を学び合う研修会を開催した。岩手県及び市町村の文化財行政担当職員等60名の参加を得ることができ、後述する岩手県版文化遺産防災マップ制作に直接協力を求める機会とした。



図 7.(2)-3 防災マップ運用研修会



図 7.(2)-4 岩手県版文化遺産防災マップサンプル画面

b. 東北地区博物館防災研修会

東日本大震災を経験した東北地方において、博物館・文化財等の被災と再生の経験を共有し、防災力を向上させることを目的として、東北地方の博物館関係者が同様のテーマについて定期的に情

報や意見を交換する機会を設けるべく「東北地区博物館防災研修会」を立ち上げた。日本博物館協会東北支部総会という既存の枠組みを活用し、それと連動して開催することにより、無理なく継続可能な体制をととのえた。今回は令和6年度の岩手会場において第二回を実施予定であり、今後継続実施する中で恒常化をはかる。

c. 防災マップ制作

東北大学災害科学国際研究所蝦名裕一氏の先駆的な実践に学びながら、岩手県内の国・県・市町村指定文化財及び博物館・資料館等文化財保管施設の8割強の正確な位置情報と、津波、土砂・洪水災害、火山噴火等の各種ハザード情報とを重ねて表示可能なオンラインマップを制作した。各種文化財の位置情報については、岩手県及び県内各市町村の文化財行政担当者の協力により提供を受けたものであり、一連の取組を通じて、市町村の枠組みを超えて共同で県内の文化遺産防災に取り組むという機運の醸成に貢献することができた。なお、取組の成果については、東北大学災害科学国際研究所、奈良文化財研究所、文化財防災センター主催のシンポジウムにおける報告を通して広範な普及に努めた。

ウ. 博物館・文化財等の防災力向上に向けた共同情報発信事業



図 7.(2)-5 名古屋市博物館における展覧会



図 7.(2)-6 オンラインツアー映像

(ア) 展覧会を通じた情報発信活動

大規模自然災害で被災した文化財等の再生に取り組んでいる、川崎市市民ミュージアム、長野市立博物館、陸前高田市立博物館の3館が共同で展覧会を通じた情報発信を行った。会場は陸前高田市立博物館と友好館の協定を結んでいる名古屋市博物館から提供を受け、今後同様の大規模震災発生が予見されている東海地方にお住まいの方881名に、東日本大震災や令和元年東日本台風被災地の現状と、博物館や文化財等の防災の必要性について伝えることができた。また、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、これまで対面での交流が果たせずにいた3館の職員が、展覧会の準備や、関連事業としての展示解説会の実施を通して直接情報交換を行い、連携を強化する機会ともなった。

(イ) オンラインツアーを通じた情報発信活動

同じ東日本大震災被災地に所在し、近年相次いで開館した石巻市博物館、とみおかアーカイブ・ミュージアム、陸前高田市立博物館という3つの文化施設が共同で情報発信を行うことによる被災地の文化施設間のネットワーク強化と、相乗的な人流形成を目指し、ツールとしてのデジタルコンテンツ開発に取り組んだ。学芸員の案内の下でそれぞれの施設の館内見学を体験できるような映

像作品と合わせて、各施設の理解を深めるためのパンフレットを制作し、次項で紹介する当プロジェクトの専用サイト上で無償提供を開始した。成果物については当プロジェクトの共有財として、各施設が今後の活動の中で自由に使用できるものとしている。

【石巻市博物館】 <https://www.youtube.com/watch?v=j1qVwEkIxXE>

【とみおかアーカイブ・ミュージアム】 <https://www.youtube.com/watch?v=j1qVwEkIxXE>

【陸前高田市立博物館】 <https://www.youtube.com/watch?v=pn-ZljwYrU4>

(ウ) 情報発信プラットフォーム整備活動

今後中～長期的に博物館・文化財等防災に関する情報を発信していくためのプラットフォームとして当プロジェクトの専用サイトを整備した。上記オンラインツアー用コンテンツや、文化遺産防災マップへの入り口のほか、支援に関する情報、東日本大震災以降に公開された被災文化財等再生に関する参考文献や関連動画等、一元的な情報発信と容易な更新が可能となっている。令和5年度以降もコンテンツの充実や、最新情報の発信など、一層の活用に向けていく。

【東北発 博物館・文化財等防災力向上プロジェクト専用サイト】

<https://iwapmus.jp/bousai/>

※右のQRコードをスマートフォン等で読み取ることでアクセスできます。



(3) 今後の展望

発災から十余年を経て、東日本大震災被災地のみならず、当館をはじめとする「大津波プロジェクト」構成機関が置かれた状況にも変化が生じている。また、その間にも全国各地で大規模自然災害は続発しており、博物館や文化財等を取り巻く課題もまた刻々と更新されている。現状に柔軟に対応できるよう、「大津波プロジェクト」発足以来10年間にわたり積み上げてきた成果に立脚しつつも、既存の形にとらわれ過ぎることなく、東日本大震災という経験を真に糧として、新しい博物館や、文化財等防災のあり方を創造できるような実践を、次年度以降も継続していきたい。

8 岩手県立博物館友の会

(1) 概要

本年度は、コロナ禍の中、様々な制約があったが、「自然観察会」や「地質観察会」「話のサロン（講演会）」など多彩な事業を実施した。賛助会員、高齢会員の退会などがあり、会員数は減少傾向にあるが、小中高会員、40歳代～60歳代の新規会員も少数ではあるが入会している。また、団体会員、賛助会員の増員を今後も望むところである。

友の会活動は博物館の支援と生涯学習の場としても期待されており、事業内容の厳選と更なる充実が求められている。

(2) 会員数

令和4年度会員数	合計	189件	336人	(令和3年度 212件・378人)
一般会員	117件・117人		(令和3年度 133人)	
家族会員	54件・173人		(令和3年度 61件・202人)	
小中高会員	0人		(令和3年度 1人)	
終身会員	21人		(令和3年度 25人)	
賛助会員	12件・20口		(令和3年度 12件・20口)	
団体会員	5件・5人		(令和3年度 5件)	

(3) 主催事業

ア. 現地見学会

計画せず

イ. 野外観察会

(ア) 第1回「自然観察会」 博物館行事に参加

「湿地の生き物を観察しよう」

5月29日(日) 参加者22名

講師 岩手県立博物館学芸職員

(イ) 第1回「地質観察会」 博物館行事に参加

「北上市西部、地層は続くよ～竜の口層貝類化石をもとに～」

7月3日(日) 参加者25名

講師 岩手県立博物館研究協力員 大石 雅之 氏

(ウ) 第2回「地質観察会」 博物館行事に参加
「陸前高田市の玉山金山を歩く」
10月30日(日) 参加者30名
講師 紫波町文化財調査委員 蒲田 理氏

(エ) 第2回「自然観察会」 博物館行事に参加
「ハクチョウとカモ類を観察しよう」
11月23日(日) 参加者19人
講師 岩手県立博物館専門学芸調査員 高橋 雅雄

ウ. 話のサロン (講演会)

- (ア) 第1回「岩手山の江戸時代の噴火ー古文書と火山灰から復元する」その3
5月21日(土) 参加者25人
講師 岩手大学地域防災センター客員教授 土井 宣夫氏
- (イ) 第2回「赤い土器から探る東北北部の古代人の動向」(県博日曜講座)
7月24日(日) 参加者48人
講師 岩手県立博物館主任専門学芸員 米田 寛
- (ウ) 第3回「本州産のクマゲラの生態等」
令和4年2月18日(土) 参加者58人
講師 NPO 法人本州産クマゲラ研究会理事長 藤井 忠志氏

エ. 会報発行等

- (ア) 「友の会会報」発行(A4版8頁、300部)
年3回(No.124~126)発行(4,9,2の各月)
- (イ) 「友の会通信」発行(A4版両面刷り2頁、300部)
年1回(No.128)発行(7月)
- (ウ) 「岩手県立博物館だより」発送
年4回発送(No.173~176)(6,9,12,3の各月)
- (エ) 「岩手県立博物館行事案内」発送
年2回(4,9各月)

※県博の行事等の案内、要項を年8回開催の友の会企画委員会で随時発送。

オ. 博物館事業への協力

県博日曜講座の一部と博物館行事への参加。

9 博物館利用者入館状況

開館以来の入館者数（総利用人数）

年度	総利用人数				開館 日数	1日平均 利用人員
	一般	高・学生	小中学生	計		
昭55	95,469	6,563	22,960	124,992	146	856
昭56	145,756	10,908	50,621	207,285	298	696
昭57	106,400	8,673	44,210	159,283	297	536
昭58	87,531	8,903	34,405	130,839	298	439
昭59	81,247	8,451	36,357	126,055	299	422
昭60	78,701	10,825	36,703	126,229	297	425
昭61	69,226	9,765	37,551	116,542	298	391
昭62	65,570	9,500	40,731	115,801	299	387
昭63	58,908	9,526	36,922	105,356	296	356
平元	56,379	11,139	37,960	105,478	297	355
平2	65,021	11,049	34,432	110,502	299	370
平3	60,880	11,917	30,926	103,723	298	348
平4	55,309	10,793	28,354	94,456	298	317
平5	98,842	9,995	32,034	140,871	298	473
平6	42,164	6,246	19,460	67,870	297	229
平7	52,296	5,546	19,038	76,880	298	258
平8	44,719	4,855	16,773	66,347	297	223
平9	34,682	4,123	14,435	53,240	289	184
平10	43,966	4,980	12,669	61,615	298	207
平11	26,762	4,576	9,997	41,335	298	139
平12	24,315	3,624	12,175	40,114	297	135
平13	24,436	2,780	11,709	38,925	300	130
平14	28,859	2,219	12,281	43,359	297	146
平15	23,742	1,852	11,741	37,335	298	125
平16	27,149	1,337	10,099	38,585	297	130
平17	39,795	2,090	12,081	53,966	299	180
平18	23,947	1,644	12,649	38,240	303	126
平19	24,473	1,515	13,221	39,209	304	129
平20	25,341	837	14,905	41,083	302	136
平21	25,010	1,279	15,051	41,340	300	138
平22	23,510	1,293	11,276	36,079	292	124
平23	16,021	1,018	13,604	30,643	301	102
平24	21,069	1,027	15,309	37,405	302	124
平25	25,006	960	18,244	44,210	303	146
平26	19,181	1,227	12,438	32,846	303	108
平27	24,048	1,605	14,605	40,258	302	133
平28	26,620	1,417	16,931	44,968	304	148
平29	31,074	1,631	17,614	50,319	303	166
平30	27,889	1,419	18,575	47,883	304	158
令元	27,743	1,399	18,097	47,239	303	156
令2	12,384	1,014	9,101	22,499	291	77
令3	16,292	1,091	10,909	28,292	282	100
令4	18,868	1,110	11,639	31,617	302	105
総計	1,926,600	203,721	910,792	3,041,113	12,684	-
平均	44,805	4,738	211,181	70,724	295	240

※ 令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で4/25から5/6まで臨時休館
令和3年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で8/16から9/17まで臨時休館

令和4年度月別入館者数

区分 月	総利用人数				開館日数	1日平均 利用人員
	一般	高・学生	小中学生	計		
4	1,140	63	550	1,753	26	67.4
5	2,174	91	1,043	3,308	26	127.2
6	1,373	40	1,162	2,575	26	99.0
7	2,022	122	1,242	3,386	27	125.4
8	2,797	219	1,767	4,783	29	164.9
9	1,234	64	979	2,277	17	133.9
10	1,622	122	1,083	2,827	26	108.7
11	1,671	66	882	2,619	26	100.7
12	723	52	408	1,183	24	49.3
1	1,152	43	655	1,850	24	77.1
2	1,143	57	934	2,134	24	88.9
3	1,817	171	934	2,922	27	108.2
計	18,868	1,110	11,639	31,617	302	104.7

開館以来の入館者数（利用区分別）

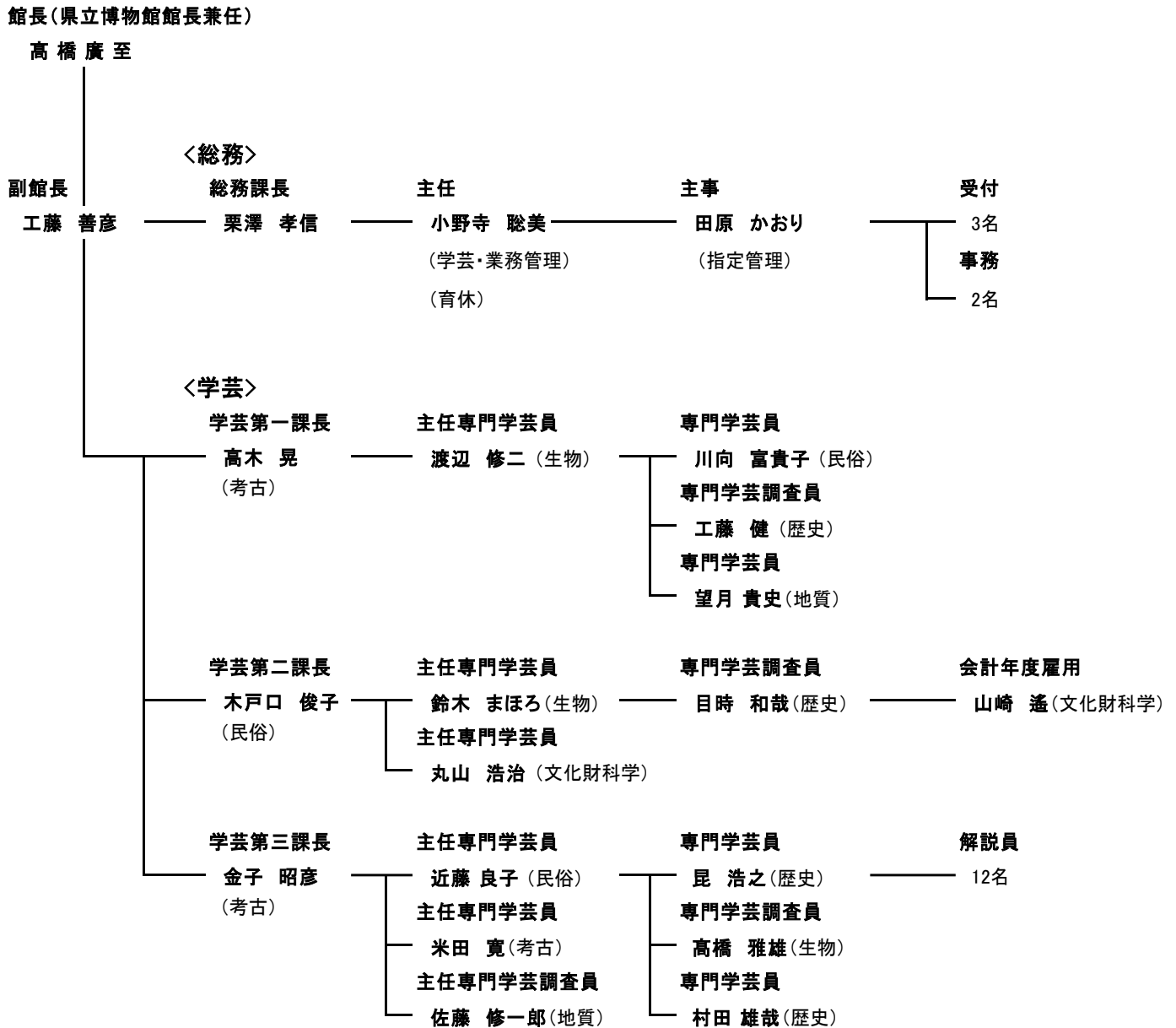
区分 年度	個人利用				団体利用				免除利用			
	一般	高・学生	小中学生	計	一般	高・学生	小中学生	計	一般	高・学生	小中学生	計
昭55	69,259	4,275	16,657	90,191	24,506	465	2,036	27,007	1,704	1,823	4,267	7,794
昭56	87,659	5,233	21,762	114,654	54,724	637	4,458	59,819	3,373	5,038	24,401	32,812
昭57	66,727	3,275	16,722	86,724	35,538	648	3,498	39,684	4,135	4,750	23,990	32,875
昭58	51,058	2,348	11,723	65,129	33,072	775	2,743	36,590	3,401	5,780	19,939	29,120
昭59	48,286	2,195	11,338	61,819	28,982	635	2,378	31,995	3,979	5,621	22,641	32,241
昭60	46,054	2,137	10,007	58,198	29,308	411	2,104	31,823	3,339	8,277	24,592	36,208
昭61	39,516	1,911	8,830	50,257	25,888	445	2,010	28,343	3,822	7,409	26,711	37,942
昭62	39,761	1,803	8,647	50,211	22,645	339	1,860	24,844	3,164	7,358	30,224	40,746
昭63	37,362	1,910	8,018	47,290	18,817	551	2,155	21,523	2,729	7,065	26,749	36,543
平元	34,617	1,866	7,386	43,869	18,465	208	1,224	19,897	3,297	9,065	29,350	41,712
平2	38,272	2,034	8,334	48,640	21,014	827	1,046	22,887	5,735	8,188	25,052	38,975
平3	35,073	1,851	6,993	43,917	18,810	1,026	2,031	21,867	6,997	9,040	21,902	37,939
平4	33,581	1,743	6,735	42,059	15,239	1,423	1,190	17,852	6,489	7,627	20,429	34,545
平5	36,726	2,018	8,406	47,150	10,300	844	1,197	12,341	51,816	7,133	22,431	81,380
平6	26,121	1,415	5,588	33,124	9,112	755	673	10,540	6,931	4,076	13,199	24,206
平7	30,654	1,768	5,980	38,402	9,193	947	610	10,750	12,449	2,831	12,448	27,728
平8	25,328	1,464	4,674	31,466	7,597	559	593	8,749	11,794	2,832	11,506	26,132
平9	21,204	1,463	4,277	26,944	4,955	314	483	5,752	8,523	2,346	9,675	20,544
平10	20,459	1,211	4,189	25,859	6,477	749	276	7,502	17,030	3,020	8,204	28,254
平11	15,532	928	4,055	20,515	4,808	207	292	5,307	6,422	3,441	5,650	15,513
平12	14,262	1,149	4,564	19,975	4,174	299	184	4,657	5,879	2,176	7,427	15,482
平13	12,301	833	3,548	16,682	6,491	42	213	6,746	5,644	1,905	7,948	15,497
平14	18,160	1,012	6,704	25,876	4,147	208	362	4,717	6,552	999	5,215	12,766
平15	13,957	676	5,335	19,968	2,660	60	348	3,068	7,125	1,116	6,058	14,299
平16	13,897	661	4,033	18,591	3,850	138	363	4,351	9,402	538	5,703	15,643
平17	26,603	1,164	6,935	34,702	3,417	128	218	3,763	9,775	798	4,928	15,501
平18	14,019	666	7,102	21,787	1,479	298	335	2,112	8,449	680	5,212	14,341
平19	14,436	622	7,226	22,284	1,739	119	381	2,239	8,298	774	5,614	14,686
平20	14,361	512	6,975	21,848	1,822	71	320	2,213	9,158	254	7,610	17,022

区分 年度	個人利用				団体利用				免除利用			
	一般	高・学生	小中学生	計	一般	高・学生	小中学生	計	一般	高・学生	小中学生	計
平21	12,914	547	7,055	20,516	1,516	82	374	1,972	10,580	650	7,622	18,852
平22	14,016	634	6,448	21,098	1,536	443	286	2,265	7,958	216	4,542	12,716
平23	8,833	374	6,135	15,342	830	110	806	1,746	6,358	534	6,663	13,555
平24	12,603	458	7,437	20,498	1,084	251	521	1,856	7,382	318	7,351	15,051
平25	14,799	532	9,106	24,437	1,169	230	638	2,037	9,038	198	8,500	17,736
平26	10,928	538	6,218	17,684	861	247	104	1,212	7,392	442	6,116	13,950
平27	15,213	716	8,190	24,119	880	130	228	1,238	7,955	759	6,187	14,901
平28	17,703	687	10,974	29,364	967	192	128	1,287	7,950	538	5,829	14,317
平29	20,101	945	10,266	31,312	1,213	281	333	1,827	9,760	405	7,015	17,180
平30	18,504	685	11,867	31,056	696	98	244	1,038	8,689	636	6,464	15,789
令元	17,592	805	10,244	28,641	578	29	157	764	9,573	565	7,696	17,834
令2	9,091	522	5,844	15,457	116	116	161	393	3,177	376	3,096	6,649
令3	11,975	679	7,408	20,062	176	42	16	234	4,141	370	3,485	7,996
令4	14,100	884	8,363	23,347	201	24	131	356	4,567	202	3,145	7,914
総計	1,143,617	59,149	348,298	1,551,064	441,052	16,403	39,708	497,163	341,931	128,169	522,786	992,886
平均	26,596	1,376	8,100	36,071	10,257	381	923	11,562	7,952	2,981	12,158	23,090

令和4年度月別入館者数（利用区分別）

区分 月	個人利用				団体利用				免除利用			
	一般	高・学生	小中学生	計	一般	高・学生	小中学生	計	一般	高・学生	小中学生	計
4	917	62	499	1,478	0	0	0	0	223	1	51	275
5	1,747	90	921	2,758	23	0	2	25	404	1	120	525
6	902	36	451	1,389	23	0	0	23	448	4	711	1,163
7	1,592	70	967	2,629	42	0	73	115	388	52	202	642
8	2,462	173	1,650	4,285	5	0	40	45	330	46	77	453
9	915	61	525	1,501	0	0	0	0	319	3	454	776
10	1,201	96	601	1,898	30	24	14	68	391	2	468	861
11	845	56	489	1,390	0	0	0	0	826	10	393	1,229
12	496	33	317	846	0	0	0	0	227	19	91	337
1	831	37	571	1,439	0	0	0	0	321	6	84	411
2	837	57	481	1,375	21	0	0	21	285	0	453	738
3	1,355	113	891	2,359	57	0	2	59	405	58	41	504
計	14,100	884	8,363	23,347	201	24	131	356	4,567	202	3,145	7,914

10 令和4年度公益財団法人岩手県文化振興事業団博物館組織



学芸部門職員の部門別人員

地質	考古	歴史 (古美術)	民俗	生物	文化財科学	計
2人	3人	4(1)人	3人	3人	2人	17人

1 1 岩手県立博物館使命書

(平成 20 年 3 月 25 日制定)

私たち岩手県立博物館は、岩手県が誇る豊かな自然史及び文化史に関する資料と情報を収集保管して、調査研究によりその資料価値を見出し、成果を展示や教育普及などの事業で公開する全県的な機関として、教育・学術・文化の振興・発展に大きく貢献してきました。

近年の地球環境保全に対する危機意識の高まり、急速に進む国際化及び生活様式の多様化といった社会情勢の変化の中で、県民の学習意欲に応える生涯学習中核機関として、より一層充実した役割を果たすことが期待されています。

このため、私たち岩手県立博物館は、5 億年にわたる大地、多様な生物相、縄文・平泉などの歴史の変遷、地域性豊かで多彩な民俗事象を背景とし、広大な岩手の地域的特性を活かしながら新たな価値の発見に努め、県民の要請に応じて県民とともに歩む博物館としての機能を強化し、新たな地域文化の創造を目指して博物館の使命を次のようにまとめました。

1 ユニークで多彩な資料の蓄積とその活用に基づく岩手の自然史・文化史の拠点

- (1) 岩手県及び関連する地域の自然や人間の営みの証拠となる資料と情報を継続的に収集・整理して適切に保管・管理し、県民共有の知的財産として次世代に確実に継承していきます。
- (2) 収集した自然史・文化史資料と情報について、自らの研究を通して岩手の地域的特性を明らかにするとともに、グローバルな視点に立って資料の価値を新たに見出します。
- (3) ユニークで多彩な質の高い資料とその情報を各種の事業によって公開・活用し、県民の知的欲求を刺激する場を提供します。

2 幅広い交流による知的活動への寄与と新たな地域文化の創造

- (1) さまざまな機関との資料の相互交流を進めながら、県民はもとより国内外に情報を発信し、自然環境や文化遺産の保全を支援して県民の知的活動に寄与することにより、岩手県の教育・学術・文化の振興・発展に貢献していきます。
- (2) 開かれた博物館として県民との積極的な交流を進めながら、自主的な学習の場を提供することにより、県民の生涯学習活動と次世代の育成のための学校教育活動を積極的に支援します。
- (3) 資料を公開・活用する各種の事業について県民の要請に応え、わかりやすく伝える方法を探り、ともに学び、楽しみを分かちあいながら、新たな地域文化の創造と発展に県民とともに取り組んでいきます。

3 社会から託された博物館の役割を実現するための基盤整備

- (1) 使命書に基づいて活動計画を立案し、実績を点検しながら、さらによりよい博物館活動を目指します。
- (2) 社会から託された博物館の役割を積極的に実現するために、機能的で効果的な組織と財務基盤を整備し、優れた人材の育成に努めます。
- (3) 県民が集い、交流・活動し、やすらぎと潤いのある、安全・安心で、清潔な、また来たいと感じてもらえる快適空間を提供し、県民の共有財産である収蔵資料の保管・管理機能の整備を図ります。

12 関係条例・規則等

(1) 博物館条例

昭和55年7月15日 条例第41号

(設置)

第1条 歴史、芸術、民俗等に関する資料の収集、保管、展示等を行い、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、博物館を次のとおり設置する。

名 称	位 置
岩手県立博物館	盛岡市

(指定管理者による管理)

第1条の2 博物館の管理は、地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条の2第3項の規定に基づき教育委員会が指定するもの（以下「指定管理者」という。）に行わせる。

(指定管理者が行う業務の範囲)

第1条の3 指定管理者は、この条例の規定により指定管理者が行うこととされた業務のほか、次に掲げる業務を行うものとする。

- (1) 施設及び設備の維持管理に関する業務
- (2) その他博物館の利用の促進に関する業務

(入館等の許可)

第2条 博物館に入館しようとする者は、指定管理者の許可を受けなければならない。

2 指定管理者は、前項の入館が次の各号のいずれかに該当する場合は、同項の許可をしてはならない。

- (1) 公の秩序又は善良の風俗に反するおそれがあるとき。
- (2) 施設、設備又は資料を汚損し、損傷し、又は亡失するおそれがあるとき。
- (3) その他博物館の管理上適当でないと認めるとき。

3 指定管理者は、博物館の管理上必要があると認めるときは、第1項の許可に条件を付することができる。

第3条 博物館において、館内の資料の撮影、模写、模造等をしようとする者は、教育委員会の許可を受けなければならない。

2 前条第3項の規定は、前項の許可について準用する。この場合において、同条第3項中「指定管理者」とあるのは、「教育委員会」と読み替えるものとする。

(行為の禁止)

第4条 博物館においては、次に掲げる行為をしてはならない。

- (1) 施設、設備又は資料を汚損し、損傷し、又は亡失すること。
- (2) 指定された場所以外の場所にはり紙若しくははり札をし、又は広告を表示すること。
- (3) 静粛を害し、他人に迷惑をかけること。
- (4) 指定された場所以外の場所で喫煙し、又は飲食をすること。
- (5) 立入禁止区域に立ち入ること。

(入館許可の取消し等)

第5条 指定管理者は、次の各号のいずれかに該当する場合は、第2条第1項の許可を受けた者に対し、当該許可を取り消し、その効力を停止し、同条第3項の条件を変更し、又は行為の中止、原状の回復若しくは博物館からの退去を命ずることができる。

- (1) この条例又はこの条例の規定による処分に違反したとき。
- (2) 第2条第3項の条件に違反したとき。
- (3) 偽りその他の不正な手段により第2条第1項の許可を受けたとき。
- (4) 博物館の管理上必要があると認めるとき。
- (5) その他公益上やむを得ない必要が生じたとき。

2 前項の規定は、第3条第1項の許可について準用する。この場合において、前項中「指定管理者」とあるのは「教育委員会」と、「同条第3項」とあり、及び「第2条第3項」とあるのは「第3条第2項において読み替えて準用する第2条第3項」と読み替えるものとする。

(入館料)

第6条 第2条第1項の許可を受けた者（以下「入館者」という。）は、別表に掲げる入館料を納付しなければならない。

2 前項の入館料は、許可の際に徴収する。

(入館料の免除)

第7条 知事は、次の各号のいずれかに該当する場合は、入館料を免除することができる。

(1) 教育課程に基づく教育活動として、小学校児童、中学校生徒又は高等学校生徒を引率する者が入館するとき。

(2) 身体障害者福祉法（昭和24年法律第283号）第15条第4項の規定により身体障害者手帳の交付を受けている者（15歳未満の者につき、その保護者が身体障害者手帳の交付を受けているときは、当該15歳未満の者）、精神保健及び精神障害者福祉に関する法律（昭和25年法律第123号）第45条第2項の規定により精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者その他規則で定める者が入館するとき。

(3) その他知事が適当と認めるとき。

(入館料の不還付)

第8条 既納の入館料は、還付しない。ただし、次の各号のいずれかに該当する場合は、その全部又は一部を還付することがある。

(1) 第5条第1項第4号又は第5号の規定に基づき指定管理者が入館の許可を取り消したとき。

(2) 入館者の責めに帰することができない理由により利用することができなかつたとき。

(3) その他知事が特別の理由があると認めるとき。

(損害賠償等)

第9条 施設又は設備を汚損し、損傷し、又は亡失した者は、指定管理者の指示するところにより原状に回復し、又は損害を賠償しなければならない。

2 前項の規定は、資料について準用する。この場合において、同項中「指定管理者」とあるのは「知事」と読み替えるものとする。

(博物館協議会)

第10条 博物館法（昭和26年法律第285号）第23条第1項の規定に基づき、博物館に岩手県立博物館協議会（以下「協議会」という。）を置く。

2 協議会は、委員15人以内で組織し、委員は次に掲げる者のうちから任命する。

- (1) 学校教育の関係者
- (2) 社会教育の関係者
- (3) 家庭教育の向上に資する活動を行う者
- (4) 学識経験のある者

3 委員の任期は、2年とする。ただし、欠員が生じた場合における補欠委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(補則)

第11条 この条例の実施に関し、第6条から第9条までについて必要な事項は知事が、博物館の管理その他について必要な事項は教育委員会が定める。

附 則

この条例は、令和5年4月1日から施行する。

別表（第6条関係）

区 分	個 人	20人以上の団体
学生	150円	1人につき80円
一般	330円	1人につき150円

備考1 特別な資料を展示した場合において、その資料を観覧しようとする者については、特別な資料の展示を行うのに要した費用を勘案してその都度知事が定める額（以下「特別入館料」という。）を別に徴収する。

2 幼児に係る入館料並びに小学校児童、中学校生徒及び高等学校生徒に係る入館料（特別入館料を除く。）は、無料とする。

(2) 博物館条例施行規則

昭和55年9月26日 規則第78号

(趣旨)

第1条 この規則は、博物館条例（昭和55年岩手県条例第41号。以下「条例」という。）の実施に関し必要な事項を定めるものとする。

(領収書)

第2条 条例第6条第1項に規定する入館料の領収書については、岩手県立博物館管理運営規則（昭和55年岩手県教育委員会規則第9号）第4条第2項に規定する入館券をもってこれに代えるものとする。

(条例第7条の規則で定める者)

第3条 条例第7条第2号の規則で定める者は、次のとおりとする。

- (1) 知事の定めるところにより療育手帳の交付を受けている者（知的障害者又は知的障害児につき、その保護者が療育手帳の交付を受けている時は、当該知的障害者又は知的障害児）及びその介護を行う者

(2) 条例第7条第2号の身体障害者手帳の交付を受けている者（15歳未満の者につき、その保護者が身体障害者手帳の交付を受けているときは、当該15歳未満の者）若しくは精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者又は前号の療育手帳の交付を受けている者（知的障害者又は知的障害児につき、その保護者が療育手帳の交付を受けているときは、当該知的障害者又は知的障害児）と同等以上の障害があると知事が認める者及びこれらの介護を行う者

(3) 条例第7条第2号の身体障害者手帳の交付を受けている者（15歳未満の者につき、その保護者が身体障害者手帳の交付を受けているときは、当該15歳未満の者）又は精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている者の介護を行う者

（入館料の免除及び還付）

第4条 条例第7条又は第8条の規定により入館料の免除又は還付を受けようとする者（以下「申請者」という。）は、別に定める様式による入館料免除（還付）申請書を知事に提出しなければならない。ただし、知事が別に定める場合にあつては、この限りではない。

2 知事は、前項の入館料免除（還付）申請書を受理したときは、その内容を審査し、入館料を免除し、又は還付することを適当と認めるときは、別に定める様式による入館料免除（還付）承認書を申請者に交付するものとする。

附 則（平成21年3月13日規則第7号）

1 この規則は、平成21年から4月1日から施行する。

2 この規則による改正後の県立学校授業料等条例施行規則、学校施設設備基金条例施行規則、高等学校定時制課程及び通信制課程等修学資金貸付条例施行規則、博物館条例施行規則、岩手県に所有権が帰属する埋蔵文化財の取扱いに関する規則及び美術館条例施行規則（以下「県立学校授業料等条例施行規則等」という。）に規定する別に定める様式は、この規則の施行の日以後に提出し、又は交付する申請書等又は通知書について適用し、同日前に提出し、又は交付した申請書等又は通知書についてはなお従前の例による。

3 この規則による改正前の県立学校授業料等条例施行規則等に規定する様式による用紙は、当分の間、これを取り繕って使用することができる。

（3）岩手県立博物館管理運営規則

昭和55年9月26日 教育委員会規則第9号

（趣旨）

第1条 この規則は、岩手県立博物館（以下「博物館」という。）の管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（休館日）

第2条 博物館の休館日は、次のとおりとする。

(1) 月曜日（国民の祝日に関する法律（昭和23年法律第178号）に規定する休日（以下「休日」という。）に当たるときは、その翌日以後の日であつて当該休日に最も近い休日でない日）

(2) 資料整理日（資料の整理、点検等を行う9月1日から9月10日までの10日間をいう。）

(3) 12月29日から翌年1月3日まで

2 博物館条例（昭和55年岩手県条例第41号。以下「条例」という。）第1条の2に規定する指定管理者（以下「指定管理者」という。）は、必要があると認めるときは、博物館の館長（以下「博物館長」という。）の承認を得て、前項の休館日以外の日において臨時に休館し、又は同項の休館日において臨時に開館することができる。

（開館時間）

第3条 博物館の開館時間は、午前9時30分から午後4時30分までとする。ただし、入館時間は、午後4時までとする。

2 指定管理者は、必要があると認めるときは、博物館長の承認を得て、前項の開館時間及び入館時間を臨時に変更することができる。

（入館許可の申請）

第4条 条例第2条第1項の規定による許可を受けようとする者は、指定管理者が定めるところにより申請しなければならない。

2 指定管理者は、条例第2条第1項の規定による許可をしたときは、指定管理者が別に定める入館券を交付するものとする。

（撮影、貸出等の許可）

第5条 条例第3条第1項の規定による許可を受けようとする者は、別に定める様式による資料撮影等許可（変更）申請書又は別に定める様式による資料貸出許可（変更）申請書を博物館長に提出しなければならない。

- 2 博物館長は、条例第3条第1項の規定による許可をしたときは、別に定める様式による資料撮影等許可書又は別に定める様式による資料貸出許可書を交付するものとする。
- 3 資料の貸出期間は、30日以内とする。ただし、博物館長が特に必要と認めるときは、その期間を延長することができる。
- 4 資料の貸出しを受けた者が、当該資料を汚損し、損傷し、又は亡失したときは、速やかに、別に定める様式による資料汚損（損傷、亡失）報告書を博物館長に提出し、その指示を受けなければならない。

（汚損等の届出）

第6条 施設又は設備を汚損し、損傷し、又は亡失した者は、速やかに、指定管理者に届け出なければならない。

- 2 前項の規定は、資料について準用する。この場合において、同項中「指定管理者」とあるのは、「博物館長」と読み替えるものとする。

（協議会の所掌）

第7条 条例第10条の規定による岩手県立博物館協議会（以下「協議会」という。）は、博物館長の諮問に応じ、次に掲げる事項に関し、調査審議するとともに、博物館長に対して意見を述べることができる。

- （1）資料の収集、保管、展示等に関すること。
- （2）資料の調査研究、利用等に関すること。
- （3）その他博物館の運営に関すること。

（会長）

第8条 協議会に会長を置き、委員の互選とする。

- 2 会長は、会務を総理し、会議の議長となる。
- 3 会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、あらかじめ会長が指名する委員が、その職務を代理する。

（会議）

第9条 協議会は、会長が招集する。

- 2 協議会は、委員の半数以上が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

（補則）

第10条 この規則の実施に関し必要な事項は、博物館長が定める。

附 則（平成21年3月6日教育委員会規則第2号）

- 1 この規則は、平成21年から4月1日から施行する。

- 2 この規則による改正後の岩手県教育教員免許状に関する規則、学校教育法施行細則、岩手県立高等学校の管理運営に関する規則、博物館の登録に関する規則、教育財産管理規則、岩手県文化財保護条例施行規則、岩手県立図書館管理運営規則、岩手県立博物館管理運営規則、岩手県立総合教育センター宿泊施設の利用に関する規則、技能教育施設の指定等の手続きに関する規則、岩手県教育委員会が行う聴聞の手続に関する規則、岩手県教育委員会の所管に属する公益信託の引受けの許可及び監督に関する規則、岩手県教育委員会が保有する個人情報の保護等に関する規則、岩手県立美術館管理運営規則及び岩手県教育委員会行政組織規則の一部を改正する等の規則附則第3項の規定によりなおその効力を有することとされる廃止前の岩手県教育委員会の所管に属する公益法人の設立及び監督に関する規則（以下「岩手県教育職員免許状に関する規則等」という。）に規定する別に定める様式は、この規則の施行の日以後に提出し、又は交付する申請書等又は通知書等について適用し、同日前に提出し、又は交付した申請書等又は通知書等については、なお従前の例による。
- 3 この規則による改正前の岩手県教職員免許状に関する規則等に規定する様式による用紙は、当分の間、これを取り繕って使用することができる。

令和4年度岩手県立博物館年報

令和5年6月1日

編集：岩手県立博物館

〒020-0102 盛岡市上田字松屋敷34

Tel 019-661-2831 Fax 019-665-1214

発行：公益財団法人岩手県文化振興事業団

〒020-0023 盛岡市内丸13-1

Tel 019-654-2235